

ISSN 1343-439X

全日本大学ソフトボール連盟機関誌

ウインドミル

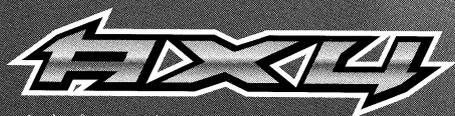
第 16 号



全日本大学ソフトボール連盟

ひと振り で 四重の パワー。

スイング感が異なる
2タイプが新たに登場。



〈ミズノプロ〉AX4 (エーエックスフォー)
【革・ゴムボール用】 ¥39,900 (本体¥38,000)
●カーボンガラス ●φ57mm ●中国製

太めのグリップ、パワーの2TP-523 2TP-52340 (84cm・平均750g) ●グレー (05) / 2TP-52360 (86cm・平均760g) ●グリーン (35)

2011年2月発売



カウンターバランスも追加、シユアな2TP-519 2TP-51940 (84cm・平均700g) ●ゴールド (50) / 2TP-51940 (84cm・平均710g) ●パープル (67)

2011年2月発売



ミズノは、全日本女子ソフトボールチームの
オフィシャルサプライヤーです。



全日本大学ソフトボール連盟

ごあいさつ

全日本大学ソフトボール連盟副会長

中 野 元

一谷宣宏会長の都合によりまして、今回は私から学連機関誌「ウインドミル」第16号の発刊に当たってのごあいさつを申し上げます。

平成24年度の諸行事は、皆さまのご協力とご支援のおかげをもちまして無事終えることができました。この1年を振り返ってみますと、やはり今まで培ってきた諸行事を継続して実施できたことに安堵しています。今年の第47回全日本インカレでは、女子トーナメントがこれまでの24チームから32チームへと規模を拡大しました。このことが、特にこれからのソフトボール競技を大いに活性化させてくれるものと期待しています。また大会運営面では日本体育社と連携し、学生委員の協力を得ながら情報・広報活動を昨年以上に進めました。大学連盟のホームページの内容を一層充実させたように思います。大学の大会が教育の最高学府にふさわしい大会へとさらに発展することを望んでいます。

国際的活動では、第1回東アジアカップ（韓国・大邱市）に女子大学生で編成された日本代表チームが出場しました。韓国、中国、台湾と対戦し、決勝で中国に勝利して見事に優勝を遂げました。これからも、日本の大学生チームが男女ともども国際試合に参加し、貴重な経験を積み上げてくれることを願ってやみません。さらに、学習指導要領の改訂にともない中学校1・2年生の「学校体育」でソフトボールが必修化されました。大学連盟でも、こうした体育授業に寄与できるような各種の取り組みを行っています。これからも、皆さまの練習などでのいろんな工夫や経験を情報提供していただければ幸いです。

最後に、この「ウインドミル」にご協力いただきました皆さま、関係各位に心より感謝申し上げます。同時に、この「ウインドミル」が日本のあるいは国際的なソフトボール活動の中心となってよりいっそう発展していくことを祈念し、ごあいさつといたします。

ウインドミル

第16号

目 次

ごあいさつ ●副会長 中野 元	1
〔巻頭言〕 ●学生とソフトボールと私 副会長 小嶋 高良	4
〔事業報告〕 ●平成24年度の事業報告と今後の活動方針 理事長 高橋 伸次	5
〔特集1〕 ●全日本大学女子代表チーム 東アジアの頂点へ ●東アジアカップ	6
●大会概要	8
●第1回東アジアカップに参加して 高橋 伸次 利根川 勇 他	9
〔特集2〕 ●2012全日本大学男子代表チームニュージーランド遠征 ●全日本大学男子選抜チームの ニュージーランド遠征に参加して	13
丸山 悟	16
●新たな段階に踏み出したNZ遠征 高橋 伸次	18
●NZ遠征での感想および反省と課題点等 石井賀一郎	19
●ニュージーランド遠征雑感 吉末 和也	19
●ニュージーランド遠征に参加して	20
〔研究報告〕 ●目標志向性が自己効力感に及ぼす影響 -大学生ソフトボール選手を対象として- 池田かすみ 高橋流星 他	26
●2012年度ルール改正に伴う投球成績の変化 久保和正 利根川勇 他	29
〔卒業論文〕 ●体育授業におけるソフトボールの扱い方について 浅井麻美	33
全国大会の記録 ●文部大臣杯第47回全日本大学男子選手権大会	39
●文部大臣杯第47回全日本大学女子選手権大会	49
●第58回全日本総合男子選手権大会	58
●第64回全日本総合女子選手権大会	59

共催大会の記録●第27回東日本大学選手権大会	-----	60
●第44回西日本大学選手権大会	-----	62
後援大会の結果●第11回大学ソフトボール東海オープン	-----	64
●第14回千葉オープン・チャレンジカップ		
ソフトボール・フェスティバル	-----	66
●第12回「峠のまち」Matsuida Cup	-----	67
●第9回北信越大学オープン大会	-----	68
●第43回関東大学選手権大会	-----	69
●藤原初男杯第4回		
全国大学・実業団対抗ソフトボール選抜大会	-----	71
各地区の大会結果●北海道・東北地区		
春季大会	-----	72
選手権大会	-----	73
秋季大会	-----	73
●関東地区		
春季リーグ戦	-----	74
選手権大会	-----	76
秋季リーグ戦	-----	77
●北信越地区		
選手権大会	-----	79
新人選手権大会	-----	80
●東京地区		
春季リーグ戦	-----	81
インカレ2次予選	-----	83
秋季リーグ戦	-----	84
●東海地区		
春季リーグ戦	-----	86
選手権大会	-----	90
秋季リーグ戦	-----	91
●近畿地区		
春季リーグ戦	-----	96
秋季リーグ戦	-----	101
●中国地区		
インカレ予選会	-----	106
選手権大会	-----	107
●四国地区		
男子春季大会	-----	108
インカレ予選会	-----	109
秋季大会	-----	109
●九州地区		
春季大会	-----	110
秋季大会	-----	111
調査研究委員会●原稿等の募集	-----	112
●投稿規定	-----	112
広報記録委員会●連盟表彰	-----	113
●第12回東海オープン出場チーム募集	-----	113
●第9回全国国公立大学大会出場チーム募集	-----	115
資料●全日本大学ソフトボール連盟役員名簿	-----	116
●平成24年度加盟大学一覧	-----	118
編集後記	-----	120

【巻頭言】

学生とソフトボールと私

副会長 小嶋高良（八戸工業大学）

私が全日本大学ソフトボール連盟に関わりを持つようになってから既に30数余年が過ぎ去ろうとしている。ソフトボール部の前顧問が体調を崩して大学を退職されたとき、当時の監督（現監督）から「学生と一緒にスポーツを楽しみませんか」と声を掛けられたのがきっかけだった。

私の身体は、当時も現在もスポーツとは程遠く無縁に思われるような肥満体である。その私に声を掛けてきたのであるから、当然のことながら、「私にはスポーツは無理ですから・・・」と丁重にお断りしたのであるが、当時私は30歳前、若さにおいては十分な資格を有していたのである。すぐさま、「技術的なことは私が指導しますので、先生には学生のプレイを見て声をかけて応援していただければ・・・」とのこと。それならばと、当時、監督と同学科所属であったよしみからも、二つ返事で承諾したものである。

本学のソフトボール部は、本学が開設（昭和47年）されて直ぐに学生たちによって創部された本学においては伝統のある部であり、創部した学生たちは熱心に練習し、当時は大学のチーム数も少なく、東北地区のチームでありながら関東大会にまで参加し、第3位になったこともあった。

私が顧問を引き受けた頃は、その学生たちも卒業しており既に在籍しておらず、本学が工学系大学で実験実習が多いことも影響していると思われるが、新たに入部してくる部員が少なく、特に、ピッチャー経験者がおらず、練習も満足にできていない状態であった。

先ず、私が監督と相談をして急いで取った行動は、部員減少の影響で廃部の恐れもあることから、私の研究室の卒研究生をソフトボール部に入部させることであり、そして何とか人数を揃え練習ができる状態に漕ぎ着けることであった。

次は、ピッチャーであるが、これはどうにもならない。経験者がいないばかりか成り手もない。国民的レクリエーションとしての経験はあるが、スポーツ競技としてのソフトボールのピッチャーを大学に入学してから挑戦し、苦勞して練習してみようという学生がでてこない。それでも何とか成り手を探し、監督の指導のもと、投球用のビデ

オを購入し、それを見て練習するが思うようにはなかなかいかない。ストライクが入ってくれない。これには部員たちも分かってはいるが、ピッチャーに頑張ってもらいたいと願う励ましの声がかんたんと小さくなって行ってしまった。

遂に試合当日、私も女房に頼んで選手たちに元気に頑張ってもらおうと、飛び切りのおにぎり弁当を作ってもらい試合場に出かけた。しかし、やはりストライクがなかなか入らない。守備の時間が途轍もなく長く感じられたものであったが、攻撃では野球経験者もいたので、歓喜に沸く場面もあり、非常に楽しい思い出として今でも時々思い出しては苦笑いをする時がある。

それから、30年の年月が過ぎ去り、入部して来た学生は卒業し、また入部して来ては卒業し、年代を重ね続けてきたが、未だに多くのソフトボール部員だった卒業生たちと年賀状等、連絡を取り合っては近況を知らせ合っている。

結婚式にも本当に数多く招待されてきた。今は流石に頼まれなくなったが、以前は仲人まで務めさせていただいたソフトボール部員も多くいた。その度に、その当時の仲間のソフトボール部員たちにも再会でき、交流が続いてきた。また本学ソフトボール部OB会も創立されて久しいが、2年毎に開催されるOB会で、創部時代の部員たちとも知り合い交流を深めてきている。

これらの触れ合い・交流のなかで、私のソフトボールに対する想いは高まるばかりであった。これは、まさにソフトボール部の顧問を引き受けさせていただいた賜物にほかならない。

大学に勤め、講義、卒業研究等の指導を通して学生と触れ合い、交流を深めて行くだけだったかもしれない、スポーツとは無縁だった肥満体の私が、「ソフトボール」に関わりを持つことができたことにより、学生たちと「より深く、より近く、より親しく」触れ合い、交流を深めさせていただいてきたのではないだろうか。

私の大学において長い間かけて築き上げてきた大きな「財産・宝」になっているのではないだろうか、今までのソフトボール部員たちに、心から感謝を伝えたいと思っているところである。

【事業報告】 平成24年度の事業報告と今後の活動方針

理事長 高橋 伸次 (高崎経済大学)

本連盟の主催事業である「文部科学大臣杯第47回全日本大学ソフトボール選手権大会」は、埼玉県協会のご協力のもと、坂戸市、鶴ヶ島市、東松山市、毛呂山町の各会場において東日本大震災復興支援大会として開催されました。今大会から、女子の出場大学数が24から32に増え、男子の32と合わせて64大学が参加する大規模な大会となりました。

男子の優勝は7年ぶり2度目の早稲田大学が、女子は園田学園女子大学が2年連続6度目の栄冠に輝きました。早稲田大学は、安定した投手力に加え、特に前評判も高かった強力打線が大爆発し、5試合中4試合がコールドゲームといった、まさに圧勝でした。そういった中、神戸学院大学は昨年の3位から2位に順位を上げ、中京大学も3年連続3位に入賞する安定した活躍を見せてくれました。また九州共立大学は、初出場ながら昨年・一昨年の優勝校を撃破しての3位は見事であったと思います。一方、園田学園女子大学も、投打のバランスにおいて他を寄せつけず、毎回優勝候補に挙げられる東京の3強をすべて破っての連覇は、「園田」時代の始まりを印象づけるものでした。

また今大会は、チーム紹介欄に顔写真を載せた大会プログラムを初めて作成しました。これまでの情報に加えて一人ひとりの顔が見えることで、来場者にはより身近にチームを感じていただけたのではないかと思います。例年よりも倍の価格設定でしたが、記念写真として購入される方も多く、初日の午前中で完売するという好評さでした。

なお、このプログラムには参加64チームだけでなく、前回から配置するようになったインカレ広報スタッフも「65番目のPRチーム」として掲載しました。選手として参加することの価値とともに、支える立場で大会に参加することの価値や重要さにも気づいて欲しいと思ったからです。今後も、さまざまな役割を担う学生たちの手によって盛り上げていけるインカレにしていきたいと思っています。

共催している東日本・西日本大学選手権大会は、それぞれ岩手県花巻市と愛媛県新居浜市・松山市で開催されました。特に東日本大会は、震災復興支援大会として開催され、来年も引き続き花巻市での開催が予定されています。

また後援大会についても5つの地区で10大会が開催されました。これらは大学ソフトボール界全体の底辺の拡大やレベルアップに役立ててもらったためのものです。その効果か、インカレでのコールドゲーム数に減少傾向が見られます。今後も強力に支援していきたいと考えています。

国際関係では、日本協会派遣事業として、大学女子代表チームが韓国(テグ)で開催された「第1回東アジアカップ」に出場しました。この大会は、日本・中国・台湾・韓国の4カ国が集まり、各国のさらなるレベルアップと、「東アジア競技大会」でのソフトボール競技の参入を目指して創設されたものです。また、それを足掛かりに「東アジアからオリンピック復帰へのムーブメントを起こしていこう」とのねらいもあります。

各国とも代表チームが参加する中、大学女子代表チームは予選リーグの中国戦を落としたもののその後は連戦連勝し、記念すべき第1回大会の覇者となりました。まさに、大学女子のレベルの高さを例証することができた大会となりました。なお最終順位は2位中国、3位台湾、4位韓国でした。次回は日本で開催されますが、大学女子代表チームは日本代表チームとともに出場する予定になっています。

また男子では、厳密には平成23年度の事業ではありませんが、平成24年2月に選抜チームをニュージーランド(NZ)に派遣しました。今回は、日本の国体に相当するNZ国内でも権威のある「National Fastpitch Championship」に参加し、8チーム中6位(4勝5敗)と健闘しました。世界最高レベルのNZソフトから多くのものを学んだ選手たちは、インカレ等でも活躍し、男子ソフトの活性化に貢献してくれています。大学男子のカテゴリーに国際試合を経験する機会がほとんどない中、今後も積極的に企画していきたいと考えています。

最後になりましたが、本連盟の主催・共催・後援大会の開催にあたりご尽力賜りました日本協会、各地区の主管協会はじめ多くの関係者に厚くお礼申し上げます。来る平成25年度の事業においても、今年度の反省を踏まえて、大学連盟のより一層の発展のため全力で取り組む所存であります。今後とも、関係者の皆様の絶大なるご支援・ご協力をお願い申し上げます。

【特集1】 全日本大学女子代表チーム 東アジアの頂点へ

●東アジアカップ

本大会は、日本、中国、台湾、韓国の4カ国が参加して行われる国際大会で、国際的に見てもソフトボールが盛んで競技力の高い東アジア地域の4カ国が集まり、さらなるレベルアップを図るとともに、オリンピック、アジア競技大会等と同じように「総合競技大会」として開催されている「東アジア競技大会」でのソフトボール競技の実施をめざし、創設された大会である。また、それを一つのステップとして、「東アジアからオリンピック競技復帰へのムーブメントを起こしていこう」との狙いもあり、この韓国・大邱での「第1回大会」の開催を皮切りに、来年は日本、次に中国、その次が台湾と4カ国持ち回りでの開催が予定されている。

大会には、日本を除く3カ国が代表チームで参加。特に、中国、台湾は、この「第1回東アジアカップ」の後、7月13日(金)～22日(日)、カナダ・ホワイトホースで開催される「第13回世界女子選手権大会」の「前哨戦」としてとらえ、「ベストメンバー」で大会に臨んできた。日本は、「女子日本代表」に次ぐカテゴリーである「女子大学日本代表チーム」が大会に参加。各国の「代表チーム」を相手に「若き戦士たち」が戦いを挑んだ。

「女子大学日本代表」は開幕戦こそ敗れたものの、各国の代表チームを相手に堂々の試合を展開。予選リーグを2勝1敗の2位で通過し、決勝トーナメントへコマを進めると、決勝トーナメントの初戦で予選リーグ1位の中国と対戦。先発泉礼花(園田学園女子大学)が緩急自在のピッチングで「優勝候補」中国を完封。一足先にゴールドメダルゲーム(優勝決定戦/決勝)進出を決め、ゴールドメダルゲームでは敗者復活戦を勝ち上がった中国と再戦。先攻を取った女子大学日本代表は初回、4本の長短打を集中する鮮やかな先制攻撃で2点を先制。4回表には舩田妃美呼(山梨学院大学)、岩見香枝(日本体育大学)、塚本智名(中京大学)の3連続長短打で2点を追加。先発・泉

礼花(園田学園女子大学)、三木綾菜(日本体育大学)、長谷川朋子(中京大学)、平原かすみ(東京女子体育大学)の4投手をつぎ込む継投策で中国打線の反撃を2点に抑え、記念すべき第1回大会を制し、「初代チャンピオン」の座を勝ち獲った。

大会を終え、利根川勇ヘッドコーチ(日本体育大学)は、「三科コーチの東京国際大学で直前合宿を行えたことが大きかった。太陽誘電・山路典子監督の好意もあり、日本のトップレベルのチームを相手に勉強させていただく機会を得たことに大きな意義があった。雨で予定していた内容を大幅に変更せざるを得なかったのは残念であったが、それでもトップレベルのチームを相手に実戦形式の練習を行う機会を得たことで、選手の個々の能力や適性、特徴を確認・把握することができ、大会へ臨む準備をしっかりと積むことができた」と直前合宿の意義を語り、「大会では、最初は各国の代表チームが相手とあって、どこまでやれるか不安なところもあったが、初戦の中国戦で接戦を演じられたことで、ある程度の手応えが感じられ、その後はノビノビと持てる力を発揮することができた。今大会で優勝したとはいえ、まだまだ未完成で伸び盛りの大学生。この経験を糧に、さらに鍛え、成長し、もう一つ上のカテゴリー『日本代表』に名を連ねるような選手になってほしい」と、今大会の優勝を喜びながらも、選手たちの「今後の成長」に期待する言葉を続けた。

但尾哲哉コーチ(神戸親和女子大学)は、「大会直前に宿泊を伴う合宿を行うことで、選手同士のコミュニケーションを図ることができ、チームの一体感、まとまりが生まれた。大会では、利根川ヘッドコーチの指揮の下、選手たちが持てる力を十分に発揮し、それぞれの与えられた役割を果たし、優勝を勝ち獲ることができた。選手たちは一戦一戦成長し、強くなっていった。その選手たちの力を引き出す、利根川ヘッドコーチの手腕も『さすが』と感じた」と、「利根川マジック」と

称される采配・選手起用を間近にし、改めて感じ入った様子。「第1回大会を制したことで、第2回大会をどう戦い、どう勝つかという課題も生じた」と、その目はすでに「新たな目標」を見据えていた。

三科真澄コーチ兼総務(東京国際大学)は、「まず『日本代表』として日の丸を背負い、戦うことの意味、重さ、自覚を感じてほしかった。その意味でも、選手たちは本当に素晴らしかったし、優勝という結果を勝ち獲ることができて良かった」と、自らも「日本代表」として戦い続けてきた「先輩」として、「良き伝統」を継承できたことを喜びながら、「この大会を戦った17名は、文字通り大学の『トッププレイヤー』として、今後はすべての大学生の見本・手本となるようなプレイを見せていかなければならないし、普段の私生活においても模範となるような行動を心がけていく必要がある。『日本代表』に名を連ね、戦った者は、その誇り、プライドを片時も忘れてはならない。また、今回の大会に臨む代表選手を選出する選考会にあれだけ多くの参加があり、夢叶わなかった選手の『想い』まで背負っていく使命と責任があることを忘れず、今大会の経験を今後に生かして行ってほしいと思う。今回、惜しくも選に漏れた選手たちも、夢を諦めることなく、チャレンジを続け、追いつき追い越せの精神で頑張してほしい」と、すべての選手たちに「エール」を贈った。

各国の代表チームを相手に「優勝」という「快挙」を成し遂げた女子大学日本代表。改めてそのポテンシャルの高さを感じさせた。日本リーグで戦う選手たちとはまた違った面で多くの魅力と可能性を秘めた選手たちである。

この経験を糧に、さらなる成長を期待し、自分自身が「もう一つ上」のカテゴリーで真の「日本代表」となることをめざすと同時に、将来指導の現場でこの貴重な経験を多くの人々に伝えてほしいと願う。ソフトボールの楽しさ、面白さ、魅力、難しさ、奥深さ……それを伝えていくことこそが、この「東アジアカップ」創設の理念に適

うものであるはずである。(註：この項は(公財)日本ソフトボール協会のHPから転載させていただきました。)

●日程等

◇選手選考会

選考日：4月20日(金)～22日(日)

開催場所：静岡県伊豆市天城ドーム

◇事前合宿

開催期間：6月12日(火)～13日(日)

開催場所：埼玉県坂戸市東京国際大学グラウンド

◇本大会

遠征期間：6月13日(日)～18日(月)

大会期間：6月15日(火)～17日(日)

開催場所：韓国・大邱(テグ)

●派遣選手

No.	守備	氏名	所属	UN	年
1	投手	泉 礼花	園田学園女子大学	16	3
2	〃	長谷川 朋子	中京大学	19	3
3	〃	平原 かすみ	東京女子体育大学	18	3
4	〃	三木 綾菜	日本体育大学	17	3
5	捕手	澤井 美佑	日本体育大学	2	2
6	〃	妹山 玲奈	山梨学院大学	15	3
7	内野手	岩見 香枝	日本体育大学	4	2
8	〃	亀井 愛梨	園田学園女子大学	5	2
9	〃	相馬 満利	日本体育大学	6	4
10	〃	二階堂 夏帆	日本体育大学	14	3
11	〃	古澤 春菜	園田学園女子大学	12	2
12	〃	山本 絵梨奈	東京女子体育大学	13	2
13	〃	山本 紗耶加	東北福祉大学	11	4
14	外野手	塚本 智名	中京大学	8	2
15	〃	永溝 早紀	環太平洋大学	7	4
16	〃	長谷川 千尋	鈴鹿国際大学	9	3
17	〃	舛田 妃美呼	山梨学院大学	1	4

●スタッフ

団 長：高橋 伸次 (高崎経済大学)

ヘッドコーチ：利根川 勇 (日本体育大学)

コ ー チ：但尾 哲哉 (神戸親和女子大学)

コーチ兼総務：三科 真澄 (東京国際大学)

トレーナー：大石 益代 ((公財)日本協会)

帯同審判：濱田 良雄 ((公財)日本協会)

●個人賞受賞者

最高殊勲選手賞：塚本 智名(中京大学)
 最優秀打撃賞：山本 紗耶加(東北福祉大学)
 最優秀投手賞：泉 礼花(園田学園女子大学)
 ベストナイン(外野)：長谷川千尋(鈴鹿国際大学)

●総評

国際ゲームの経験がない選手が大半の中で、一戦一戦選手もチームも成長をした。

慣れない環境の中で、また対戦相手がナショナルチームとあって緊張した雰囲気での大会が始まった。初戦ではサインの見落とし、サイン理解の違いでリズムがつかみきれなかったが、監督の丁寧な説明から徐々に戦い方が浸透し一戦ごとに強くなっていくことを実感した。最終戦では攻守ともにバランスよくスコア以上に安定した試合であった。

第 1 回 東 ア ジ ア カ ッ プ に 参 加 し て

団長 高橋 伸次(高崎経済大学)

あくまでチャレンジャーとして臨んだ大会でしたが、各国の代表チームに対しても怯まない若さと明るさは、最後まで声を絶やすことなく、チーム全体の動きにリズムと勢いをもたらしました。気がつけば、いっきに頂点に駆け上がっていました。各国とも、学生チームがここまでやるとは思っていなかったのではないのでしょうか。

今回の優勝は、日本ソフトボールの強さを改めて認識させると同時に、大学ソフトボールのレベルの高さをも例証する結果となりました。

大会を終え、韓国協会のキム会長をはじめ多くの関係者から日本チームは称えられました。それは日本の勝利に対してだけではなく、礼儀正しさや試合におけるマナー、また試合後のダグアウト内の清掃など、学生のスポーツに対する真摯な態度に向けられた称賛でした。そのことが、何よりも誇らしいことでした。

今回、大学のカテゴリーにこうした貴重な機会を与えていただいた日本協会、また多くの関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

ヘッドコーチ 利根川 勇(日本体育大学)

今大会に学生の日本代表を出場させていただいた関係各位、大会直前合宿に、御協力いただいた「東京国際大学」・「太陽誘電」に先ずもって御礼申しあげます。直前合宿は、あいにくの悪天候でしたが、それでもトップレベルのチームを相手

に実践形式の練習ができ、その中で選手の能力や適性、特徴を把握することで戦いの準備ができました。

本大会では、各国の代表チームを相手に、不安ありましたが初戦の中国戦で接戦を演じてくれ、手応えを感じました。その後は、選手たちも伸び伸びと持てる力を発揮することができ優勝へと繋がりました。この経験を活かし、さらに鍛え、成長し、もう一つ上のカテゴリー「日本代表」に名を連ねてくれることに期待をします。

コーチ 但尾 哲哉(神戸親和女子大学)

素晴らしいコーチングスタッフ、また選手の下、私自身が貴重な経験をさせて頂きました。

戦いへの準備・戦いへの入り方・戦い方・一戦を終えて・大会を終えて、大変勉強になりました。これは、選手も同様に感じてくれたと思います。是非、この貴重な経験を自身のものとし、さらに飛躍してくれることを願っています。このような機会を与えていただいた関係各位の方々に心より御礼申し上げます。

コーチ兼総務 三科 真澄(東京国際大学)

「日本代表」として日の丸を背負い、戦うことの意味、重さ、自覚を感じてほしいと思っていました。その意味でも、選手たちは本当に良く頑張りました。今後は、代表選手としてのプライドを持ちながら、この経験を活かし大学ソフトボール

を牽引すべき選手として活躍してくれることに期待をします。最後に、大変お世話になりました関係者の方々に御礼申し上げます。有り難うございました。

トレーナー **大石 益代**(日本協会)

今回、日本選手団のトレーナーとして1週間帯同させて頂いた。国内で強化合宿1日と現地で数時間の練習のみで大会本番に臨むという厳しい状況下で、試合を重ねながらチームらしくなっていく、機能していった感があった。短期間ではあったが、ケガを未然に防ぐための「準備」も含め、セルフコンディショニングの重要性を伝授したつもりである。大学生個々の強さも弱さも感じた遠征。貴重な経験を生かし益々進化してほしいと思う。

帯同審判員 **濱田 良雄**(日本ル協会)

初めての国際大会への派遣の話が審判委員長からあり、直ぐ返事をしてしまった私。もともと小心者のため、段々と受けたことがプレッシャーになってきていた。しかし、そのプレッシャーも役員、スタッフ、選手の皆さんのお陰で取り除かれたことが、この大会の帯同審判員としての役目を果たすことが出来たと感謝しています。縁あって知り合った皆さんとソフトボールを通じて何処かで会えることがまたあると思いますので、その時は声を掛けて下さい。東アジア大会で経験したことが、これからの審判活動に活かされるよう頑張っていきます。

泉 **礼花**(園田学園女子大学)

この大会に参加出来、また試合に出させて頂いたことで、沢山のことを学びました。良い選手、チームであるためには、最高のパフォーマンスを発揮するためにしっかり準備すること、信頼関係を築くこと、どんな場面でも強い気持ちで度胸あるプレイすることを学びました。国際大会という普段とは違う戦いの中で、マウンドに立つ責任感、勝つという強い気持ち、他者や自分のためにも投げ抜く気力と気迫、そういった心構えが必要だと

わかりました。この経験を生かし、さらにパワーアップすることでこの大会に関わってくださった皆様へ恩返しをし、また自チームにも今後のソフトボール界にも貢献していきます。

長谷川 **朋子**(中京大学)

代表に選んで頂き、始めは嬉しい気持ちばかりでした。しかし、日を重ねるにつれて、日の丸を背負うことへの責任の重さを感じました。初めて一緒にプレイする人ばかりだったので、コミュニケーションをとることを大切にしました。キャプテンを中心として、とても雰囲気の良いチームを作ることが出来ました。勝てた試合も内容は厳しいものばかりでしたが、心からソフトボールを楽しめました。この経験を活かし、大学ソフト界を盛り上げていきたいです。

平原 **かずみ**(東京女子体育大学)

今大会で優勝という結果を納めることが出来たのは、利根川先生をはじめこの大会に関わり御協力を頂いた方々のお陰だと改めて感じ感謝の気持ちでいっぱいです。大会を通して、全日本の選手である前に、「人としてどうあるべきか」を学ぶことが出来ました。普段はライバルでもある選手と同じチームで戦ったり、海外の選手と対戦したり、貴重な経験が沢山できました。経験だけでは終わらせず自分のチームで活かし、私達がリーダーになり、自分自身のレベルアップ、日本の大学のソフトボールが更にレベルアップするよう、努力していきたいと思います。ここで出会った全ての人に感謝しています。ありがとうございました。

三木 **綾菜**(日本体育大学)

今回この大学JAPANの一員になれたことは私にとっておおきな経験になりました。

ピッチャーとしての役割りで、先発、中継ぎ、抑えの大切さが分かりました。プレイ面はもちろん、コミュニケーションの大切さも学びました。このチームでプレイ出来たことをこの遠征でお世話になった人達に感謝し、これからもソフトボールを続けていきます。ありがとうございました。

澤井 美佑(日本体育大学)

今回東アジアカップに出場させていただくことができ、多くのことを学ぶことができました。各大学でのやり方や考え方がある中で、意志を統一するというは難しく戸惑いもありましたが、とても良い経験になりました。改めてソフトボールの楽しさ、チームワークの大切さを実感することができました。素晴らしい経験をさせていただいたことに感謝し、この経験を自チームで活かせるよう努力していきます。

妹山 玲奈(山梨学院大学)

大学日本代表に選ばれた経験は、貴重な時間でした。技術だけでなく色々な意味でレベルの高い選手の方々とともにプレイをし、短期間でチームを作り上げるのは初めてのことばかりでしたが、たくさんを学ぶことができました。悔しい思いもしましたが、私は今まで以上にソフトボールが好きになりました。しかし、帰ってきてから本当の勝負だと思えます。周りから見られ、評価されることを自覚しこれからも頑張っていきたいと思っています。

岩見 香枝(日本体育大学)

本当に多くの方々の御尽力のおかげで、記念すべき第1回大会で優勝ができたことに大変感謝しています。今大会を終え、私は自分自身の精神的未熟さを感じました。チャンスで1本出せる選手、ピンチでチームを救える選手、本当に素晴らしいと思い、私もそのような場面で信頼される選手になりたいと強く思いました。多くの方々に感謝し、今回得たことを自分のものにできるよう精進して参ります。

亀井 愛梨(園田学園女子大学)

初めて日本代表という立場で大会に出場し、自分にとって貴重な経験になりました。やはり外国人と比べると日本人は体も大きくありません。でも、その分技術がある日本は、体が小さくても通用したと思います。外国人は打球も速くて引っ張るバッターが多く、いつもと守備位置が違うため

にとっても守りにくかったです。試合に出るチャンスはあまりなかった分、「見て」・「聞いて」沢山のことを得ることができました。私自身に不足していた、日々の生活や練習からソフトボールに対する意識や取り組みを変えることで、今までよりも進歩できると感じました。まだまだ成長していく中で、この経験をしっかり活かし、これからは今よりもっと大学ソフトボールを盛り上げていけるように頑張っていきたいと思っています。

相馬 満利(日本体育大学)

この度、素晴らしいコーチングスタッフの方々や仲間達と一緒にソフトボールをすることが出来、大変嬉しく思います。ありがとうございました。第1回東アジアカップで優勝するプレイが出来「大学生でもやれる」というプレイをアピール出来、内心ホッとしています。これから技術面はもちろんですが、人としても魅力ある人になれる様取り組んでいきたいと思っています。そして、大学の大会で激闘を重ねソフトボール競技をメジャーにし、沢山の方に夢や感動を与えられる様、頑張っていきたいと思います。

二階堂 夏帆(日本体育大学)

今回、大学の日本代表のメンバーに選んで頂き、あのチームでプレイをし、優勝という結果を残せて本当に嬉しかったです。自分にとって新しい経験ばかりで全てが勉強でした。このようなチャンスを頂けたことや、様々な人々が色々な場所で自分たちを支え応援してくれたことに、すごく感謝していて、何よりもその気持ちが一番強いです。この経験を無駄にせず、夏のインカレやこれからに生かし、まだまだ向上心を持ち、成長していきます。

古澤 春菜(園田学園女子大学)

「大学日本代表」という名で、国際大会に参加するのは初めてでした。海外の選手の体格・パワー・プレイスタイルの違いをすごく感じ、すべて力でプレイしているといった印象を受けました。自分達の体格では外国人選手に劣ってしまう分、

技術を磨き、強い精神力、気持ちの強さを身に付けることで結果は自ずとついてくると思います。

また、会場にアップ場所がないためホテル周辺でアップをしてから出発ということもありました。トレーナーさんから、こういうことは海外の試合では普通にあると教わりました。多くの方に支えられていることに感謝し、この経験を活かし次へのさらなる進化をとげたいと思います。

山本 絵梨奈(東京女子体育大学)

第1回東アジアカップで優勝することが出来たのは利根川先生をはじめとするスタッフの方々や応援して下さった方々、そして17名のメンバーのおかげだと、心より感謝しています。私自身、初の代表入りでまだまだ力不足を感じた大会となりましたが、技術面だけでなく代表として日の丸を背負って戦う責任や人間的にも成長出来た1週間でした。今後は自チームで日本一になることを目標に、日々努力していきたいと思います。

山本 紗那加(東北福祉大学)

今回、日の丸を背負ってプレイすることができとても貴重な経験をする事ができました。何よりも強く感じたことは、昨年の大震災から1年3ヶ月しかたっていない今、このように異国の地でスポーツをすることができることへの有り難さです。たくさんの方の支えがあったからこそこのような結果を出す事ができたのだと思います。応援して下さった方、関係者の方々に感謝したいと思います。また国際大会を経て、自分に足りないものがわかったように感じます。今後の活動に活かしていきたいと思います。

塚本 智名(中京大学)

私は日本代表に選んでもらえたことに感謝しています。世界と戦うことの楽しさと不安もありましたが、自分の力を試す事ができました。世界の選手とはプレイスタイルや体格が違いましたが、自分の持てる力を出す事ができた部分もあります。しかし、課題も見つかりました。このチーム

で優勝した瞬間は心から感動しました。金メダルとMVPを頂けたことは、私の宝物です。感謝の気持ちを忘れず日々成長すべく努力していきます。

永溝 早紀(環太平洋大学)

大学日本代表として、第1回東アジアカップに参加させて頂いた中で、様々なことを感じ、学び、そして得ることが出来ました。この大会を通してすべてのことが自分自身を見つめ直すきっかけとなり、自分に足りない多くものに気付かされました。この経験を広め、大学ソフトボール界をより盛り上げるべく努力していきます。今回、このような機会を与えて下さったことに、また多くの方々のご尽力に感謝しています。本当にありがとうございました。

長谷川 千尋(鈴鹿国際大学)

合宿、大会は6日間と短いものでしたが、ソフトボール以外のこともたくさん学ばせて頂きました。今大会で感じたことはスピードの違いです。足の速さであったり、捕球してから送球までの速さは見習う点であったと思います。また、短期間だけのチームではありましたが、チームメイトとしっかりコミュニケーションがとれたことにより、日増しに一つのチームになって勝利することが出来たと思います。しかし、この金メダルはご支援とご協力があったのものということを忘れずに感謝の気持ちを持ち、今後も精進して参ります。

榎田 妃美呼(山梨学院大学)

今回大学日本代表に選ばれてとても良い経験ができて感謝の気持ちでいっぱいです。短期結成でのチーム作りや慣れない采配で戸惑うこともありましたが、しかし、この短い時間の中で如何にコミュニケーションが大切か、細かい確認や準備の必要性に気付きました。高いレベルの中で素晴らしい監督、コーチ、トレーナー、選手の仲間と試合ができたことを誇りに思います。この大会を一つの通過点とし、学んだことを生かしながらこれからも成長していけるように頑張ります。

【特集2】 2012全日本大学男子代表チームニュージーランド遠征

●日程：2012年2月12日(日)～24日(金)

- 12日 関西空港（結団式）→オークランドへ
- 13日 オークランド→ウェリントン
ハットバレー市役所・NZ協会へ表敬訪問
- 14日 レスター、ケビン両氏の墓参・ソレンソン氏の講義と技術指導・練習試合
- 15日 大使館へ表敬訪問・練習試合・監督会議
- 16～19日 National Fastpitch Tournamentに参加
- 20日 ウェリントン→ロトルア マリオ文化体験
- 21日 ロトルア→ワイトモケープ→オークランド
鍾乳洞や土ホテルの観察と親善試合2試合
- 22日 オークランド市内観光 ホームステイ
- 23日 ミッションベイ観光 深夜関西空港へ
- 24日 関西空港到着（解団式）

●派遣選手

No.	守備	氏名	所属	UN	年
1	投手	立石 壮平	日本体育大学	42	3
2	〃	堀田 拓郎	日本体育大学	35	2
3	〃	片岡 涼	中京学院大学	37	2
4	〃	深津 悠平	中京大学	36	2
5	〃	乗本 真視	立命館大学	34	3
6	捕手	中西 康太	日本体育大学	28	3
7	〃	和田 隆太	中京大学	33	2
8	〃	高橋 宏征	立命館大学	34	3
9	一塁手	遠藤 大輔	日本体育大学	40	2
10	〃	芝 大紀	中京学院大学	38	2
11	二塁手	池見 郁哉	中京学院大学	21	3
12	〃	植田 貴也	京都産業大学	44	3
13	三塁手	太田宗之助	早稲田大学	29	3
14	〃	和田 亮磨	神戸学院大学	32	3
15	遊撃手	古敷谷 亮	日本体育大学	39	2
16	〃	吉田 和史	中京学院大学	41	3
17	〃	田中 和馬	福岡大学	43	3
18	左翼手	金井塚和希	高崎経済大学	13	3
19	中堅手	深谷 祐太	日本体育大学	25	3
20	〃	川原 光	中京学院大学	19	3
21	〃	平山 将司	熊本学園大学	46	3
22	右翼手	山崎 正晴	日本体育大学	45	2

●スタッフ

- 団 長：丸山 悟（日本福祉大学）
- 副 団 長：高橋 伸次（高崎経済大学）
- 監 督：石井賀一郎（中京学院大学）
- コ ー チ：高橋 流星（日本体育大学）
- 総 務：吉末 和也（関西大学）

●National Fastpitch Tournament

本大会はNZ各州の代表チームが優勝を争う日本でいえば国体のような大会で州の代表8チームと大学JAPANの9チームで総当たりの試合が行われた。（註：以下の報告は高橋流星コーチによる。）

◆2/16（大会第1日）予選リーグ第1試合

Counties/Waikato 0 0 1 0 0 0 : 1
Japan Universities 0 2 0 0 1 x : 3

[JU]○深津－中西（本）山崎（三）植田

【評】後攻の選抜チームは、深津悠平投手（中京）が先発。初回、ストライクゾーンの違いから先頭打者、2番打者に連続で四球を与え制球に苦しむも得点を許さなかった。裏の攻撃では、二死から3番植田貴也二塁手（京都産業）が三塁打を放ち先制のチャンスを作るが惜しくも得点にはならず。二回裏、先頭の5番DPの立石壮平選手（日体大）が内野安打で出塁。続く6番中西康太捕手（日体大）の犠牲バントで代走（DR：NZ独自の走者専用選手）の和田亮磨選手（神戸学院）が二塁に。このチャンスに7番山崎正晴左翼手（日体大）がセンターのフェンスを越えるツーランホームランを放ち、2点を先制。三回の表には失策が絡み1点を失うも、五回の裏には1点を追加し、時間コールドで1勝目を挙げた。

◆2/16（大会第1日）予選リーグ第2試合

Wellington 1 0 0 0 0 0 : 1
Japan Universities 0 0 0 0 0 0 : 0

[JU]●堀田・立石－中西（二）植田

【評】大会1日目、トリプルヘッダー2試合目の対戦相手は昨年準優勝の“Wellington”チーム。

後攻の日本は、堀田拓郎投手（日体大）が先発。初回、先頭打者に安打、盗塁を許すも、2番Raemaki選手を打ち取り一死に。続く3番Makea選手が

二塁打を放ち、セカンドランナーがホームイン。惜しくも先制を許してしまった。即座に5番DPの立石壮平選手(日体大)が投手を兼務登板し、追加点を許さなかった。

日本は三回裏、二死から1番山崎正晴左翼手(日体大)が四球を選び出塁。続く2番吉田和史遊撃手(中京学院)のシングルヒットで走者山崎が三塁に進むも後続が打ち取られ、このチャンスを活かさず。六回裏、3番植田貴也二塁手(京都産業)が二塁打を放つなど、得点圏にランナーを進めるもMakea投手に代わったTane投手を打ち崩せず、惜しくも無得点に終わり、120分ゲームのTime-upとなった。

◆2/16(大会第1日)予選リーグ第3試合

Auckland 4 1 1 0 0 1 0 : 7
Japan Universities 0 0 0 5 0 1 0 : 6

[JU]●片岡・堀田ー中西 (本)高橋

【評】トリプルヘッダー最後の試合は2戦を7ー0、11ー4の2連勝と勢いに乗る“Auckland”。NZ代表選手が多くいる強豪チームであった。

日本の先発は片岡涼投手(中京学院)が先発。2番Nathan(NZ代表)を四球で出してしまう、3番Patrick(NZ代表)にレフト前ヒット、4番Thomas(NZ代表)に左中間にタイムリーツーベースヒットを打たれ2失点。続く5番Kurtにレフトヘッサーランホームランを浴び、初回に4失点。2回には、エラーで出塁させたランナーをThomasに再びセンター前のタイムリー。3回から堀田拓郎投手(日体大)に変わったが、ヒットと犠牲フライで1失点してしまう。

しかし、4回日本の攻撃、3番植田貴也二塁手(京都産業)が四球で出塁し、4番川原光中堅手(中京学院)がライト前ヒット、5番DP立石壮平選手(日体大)のライト前タイムリーヒットで二塁ランナーの植田が生還。続く7番高橋宏征右翼手(立命館)がレフトへ3ランホームランを放ち3点追加。さらに9番遠藤大輔一塁手(日体大)が四球で出塁し、1番山崎正晴左翼手(日体大)のライト前ヒットで一三塁のチャンス、2番吉田和史遊撃手(中京学院)の5球目にダブルスチールを行い、山崎選手が挟まれる間に三塁ランナーの遠藤選手が生還し、

この回一挙に5点を奪った。

Dia3は、ナイター設備がないため、5回表からナイター設備のあるDialに移動して試合を再開した。6回に1点ずつ取り合ったが、6ー7で勝利できなかった。

◆2/17(大会第2日)予選リーグ第4試合

Japan Universities 1 0 3 0 0 2 0 : 6
Southern Pride 0 0 0 0 0 5 0 : 5

[JU]○深津・堀田ー中西 (本)植田

(三)吉田 (二)川原

【評】先攻の日本は初回、二死から3番植田貴也二塁手(京都産業)が初球を打ちに行き、その打球はレフトを超えるホームラン!! 植田のソロ本塁打で貴重な先制点を奪った。守っては先発の深津悠平投手(中京)が1回の裏を3人でピシヤリと抑える好投。

3回の表、先頭の2番吉田和史遊撃手(中京学院)が放った二塁打の処理で右翼手が送球ミス。その間に打者走者の吉田選手がホームイン。さらに、一死から4番川原光中堅手(中京学院)がライト前ヒットで出塁。またしても右翼手が打球の処理を誤り、敵失で一気に三塁へ進み、続く番DP立石壮平選手(日体大)の放った打球の処理を一塁手が手間取り、打者走者の立石選手は二塁に進塁。そして、この間にサードランナーの川原選手が生還。なおも6番中西康太捕手(日体大)の打席の4球目、捕逸の間にセカンドランナーのDR太田宗之祐選手が三塁へ進塁し、センター前タイムリーで3点を奪った。6回の表には2点を追加した。しかし、6回裏では5本の長短打にエラーがからみ5失点。日本は、6回途中から堀田拓郎投手(日体大)がリリースし、最終回を無得点に抑えた。

◆2/17(大会第2日)予選リーグ第5試合

Japan Universities 0 1 1 0 0 0 0 : 2
Canterbury 1 0 1 3 0 1 x : 6

[JU]●立石ー中西 (三)植田 (二)和田

【評】続く選抜チームの対戦相手は昨年度優勝チームの“Canterbury”。日本の先発は立石壮平投手(日体大)。

先攻の日本は初回、3番植田貴也二塁手(京都産業)が三塁打を放ち先制点のチャンスを作るも、惜

しくも得点ならず。裏には2安打を浴び、1失点。先制を許してしまった。続く2回表、日本の攻撃では、5番立石選手が四球を選び出塁。DRの田中数馬選手(福岡大)が二盗に成功。二死から8番和田亮磨三塁手(神戸学院)がレフトヘタイムリーヒットを打ち、田中選手が生還。1-1と同点に。

日本は3回表1番山崎正晴左翼手(日体大)が四球を選び出塁。続く2番吉田和史遊撃手(中京学院)が犠牲バントを成功させ、山崎選手は二塁に進塁。3番植田貴也二塁手(京都産業)が振り逃げ三振となり、一塁ベースに捕手が送球した間に二塁走者の山崎選手が一挙にホームに生還し逆転に成功した。しかし、その裏には二死からヒットを浴び、四球で出塁したランナーに同点となる得点を許してしまった。

4回の裏、守りの日本は先頭打者の4番にソロ本塁打を浴び、さらに犠牲バントの処理をエラーしてしまうなど、この回一気に3点を奪われリードされた。

何とかして逆転したい選抜チームでしたが、4回から登板したNZ代表候補Penese Iosefo投手の125km/hを超える球速に対応できず、6つの三振を奪われ、その後は二塁すら踏めなかった。

◆2/18(大会第3日)予選リーグ第6試合

Japan Universities 0000000 : 0
North Harbour 000001x : 1

[JU]●堀田-中西

【評】予選リーグ最終日となる3日目はトリプルヘッター。選抜チームの対戦相手は“North Harbour”。日本は、堀田拓郎投手(日体大)が先発。

5回表、この回先頭の5番DP立石壮平選手(日体大)がヒットで出塁。続く6番中西康太捕手(日体大)もヒットを打ち、この間に一塁DR走者の太田宗之祐(早稲田)選手が三進。無死一・三塁と絶好のチャンスを作る。続く7番和田亮磨三塁手(神戸学院)が四球を選び出塁。無死満塁となおも得点のチャンスが続いたが、後続が左飛、2三振とチャンスを逃してしまう。

日本は6回の裏、ヒットで出塁した先頭打者に二盗を許し、その後のヒットの間にセカンドランナーが生還。重い1点を先制されてしまった。

何とかして得点を奪いたい日本であったが、相手チームの継投策に投手を攻略することが出来ず、堀田投手の被安打3、5奪三振の好投に貢献できず、0-1で惜敗した。

◆2/18(大会第3日)予選リーグ第7試合

Japan Universities 0000030 : 3
Hawkes Bay 0000000 : 0

[JU]○片岡-中西 (二)山崎

【評】続く試合の対戦相手は“Hawkes Bay”。先発は2011インカレを制した片岡涼投手(中京学院)が登板。相手投手は、Regan Manley投手で125km/hを超える速球派の投手であった。

0-0で迎えた6回表、先頭の9番太田宗之祐三塁手(早稲田)の放ったセフティーバントをサードがエラー、二塁に進塁。続く、1番古敷谷亮二塁手(日体大)の打球が野選となり無死一・三塁と待望の先制チャンス。このチャンスに2番山崎正晴左翼手(日体大)がタイムリーツーベースを打ち、二者が生還、待望の先制点を奪う。そして、一死三塁から途中交代の4番DP立石壮平選手(日体大)の打球を一塁手がホームへ暴投。この間にランナーの山崎選手が3点目を奪った。Regan投手に15奪三振奪われたが、大きな3点を獲得した。

守っては初回から好投を続けていた先発の片岡投手が7回を被安打2、2奪三振の打たせて取るピッチングでチーム初の完封勝利を成し遂げた。

◆2/18(大会第3日)予選リーグ第8試合

Japan Universities 2011010 : 5
Hutt Valley 0110020 : 4

[JU]深津・○立石・深津-中西

(本)平山 (二)山崎・川原

【評】予選トーナメント最終戦の対戦相手は“Hutt Valley”。日本の先発は深津悠平投手(中京)。

先攻の日本は、初回、1番山崎正晴左翼手(日体大)がヒットで出塁。続く2番吉田和史遊撃手(中京学院)もヒットを打ち、無死一・二塁と得点圏にランナーを進める。3番植田貴也二塁手(京都産業)のヒットでセカンドランナーの山崎選手が生還。吉田選手は三塁。なおも無死一・三塁。さらに4番川原光中堅手(中京学院)が四球を選び、無死満塁。5番DP立石壮平選手(日体大)の打球がダブル

プレイになる間にサードランナーの吉田選手が生還。初回到2点のリードを奪う好調な滑り出しを見せた。

2回裏には先頭打者に二塁打を浴び、犠打。一死三塁となったケースで、サードゴロを打たれ、その間に三塁ランナーがホームへ突進。中西康太捕手が強烈なタックルを受けた。タックルをした選手は危険行為とみなされ退場となったが、次の打者に、不運にも平凡なライトフライが風でもどされポテンヒットとなり1点を返された。

2-1で迎えた3回表、先頭の1番山崎正晴左翼手(日体大)が二塁打を放つ。二死三塁から4番川原光中堅手(中京学院)のタイムリーツーベースで3-1と再び2点差のリード。

3回裏からは5番DP立石壮平選手(日体大)が登板。先頭打者を三振に抑えたものの、2安打を浴び、1点を返され3-2。4回表、二死から8番平山将司右堅手(熊本学園)がワンストライクで迎えた二球目をソロHRでまた2点差に突き放す。

その後、6回表に一・三塁からのダブルスチールで1点を追加するも、裏にはツーランHRを打たれ、5-4に。

なかなか追加点を奪えない日本がむかえた7回裏、失点が許されない中、深津悠平投手(中京)が再登板。先頭打者にヒットを許すも、その後は2右飛、三振と無失点に抑え、勝利をつかんだ。

◆2/18(大会第3日) 4位~5位決定戦

Hawkes Bay 0 0 2 1 0 0 0 : 3
Japan Universities 0 0 1 0 0 0 0 : 1

[JU]●深津・片岡・堀田-和田 (二)和田・平山

【評】4位~5位決定戦に進んだ日本は、予選で3-0で勝利した、Hawkes Bayと対戦をした。日本の先発は、深津悠平投手(中京)。0-0で迎えた3回表、ヒット、犠打にタイムリーを打たれ、2失点。その裏、2番和田亮磨三塁手(神戸学院)がフルカウントから右中間へツーベースヒット、3番芝大紀一塁手(中京学院)がセカンドゴロを放ったが、相手がミス。その間に和田選手が生還し、1点を返した。

4回からは、片岡涼投手(中京学院)に交代したが、ヒットとタイムリースリーベースヒットを打たれ、1失点。

なんとか逆転したい日本であったが、相手投手の緩急を使ったピッチングに翻弄され、5安打に抑えられて敗北した。この結果、9チーム中5位の成績で大会を終了した。

●親善試合

◆2/14

Japan Universities 0 0 0 0 0 0 0 : 0
Hutt Valley 3 1 1 0 2 0 0 : 7

◆2/15

Marist 0 0 0 0 0 1 0 : 1
Japan Universities 0 0 0 0 1 0 0 : 1

◆2/21

Japan Universities 0 0 0 0 1 : 1
Rambles 0 0 0 0 1 : 1
Roosters 0 0 2 0 2 : 4
Japan Universities 2 2 1 0 x : 5

全日本大学男子選抜チームのニュージーランド遠征に参加して

団長 丸山 悟(副会長・日本福祉大学)

2012年2月12日(日)~24日(金)に行われた全日本大学男子選抜チームのニュージーランド遠征に団長として参加するに当たり、私は以下の三つの誓い(というか願いごと)をしました。

一つは、日本を飛び立つ前の関西国際空港特別会議室での結団式のときに言ったのですが、大勢の選手を引き連れての海外遠征という経験はまっ

たくなく、ニュージーランドという地に出向くことも初めてだったので、経験豊富な石井監督や高橋コーチ、吉末総務の足手纏いになり、選手たちに対しても迷惑をかけることのないよう、常に注意を払って節度ある振る舞いをする。この点での評価を私自身が下すことは大変おこがましいのですが、何とか無事、大役を果たせたのではな

いかと思っています。

石井監督とは、東海地区大学連盟とともに監督としてよく話す機会があり、互いの気心が知れていたこともあって、試合に入るまでの時間の使い方や選手起用の問題などについて相談をもちかけられ、率直な話し合いができました。高橋コーチや吉末総務も、団長の私や石井監督を引きたて補佐役に徹してくれたことで、本当に救われました。通訳兼ツアーコンダクターの岡田恭介さんにも連日大変お世話になりました。選手たちも慕ってくれて、休みのときなどに大学生活についての悩みや不満などを聞かせてもらっているうちに、最後の方では、ソフトボールに関する技術的な問題や試合に対する心の持ちようのことまで私の意見を求めてくるようになっていました。私にとっては、このときの「チーム石井」は最高のメンバーだったと今でも思っています。みなさん本当にありがとうございます。この場を借りてお礼申し上げます。

二つ目は、これまでのニュージーランド遠征で全日本のチームはなかなか勝てていなかったのも、1勝以上、何とかして2勝ぐらいできないだろうかとの思いでした。

ウェリントンに着いたあと最初に表敬訪問したハットバレーの市役所でも、次に向かったNZソフトボール協会でも、私は、多少は外交辞令の要素があったけれども、団長としての挨拶で「何とか1勝させてほしい」とお願いしました。この言葉に嘘はなかったのです。

実際、2月14日と15日に1試合ずつ行った親善試合では1敗1分けの成績で、ソフトボールの本場、ニュージーランドの壁の厚さを実感しました。しかし、それが、16日から18日までの3日間で行われた本戦＝National Fastpitch Championship（日本の国体のような大会）では、完全にアウェイの環境でのハンディを感じながら、一日に3試合も4試合もある日が二日も続く中で、予選リーグと順位決定戦を合せて4勝5敗の成績を残し、9チーム中5位に入りました。この成績は素晴らしいものです。しかも、敗れた試合のうち3試合は1点差でした。監督、コーチはもっと勝てたと思っているのかもしれませんが、私としては思

いの外の勝利であり、大満足の結果でした。

三つ目は、野球よりもメジャーであり、「国技」とまではいかないけれども「お家芸」となっているソフトボールの本場ニュージーランドからぜひ日本に持ち帰りたい、野球にないソフトボールの魅力、技術的なことというより、ソフトボールの見るうえで面白さ、楽しさというものを掴んでくることでした。

この点では環境の違いがまず目に留まりました。クラブハウスがあって、全体を見渡すことのできる敷地の中に、4～5面程度確保できる広大なソフトボール場があることはもちろんのこと、夏はソフトボールやクリケットを楽しみ、冬場は「国技」と言えるラグビーの試合が繰り広げられる、「芝のグラウンド」が各地にあること、これは大変うらやましい。そして、そこにはフェンスとか敷居がほとんどなく、誰でも入れる環境になっている。日常の遊び、楽しんでやるプレイの延長線上に公式の試合があるという、開放的な環境が形づくられていることに感服しました。

公式試合の前の時間帯で、子どもたちとソフトボールをして楽しんでいる親御さんたちは決して教えようとしてソフトボールをしていなかったし、怒るような態度はまったく見せなかった。敷居の低いグラウンドで本物の試合を見せることによって（実際この大会でもたくさんの子供たちが観戦に来ていました）、自然とゲームに親しみ、自分からうまくなろうとして技術を磨いていく。そういう過程を大切にしている雰囲気が伺え、とても微笑ましかった。一方、日本の多目的グラウンドは、芝でないところがほとんどだし、試合や何々教室という講習の場以外で使われるケースが少なく、遊びに興じている子どもたちがいても、危ないからと外に出されてしまうのが「落ち」のような気がします。

ソフトボールの面白さというのは徹底したアマチュアリズムにあるような感じがしました。投げること、打つこと、捕ることなどの面白さを追求し、そのうえで勝てるチームに仕上げるため、ある種の合理性を徹底して貫くこと。

ニュージーランドの選手はアップの段階で遠投

をまったくしなかった。大きな弧を描いてただただ遠くに投げるという「芸当」は、実戦では行わない「技術」であること。それがどうも「遠投」をしない理由のようでした。日本でよくやるティバッティングとかトスバッティングもあまり見掛けなかった。「投手」が正面から投げる球を鋭く飛ばし、それを「外野手」が捕るというスタイルの練習を専らしていました。内野の守備練習は縦に並んで、次から次へと打たれる打球を処理することに徹していました。速い打球を瞬時に捕る練習を意識しているように見えました。

ソフトボールの魅力はやはりスピードです。クロウステップして投げるボールスピードもさることながら、それが上にも下にも横にも変化しつつ、それでも速いボールが投げられる。また、それを素早く鋭く打つ技術。そして、その当りを、長い距離を走って捕るファインプレイというより、鋭

い正面の打球や真横に抜ける当たりに対して、たとえ体が裏返っても瞬時に処理し、力強くかつ素早く投げてアウトにする技術。そこにこそソフトボールの真髄があると感じた次第。外野から一気にサードやホームに直線で力強いボールを投げる技術・パワーにも魅了されました。ソフトボールはどれも速筋を働かせるスポーツのようで、瞬時の動きができるよう、あまり余計な体力を普段は使わないという合理主義がニュージーランドの選手には貫かれているのではないかと思ってしまうわけですが、それは勝利至上主義を排したアマチュアリズムに徹する考えがあつてのことと思えました。

「速筋勝負」の魅力が日本のソフトボールの世界においても生かせる場面が多々あるのではないかと、私は今思っています。

新たな段階に踏み出した NZ 遠征

副団長 高橋伸次（理事長・高崎経済大学）

公務で帰国する丸山団長に代わり、遠征後半からの合流となりました。1998年からスタートしたこのNZ遠征も5回目となり、私自身、すべての遠征に携わってきましたが、今回はその意義において転機となる遠征になりました。

これまでの遠征では、国際経験を通して技術の向上や人格の陶冶を図ることを主な目的としてきました。そのことについては、遠征参加者のその後の成長ぶりや活躍ぶりを見ても一定の成果をあげています。

そうした中、前回の遠征で感じたことは、いまや学生の海外に向けられる目が、そこで「多くを経験しよう」から「どう戦うのか」といった視点へと変化していることでした。したがって、今回の遠征が、NZ国内屈指の大会に戦いを挑むことを主たる目的にして実施されたことは、このNZ遠征が新たな段階へと踏み出したことを意味します。

特別に参加が許された「National Fastpitch Championship」は、一年後に世界選手権大会の開

催を控えているNZの8地域の代表チームにとっても重要な大会です。その強豪ひしめく世界最高レベルの大会で4勝を挙げることができたのは大きな成果でした。それは、選手のみならず、このNZ遠征を企画・運営してきた大学連盟にとっても大いに勇気づけられる結果でした。選手たちの怯まぬ戦いぶり、その健闘に感謝します。

NZ協会からは、全日本大学選抜チームについて、持ち前の守備力・スピードもさることながら、とくに試合中やグラウンドを離れての態度に対して高い評価をしてくれました。加えて、次の機会のエントリーについても歓迎していただきました。

こうした、思いで深く意義ある遠征になったのも、チームを戦う集団へと導いてくれた石井ヘッドコーチ・高橋コーチの力量の高さでした。また吉末マネジャー、現地在住の岡田通訳には、慣れない環境での生活に戸惑いを感じさせないマネジメント力を発揮してくれました。あらためて厚くお礼申し上げます。

NZ遠征での感想および反省と課題点等

監督 石井 賀一郎（中京学院大学）

今回の遠征は、4日間で9試合を消化しなければならず、ハードな大会日程であった。その中で、1試合のベンチ入りが15名に限定されての戦いはそれをいっそう厳しいものとした。しかし、OFFシーズンというハンディーキャップもありながら、怪我も無く、4勝5敗という大学選抜としてはまずまずの成績で終えたことで、選手達の活躍を評価したい。

過去のNZチームの印象から見ても変化球への対応、ストライクゾーンの関係から多くの得点は期待できない。さらに、打力もパワーヒッターも揃い完封は難しい。特に、投手のローテーションが難しくなってくるため、投手起用については、投手経験の豊富な高橋コーチのアドバイスを元に決定することが出来た。これが4勝できたひとつの要因であった。

現地のルールでは一般的に行われている『DR』（代走専門選手）の採用や『捕手である選手が塁に出た場合、2アウトになった時点で2アウト目の選手と塁上にいる選手（捕手）と交代が出来る制度』（チェンジのときにスムーズに捕手が守備に付けるように）を日本（大学連盟）でも取り入れていっても面白いと思われる。

選手選考に関して、今回は書類選考のみのチーム編成であったが、できれば第一次選考（面接で

の将来の進路把握やNZ遠征に対するの考え、思い等の評価）を行い、さらに第二次選考（実技評価）を実施して全日本大学連盟の趣旨に値する選手でのチームを編成することで、全日本大学代表として、より質の高い選手団にすることにより、全日本代表チームへとつながっていくと考えられる。

日本はOFFシーズンでもあり十分な練習もしていない中での遠征でもあり、それを補うだけの体作りを日本でやっておかなければならないのだが、出来ていなかった選手が多かったのが実態であった。今回のような大きな大会へ参加をするためには、国内合宿若しくは、現地での大会までの準備期間（細かなサインプレイや連携等を含めた練習時間）の設けられる日程を今後の要検討課題としたい。

その他、まだまだ細かな反省点があるが、事故も無く大学連盟の趣旨とする現地での親善を深め人的交流やソフトボールの技術力向上と学生間交流は十分達成できた内容であった。

最後に、このNZ遠征を実施するにあたり、大学連盟関係者並びに運営にご尽力いただいた皆様方に対して心より深く感謝し御礼申し上げます。

沢山の素晴らしい思い出をありがとうございました。

ニュージーランド遠征雑感

総務 吉 末 和 也（関西大学）

アオテアロア（Aotearoa）は、ニュージーランドのマオリ語での呼び名で「白く長い雲のたなびく地」という意味があります。ニュージーランドの雲の表情は豊かで、雄大です。そんな中で、ナチュラルに育ったキーウィ（ニュージーランド人）は、小さい子どもから大人まで、天然芝の上で伸び伸びとソフトボールを楽しんでいました。

子どもたちのティーボールやソフトボールを見ていると、みんなでめっちゃ励ましあっています。日本のように小学生から高校生までの指導者によく見かけられますが、選手を怒鳴り倒している指導者は一切いません。それは心の原点に「スポーツを楽しむ」という気持ちがあるのでしょうか！

今回の遠征のメインイベントは、NFC（National

Fastpitch Championship)というNZ各州の代表8チームが優勝を争う日本で言えば国体のような大会に、大学JAPANが参加するということでした。

大学JAPANチームは、世界のチャンピオンであるNZ代表選手が大会参加チームの中に15名もいるというのハイレベルなソフトボールに触れ、その中で、総当たりのリーグ戦で4勝5敗という結果を残せたことは学生にとって大きな自信になったと思います。

また、この大会で採用されたDR（DRに指名された選手は、攻撃の際に各回1回、代走として出場できる）という制度を体験したり、大会の対戦戦績の掲示だけでなく、その日の打率の高い選手やホームランを打った選手の名前が貼り出されたり、大会のボランティアが仮設店舗で飲み物や軽食を販売したり、決勝戦はスカイスポーツのTV中継があり、試合中にボールカウントやコメントがマイクで放送されたり、バックネットの一部は強化ガラスがはめ込まれ、後ろから観戦すると投手とバッターとの力と力の勝負をよりリアルに体験できたりと・・・、大会期間中に、試合だけではなく日本にはないものを色んな形で経験できたことは、今後の日本におけるソフトボールの環境をよりよくする上で大いに参考になったのではないかと感じました。

さらに大会期間中は、試合会場の真横で、朝からは幼児のティーボールの試合や小学生低学年の試合が行われ、昼からは、U15やママさんのソフトボールがあり、その間にNFCの大会を観戦するという仕掛けがつけられており、一日中家族やチームでソフトボールを楽しめる環境を団員一人ひとりが肌で感じることができました。

この大会が終わってからの2月20日(月)～2月23日(木)までの4日間では、ロトルアでマオリレッジを訪れ、マオリ人の文化に触れ（ハカダンスや子どもの遊びを体験）、夜は、流星が見えるほどの満点の星空を味わいました。ワイトモケーブの洞窟ではオーストラリアとNZにしか生息しない美しい土蚩を鑑賞し、オークランドでは、昨年まで関大女子のコーチをしていたカーティスのアレンジメントで日本の学生はカーティスのチームメイトの家でホームステイを体験し、NZの家族と生活をともにする機会を得ました。

初めて海外を体験する学生もいたが、ソフトボールだけではなく自分のこれからの人生をより豊かにしてくれる体験や感動を得ることができたのではないのでしょうか。

今回の遠征に参加した学生たちは、ソフトボールだけでなく現地の人との交流を含め、積極的にチャレンジしようとする姿勢がとても伝わってきました。夜遅くに宿舎に帰ってからの学生たちだけのミーティングや素振り。英会話はできなくてもホームステイの家族と単語を並べながら何とかコミュニケーションを取ろうとする姿など、場面、場面で学生たちの頑張る姿に感銘を受けました。こんな学生たちの今後の成長に期待したいです。

最後に、この遠征の企画を実現していただいた本連盟の役員の皆様、加盟大学の学生、そして現地で我々を温かく受け入れていただいたNZソフトボール協会の皆様、現地でお世話になったボランティアの皆様、通訳の岡田恭助さん、カーティス・トムキンズさんをはじめ、サポートしていただいた全ての皆様に心から感謝申し上げます。

Thank you & Good luck

ニュージーランド遠征に参加して

中西康太（日本体育大学）

今回の遠征では、世界一のソフトボールのレベルを直に肌で感じることができ、とても勉強になりましたし、これからの自分のソフトボールに活

かすことができる経験をすることができました。ニュージーランドでは日本での常識が通用しないことがプレイ中に多々あり、流れを乱されることがありましたが、そこで流される・乱されるので

なく、何時いかなる時でも、自分のいつも通りのプレイを心がけることが大事だと痛感しました。

また、他の大学の選手とソフトボールをする中で、選手間同士のコミュニケーション、また選手、監督間のコミュニケーションの重要性についても再確認することができました。普段は相手チームとしてプレイしている選手のソフトボールに対する考えや姿勢について、自分とは異なる視点で見ることや考えることができ、自分のプレイを見直し、プラスにする良い機会となりました。今回の遠征に参加させていただき、本当にありがとうございました。

川原 光 (中京学院大学)

私にとって今回の海外遠征は2回目。最初に行ったところはアジア選手権のインドでした。アジア選手権なのでそれほどレベルも高くなく、全試合コールドで優勝しました。それだけに今回行かせていただいたニュージーランドはどれだけレベルが高いのか、自分自身凄くワクワクしていました。

そして3日目にハットバレーという昨年の大会4位のチームと練習試合をしました。相手チーム全員が凄い体格をしていて驚きましたが、さらに試合をやってみると、完封負け15奪三振と力の差を感じさせられました。また外国のストライクゾーンにはびっくりしましたし、相手チームの判断力、選球眼、隙のない走塁には凄いなあと素直に思いました。

そんな不安の残るなか、リーグ戦が始まりました。まず1試合目に自分達の目標であった1勝が出来ました、そこから波に乗っていくのかと思いましたが、結局4日間通しての結果は5位でした。勝てる試合はいくつもあったのに、悔しい結果に終わりました。

それから練習試合を挟んで、ホームステイが始まりました。最初は不安だらけでしたが、ホストファミリー全員が仲良くしてくれて、とても思い出に残る物になりました。今回このような凄く良い経験をさせていただき、まだまだ頑張らないといけないと感じることが多くありました。最後に

なりますが、このような遠征を企画していただいた方々には本当に感謝したいと思います。ありがとうございました。

植田 貴也 (京都産業大学)

高校時代に1度NZ遠征に行かせていただきましたが、今回の遠征で改めて外人のパワー、スピードに驚かされました。また、移動や食事、時差、急な環境の変化に対応するためコンディションを調整する難しさを感じました。しかしながら、13日間という長い遠征で一度も体調を崩すことなくプレイできたことが収穫です。

また、海外選手を相手に力で勝負することは極めて厳しく感じました。私達が普段やっているエンドランや盗塁、セフティーなどをどれだけ絡めて日本らしい戦いができるかが大事だと感じました。外国人の投げる120キロを軽く超えてくるファストボールに対してコンパクトにミートし、目を慣らすということを課題にして遠征に入りましたが、目はかなり慣れて見極めれた場面もありました。このNZ遠征では平気で夜の10時から試合が始まったり、トリプルヘッダーなど日本では考えられないことも多々ありましたが、モチベーションとして非常識を常識に考えてプレイすることも大切だと感じました。

試合以外でも、NZでの文化に触れ理解を深めることができ、マークソレンソンとの交流はとても良い経験になりました。不安だったホームステイもホストファミリーがとても親切にしてくれて最高の経験となりました。人とは違う体験を数多くさせていただき、とても感謝しています。そして、なにより全国各地にこの遠征を通じて友達ができました。

最後に、このような素晴らしい遠征を計画していただいた関係者の方には大変感謝しています。今後この経験を、自分の大学の選手にも伝えて、より競技力が上がるようサポートしていきたいと考えています。さらに、今後一人の選手として更に上のレベルでやれるようにレベルアップしたいです。

立石 壮平 (日本体育大学)

今回のニュージーランド遠征に参加できたことは、これからの競技生活に大いに生かすことが出来る経験となりました。ソフトボール強豪国であるニュージーランドのチームとの試合では、やはりパワーの違いを感じられました。しかし、そのパワーの差は日本人の組織力や考える力でカバーできるとも感じました。また、2日間のホームステイではホストファミリーと楽しい時間を過ごすことが出来ました。最後にこの遠征を企画して下さいました関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

堀田 拓郎 (日本体育大学)

今回の遠征は私にとって、とても勉強になる大会となりました。ニュージーランドはとてもレベルが高いと聞いていたので、どんなバッターがいるのか、どんなピッチャーがいるのか楽しみでした。会場に着いて一目見て、まず身長が日本人と違ってとても大きいところが非常に印象に残りました。そして、なんとと言ってもバッターのバットスイング速度がとても速いということです。自分はピッチャーをしているのでとくに分かりました。しかし、ニュージーランドのバッターはチェンジアップに弱いということがわかり、チェンジアップを中心に配球すると上手く抑えられました。どのバッターにもチェンジアップが有効で、うまく抑えることができました。自分が本当にすごいなと思ったのは、ピッチャーです。ほとんどのピッチャーが120キロ近い球を投げてきて、変化球にキレがあり、今まで見たことのないピッチャーがたくさんいて、とても圧倒されました。さらにニュージーランド代表のピッチャーもおり、120キロを越えていました。配球、さらにピッチャーは投げる時にどう体を上手く使っているのかなど、今回の遠征で撮影した動画を見て、これからのピッチングに生かしたいと思います。

片岡 涼 (中京学院大学)

今回のNZ遠征は自分にとって初めての海外遠征で、とても良い経験となりました。NZのチームと

の試合ではまず体格、パワーの違いに驚かされました。また、NZの選手はフルスイングでも確実にミートをしてくるため、失投をしないように一球ごとにとっても神経を使いました。初先発した試合では力みが出てしまい2回で降板という悔しい結果になってしまいました。その経験から一球一球、丁寧にコーナーへ投げることの大切さ、緩急を上手く使うことの大事さを学びました。この試合での反省を生かして、次の試合を投げ抜き完封できたことは自信になりました。抜いた球が苦手な日本ではあまりチェンジアップを使っていなかったのですが、今回の遠征で自信を持つことができ、これからさらにピッチングの幅を広げることができると思いました。

ホームステイでは英語があまり話せず、ジェスチャーを交えての会話が多かったのですが、NZの人は優しく接してくれ、とても楽しく過ごすことができました。しかし、英語があまり話せないことでソフトについて深く聞くことができな残念で、もっと英語を勉強しないと感じました。遠征を通して様々なことを学ぶことができたので、これからの競技生活に生かすと共に、チームの仲間にも伝えていきたいです。

深津 惣平 (中京大学)

今回のニュージーランド遠征は、一流の相手揃いでした。その相手をいかに抑えられるか、そしてこの遠征で何をつかんで帰れるかが私の課題でした。私は今回の遠征で投球術を身に染みて感じるとともに教わることができました。その経験が今年の夏全日本総合に役立つのではないのでしょうか。持ち玉は工夫するだけで武器になることを知りました。これからもこの経験を踏まえて戦っていきたくと思います。

乗本 真視 (立命館大学)

私は、今回の遠征でまず、ニュージーランドでのソフトボールのレベルの高さに驚かされました。現地に着いて最初の練習試合で、日本が17歳のピッチャーに1安打完封されたことが印象的です。

バッティングにおいても私たちとは比べものにはならないパワーを見せつけられました。スイングの軌道も日本人とは違い、特にライズボールの打ち方にはとても真似できないと思いました。しかし、日本全国から集められた大学選抜のメンバーも高い技術を持った人達ばかりで、いっしょにプレイできる喜びを感じました。大会では4勝5敗で5位という結果に終わりましたが、個人的にあまり結果を残せなかったことが心残りです。

また、ニュージーランドのソフトボールの普及率にも驚きと感動を覚えました。公園では、ほとんどの小学生ぐらいの子ども達がソフトボールで遊んでいました。私たちの出場した大会では大勢の観客が試合を観戦し、決勝では解説つきでテレビ中継までされていました。ニュージーランドでのソフトボールの環境や知名度を目の当たりにすると、若干うらやましくも感じました。

この遠征ではソフトボールだけではなく、大会中の生活やホームステイなどを通して、ニュージーランドの文化を肌で感じることができました。ニュージーランドでの生活や現地の方々とのたくさんの交流は、とても貴重な経験になりました。私の後輩たちにもぜひ参加してほしいです。この遠征で経験したことは、これからの人生に必ず役立てたいと思います。最後に、この遠征の関係者の皆様、本当にありがとうございました。

和田 隆太 (中京大学)

ニュージーランド遠征を終えて、私はとてもいい経験をさせていただいたことに、感謝しています。まず、ニュージーランドのソフトボールのレベルの高さを感じ、とても勉強になることばかりでした。ソフトボールの技術面はもちろん、ニュージーランドの文化に触れられたことや、ホームステイなど、特別な経験ばかりさせていただきました。今回の遠征で得たことを日本のみんなにも伝えていきたいです。この遠征で得た事を今後の人生にいかしていきます。この機会を与えていただきました全日本大学ソフトボール連盟の方々をはじめ、お世話になった皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

高橋 宏 征 (立命館大学)

今回、ニュージーランド遠征では世界トップレベルのソフトボールを実際に生で体験することができ、私自身とても貴重な体験をすることができました。中でも、オークランド戦で放った3ランホームランは大きな自信となり、日本では味わうことが出来なかった感動でした。最初は、日本でそれほど活躍していない自分がジャパンとして責任を果たせるのか、チームの迷惑にならないかと不安でした。それでも、石井監督をはじめとする役員のみなさんやチームの仲間のおかげで普段よりも大きな力を発揮できたと思います。また、4勝5敗というこれまでとは違った成績ということで、自分自身だけでなく次回の大学選抜につながるものとなったと思います。今回の遠征ではソフトボールだけでなく、普段はなかなか会うことが出来ない他大学の仲間と交流を深めたり、ホームステイを通しての国際交流など、人間的にも大きく成長できる場だと感じました。今回の遠征を今後のソフトボール人生、将来に生かしていきたいです。このような場を与えていただき、ありがとうございました。

遠藤 大 輔 (日本体育大学)

今回はニュージーランド遠征を企画していただき、ありがとうございました。ニュージーランドはソフトボールがとても盛んで、世界ではトップクラスの国です。そんなレベルの高いソフトボールを経験でき、多くのことを学ばせていただきました。違う大学の監督や選手との交流で友達も増えたり、色々な考え方も聞けました。人とのつながりがとても大切なことだなあと感じました。みんな違うチームから集まり、それを一つのチームにする難しさ。しかし、みんな一つになることができ、4勝することができました。前回より多く勝つことができました。目標をもって達成した時の嬉しさも経験させていただきました。今回のニュージーランド遠征で得たものはすごく大きなものです。それは、ソフトボールはもちろん今後の自分の人生の糧となると思います。本当にありがとうございました。

芝 大 紀 (中京学院大学)

ニュージーランド遠征では、いい経験をさせてもらいました。ニュージーランドのソフトボールはレベルが高いと分かって行かせてもらったのですが、いざ行って見ると、自分の想像を越えるソフトボールがそこにはありました。体つき、パワー、迫力がすごくて、初めは圧倒されました。初めてニュージーランドの投手と対戦するとき、僕はいつも通りにバッターボックスに入ってスイングをしたのですが、全くスピードとタイミングについていけませんでした。バットを短く持ったりタイミングを速くとったりと、工夫しないとニュージーランドの投手に対応できなくて、工夫してもバットに当てるのが精一杯でした。ただ、ニュージーランドの野手は日本の野手と比べてフィールドイングがあまり上手ではなく、転がせば塁に出られる可能性が高いとも感じました。パワーでは劣りますがスピードでは勝っていました。私は大会前日から体調が悪く、大会1日目を休んでしまって最初の試合に参加できなかったのも悔しかったです。2日からはチームに復帰して、今までライバルだった人達といい雰囲気ですソフトボールができて、とても貴重な時間を過ごさせてもらいました。

またホームステイもとてもいい経験になりました。私はあまり英語が得意ではないのですが辞書や身振りで会話をすることができました。これまで英語を勉強したいとあまり思ったことがないのですが、勉強しておけば色々な話ができと思うので、英語をもっと勉強したいと思いました。ソフトボールに対しての考え方も変わりましたし、これからの大学生活をもっと頑張ろうと思ったので、ニュージーランド遠征に行けて本当によかったです。ありがとうございました。

太 田 宗之祐 (早稲田大学)

私がこの遠征で感じたことは、世界基準のソフトボールのレベルの高さです。私は共に戦った仲間たちと違い、大学からソフトボールを始め、ましてや日本を代表して海外のチームと試合をするという経験をしたことがなく、当初は自分がソフ

トボールの本場であるニュージーランドに行って通用するのだろうか、という不安を抱えていました。実際のところはというと、通用したと胸を張って言えるほどのものではなかったでしょう。しかし、足の速さを認めていただき、代走として使ってもらったり、何本かヒットを打ち、自分が先発出場した試合で勝利することができたり、と多少なりともチームに貢献することができ、世界レベルのソフトボールを体感できたことは、今後の人生につながる貴重な経験だったと思っています。特に大会の決勝戦では、自分が知っているソフトボールとは全く違う形のソフトボールを見ることができ、衝撃を受けるとともに、非常に勉強になりました。今回の遠征のために尽力していただいた関係者の皆さんに感謝申し上げます。

和 田 亮 磨 (神戸学院大学)

今回の遠征で私は数えきれないほどの経験をすることができました。初めての海外で、見るものすべてが新鮮でしたが、やはりニュージーランドのソフトボールのレベルの高さに一番驚きました。バットの使い方、パワーなど、日本人にはとてもマネすることが難しいものもありましたが、その中で自分自身のレベルアップにつながる発見も数多くありました。今後はその経験を生かし、個人としてのレベルアップとともに、周りの人にも伝えていけたらよいと思います。二週間共に過ごした仲間達とも、今後さらに親交を深めていきたいです。今回の遠征に参加し、貴重な経験ができてとても良かったです。本当にありがとうございました。

古 敷 谷 亮 (日本体育大学)

今回、全日本大学選抜としてニュージーランド遠征に参加させてもらい、感謝しております。この12日間では多くのことを勉強しました。スピード、パワー、技術面など吸収しなくてはいけないことがたくさんありました。投手は常時120キロの速球と変化球があり、打席ではレベルの高さを痛感しました。ライズボールは来ると分かってバットを出しても、バットの遥か上を通過してしまし

た。また、ニュージーランドの打者はオーソドックスに振ってくると思っていましたが、そうではありませんでした。ボール球には手を出さず、左右に打ち分け、点を取りに来る場面ではバスターなどをやっていました。ニュージーランドで試合をするごとに色々なアイデアをもらった気がします。大会最終日のfinalではニュージーランド代表がプレイするのを見て、改めてレベルの高さを感じました。そしてまたニュージーランドでソフトボールをしたいとも思いました。

ソフトボール以外ではホームステイを2日間しました。英語が話せずホストファミリーには迷惑をかけましたが、快く受け入れてくれました。もう少し英語が話せればと後からみんなで後悔していました。観光ではマオリショーなどニュージーランドの文化を知ることができました。この12日間は自分の今後に役立つことがたくさんありました。今回の貴重な経験を無駄にせず、今後ソフトボール、私生活に活かしていきたいと思います。また大学日本代表チームのメンバー、スタッフと出会い、ソフトボールが出来たことに感謝しております。

吉田 和史 (中京学院大学)

今回のニュージーランド遠征では、いい経験をさせてもらいました。ニュージーランドは世界で一番か二番だと聞いていましたが、いざ試合をすると自分の想像を越えていました。ニュージーランドの人は、体の大きさ、パワー、迫力、身体能力が日本人選手と違うと思いました。初めてニュージーランドの投手と対戦して、最初は、タイミングの取り方がわからなくて苦戦しましたが、バットを短く持つと、意外と打てました。野手では、ニュージーランドの人は体が大きくてあまり上手くありませんでしたが、どんな体制でも送球出来ていたのでホントにすごいと思いました。大会の結果は4勝5敗でしたが、何試合かは勝てた試合があったのでそこは反省しないといけないところだとも思います。また、他のチームの大学生とソフトボールが出来て、盗む部分も多々あったので、そういうところを自分の物にしていきたいと思

ましたし、今回のメンバーでソフトボールが出来て、本当に楽しかったです。

ホームステイではいい経験が出来て、自分にとって良かったです。最初は戸惑ったりで、帰りたいたとも思いましたが、ホームステイの家族が優しくしてくれて、無事に過ごせました。もっと英語を勉強していたら、もっと楽しかったなあと思っています。帰る時にホームステイの家族と写真を撮ったことが本当に嬉しかったです。今回の遠征では、石井さん、高橋さんはじめ、スタッフの方々には心から感謝しています。ニュージーランドで学んだことを今後に活かして行きたいと思っています。ありがとうございます。

金井塚 和 希 (高崎経済大学)

今回のニュージーランド遠征では技術的なことはもちろん、他大学のメンバーとの交流や異文化との交流など多くのことを学びました。また、普段とは違う環境の中でプレイする難しさやその楽しさというものを理解することができました。この経験を個人だけにとどまらず、チームやリーグの仲間と共有してソフトボールのより一層の競技発展に役立てて行きたいと思います。また、ソフトボールに限ったことではなく社会に出てもこの経験を活かしていきたいと思います。

最後に、この遠征を企画、運営するにあたって尽力されたスタッフの皆様や多くの人々に感謝を申しあげたいと思います。この遠征に参加できたということは自分にとって大変光栄なことであり、これからの日々の中で多くの人に支えられているという感謝の気持ちを忘れずにプレイしていきたいと思います。



【研究報告】 目標志向性が自己効力感に及ぼす影響

-大学生ソフトボール選手を対象として-

池田かすみ¹⁾ 高橋流星²⁾ 筒井崇護²⁾ 利根川勇²⁾ 本間悠也³⁾ 楠本恭久⁴⁾

- 1) 日本体育大学体育学部体育学科 2) 日本体育大学運動方法(ソフト・野球)研究室
3) 日本体育大学大学教職教育Ⅱ研究室 4) 日本体育大学大学体育心理学研究室

1. 背景

スポーツで良い結果を出すためには、周知の通り「心」「体」「技」が必要である¹⁾。持っている能力の限界に近い所で勝負するようなレベルになってくると、体も大きく技も一流の選手が激突するようになる。その時の差は「心」である。体や技は人間おおよそ同じだが、心は広き深いもので「磨き方の違いによる差」は人によって大きく出てくる。

その中でも「自信」は、スポーツ選手にとって、プレーをする上でも、また競技力を向上させる上でもとても重要なものであり、大きな影響を与えるものである。

筆者は、現役時代自信を持ってプレーをすることが出来なかった。それに伴い、結果もなかなか出せなかったという経験がある。これをきっかけに、筆者は「心」の中の「自信」に興味を持ち始めこれについて研究をすることにした。

一般的に自信とは、「自分の能力や価値を確信していること」⁷⁾や「ある行動をうまく遂行できるという信念」⁹⁾または、「自分は有能であるという実感」と言われている。

欧米におけるスポーツや競技場面において自信を扱った研究をみると、主に自己効力感²⁾とスポーツコンフィデンス⁷⁾の2つの理論に基づいて研究が行われている。自己効力感とは、ある結果を達成するために必要な行動をどの程度うまく行うことができるかという個人の確信や能力の認知のことであり、自信の狭義の意味である。一方、スポーツコンフィデンスとは、ある個人が行う際の自分の行動やパフォーマンスに対する一般的な期

待として用いており、自信の広義の意味がある⁷⁾。この2つの中でも特に、自己効力感は行動の予測や変容の重要な要因であることが指摘されており、パフォーマンスと深く関係することが多くの研究で報告されている。

さて、スポーツ競技場面において、どのような達成目標を設定するかという個人の傾向を目標志向性という。この目標志向性は、他との相対的な比較の上で高い達成を重視する「成績目標」と自己の成長に関心があり努力の結果として自分の満足のできる結果を重視する「熟達目標」の2つに大別される。これまでの目標志向性に関する研究をみると、Dweck&Leggett (1988)¹⁰⁾は、目標志向性が動機づけのパターンの違いを導くことを報告している。またGarland (1985)⁴⁾は、目標志向性が行動に影響を及ぼすことが報告している。

このことから、どのような達成目標を設定するかという目標志向性が、スポーツ競技場面において、重要な役割を担い、また自己効力感に対しても何らかの影響を及ぼしていることが推測される。以上のことから、本研究では、N大学ソフトボール部における選手の目標志向性の傾向が自己効力感に及ぼす影響について明らかにし、また、どのような目標志向性の方が普段から「自信」を持って、競技に臨んでいるのかについて検討し、今後の筆者自身のソフトボール人生の一助とする。

2. 目的

本研究では、目標志向性が自己効力感に及ぼす影響について明らかにすることを目的とした。

3. 方法

3-1 調査対象者

N大学ソフトボール部に所属する男子25名（平均年齢 $19.92 \pm SD=0.82$ ），女子41名（平均年齢 $19.95 \pm SD=0.57$ ），計66名（平均年齢 $19.94 \pm SD=0.82$ ）を対象とし，調査を行った。

全調査対象者においてデータの欠損は無かったので，そのすべてを分析対象とした。（完全有効回答率100%）

3-2 調査期日

2012年11月下旬に質問紙調査を実施した。調査方法は，N大学のグラウンドで配布し，個々に記入してもらい，後日回収した。

3-3 質問紙

・フェイスシート

調査対象者自身の背景を知るために，性別，学年，競技歴，競技レベルを記入させた。

・目標志向性尺度

これまで我が国で開発されてきた，スポーツにおける目標志向性を測定する尺度（伊藤，1996）⁴⁾をもとに，調査項目を作成した。各項目の内容は熟達目標に関する7項目と成績目標に関する11項目であった。被調査者にはこれらの項目に「スポーツのどのような場面で楽しさや喜びを感じるか」という質問でたずね「全くそう思わない（1点）」から「とてもそう思う（5点）」までの5段階評定で回答を求めた。

・自己効力感尺度

成田ら（1995）⁴⁾によって作成された自己効力感尺度を使用した。回答は，「全くそう思わない（1点）」から「とてもそう思う（5点）」までの5段階評定で回答を求めた。

3-4 分析デザイン

SPSS16.00バージョンのソフトを使用し，群（高群，低群：2）を独立変数とした。また，自己効力感を従属変数とする対応のないt検定を行った。なお，独立変数は，熟達目標，成績目標，学年，競技歴，性別であった。性別については男子と女子による比較を行った。

4. 結果

図1は，熟達目標における自己効力感の平均得点と標準偏差を示したものである。t検定を行った結果，両群において，有意な差は認められなかった。

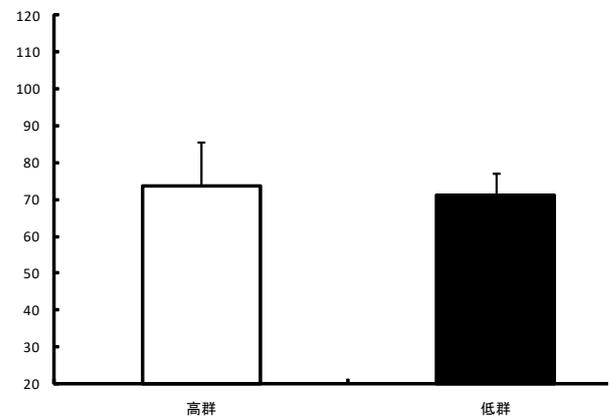


図1 熟達目標における自己効力感の平均得点比較

図2は，成績目標における自己効力感の平均得点と標準偏差を示したものである。t検定を行った結果，両群において，有意な差は認められなかった。

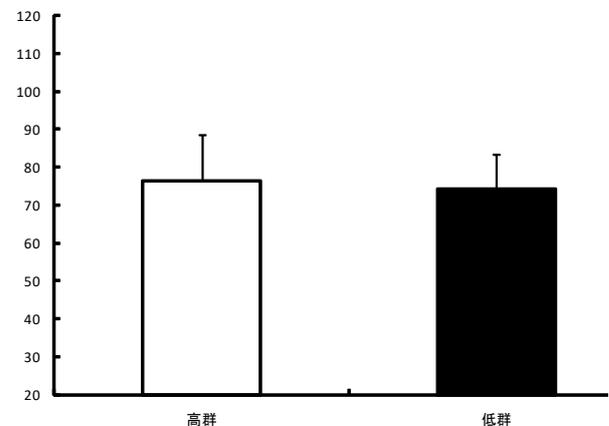


図2 成績目標における自己効力感の平均得点比較

図3は，学年における自己効力感の平均得点と標準偏差を示したものである。t検定を行った結果，両群において，有意な差は認められなかった。

図4は，競技歴における自己効力感の平均得点と標準偏差を示したものである。t検定を行った結果，両群において，有意な差は認められなかった。

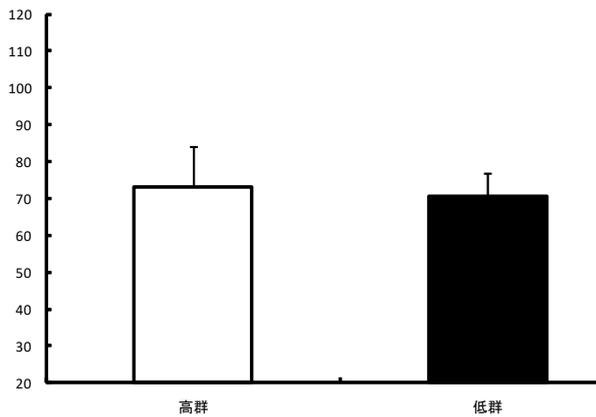


図3 学年における自己効力感の平均得点比較

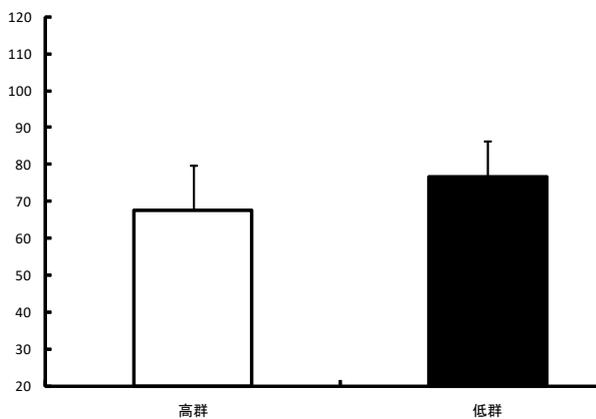


図4 競技歴における自己効力感の平均得点比較

図5は、性別における自己効力感の平均得点と標準偏差を示したものである。t検定を行った結果、両群における、有意な差は認められなかった。

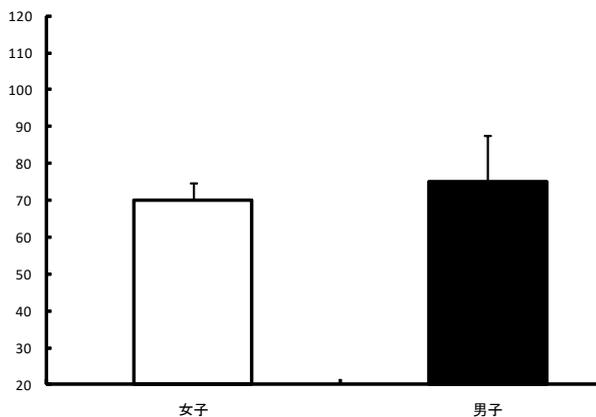


図5 性別における自己効力感の平均得点比較

5. 考察及びまとめ

本実験では、目標志向性が自己効力感に及ぼす

影響について明らかにすることを目的とした。

その結果、熟達目標、成績目標の高群と低群において、自己効力感の得点に有意な差は認められなかった。

熟達目標とは、自己の成長に関心があり、努力の結果として自分が満足できる結果を重視する達成目標のことを指し、熟達目標が高い者は内発的動機づけが高いことが伊藤（1999）⁵⁾によって確認されている。また、成績目標とは、他者との相対的な比較の上で高い達成を重視する達成目標のことを指し、スポーツ場面で「相手に勝ちたい」という相対的な目標のことである。これまでに、これら2つの達成目標は強く関連していることが確認され、熟達目標であれ、成績目標であれそれらの目標を強く持っているものは、運動に対する有能感が高いことが示されている（伊藤，1996）³⁾。

本研究の結果をみてみると、N大学ソフトボール部の熟達目標、成績目標の平均得点は、目標志向性尺度のとりうる平均得点を大幅に上回っている。すなわち、N大学ソフトボール部の選手は、高い達成目標を持っていることが考えられ、その結果両群において自己効力感の得点に差がみられなかったものと推察される。

しかし、熟達目標、成績目標ともに、高群の方が低群よりも高い得点を示していたことから、達成目標が高い者は、高い自己効力感も持っているものと思われる。

また、学年、競技歴の高群と低群において自己効力感の得点に有意な差は認められなかった。そして性別においても、男子と女子において有意な差は認められなかった。

この理由としては、N大学ソフトボール部の多くの選手は全国大会に出場しており、高い競技レベルであったことから、高い自己効力感を持っていたため、両群において有意な差がみられなかったものと思われる。

今後は、他の大学や達成目標が低い集団との比較をすることによって、目標志向性が自己効力感に及ぼす影響について検討していく必要があると考える。

6. 結論

本研究では、以下のことが明らかとなった。

- ・「熟達目標」は、両群において有意な差は認められなかった。
- ・「成績目標」は、両群において有意な差は認められなかった。
- ・「学年」は、両群において有意な差は認められなかった。
- ・「競技歴」は、両群において有意な差は認められなかった。
- ・「性別」は、両群において有意な差は認められなかった。

7. 謝辞

本研究の為にご多忙にも関わらず協力をして下さったN大学ソフトボール部の皆様に心からお礼を申し上げます。

8. 参考文献

- 1) 天崎日出雄：プロフェッショナルの心技体プロ学校 (2011)
- 2) Bandura, A. Self-efficacy: Toward a unifying theory of behavioral change. *Psychological Review*, (84) 191-215, (1997)
- 3) 伊藤豊彦：スポーツ場面における目標志向性に関する予備的検討, *体育学研究*, (41) 261-272, (1996)
- 4) 伊藤豊彦：スポーツにおける原因帰属と様式の因子構造とその特質, *体育学研究*, (28) 299-308, (1985)
- 5) 伊藤豊彦・細田朋美編：体育の授業における特性としての目標志向性と有能さの認知が動機づけに及ぼす影響, *体育学研究*, 44 (2) 90-99, (1999)
- 6) 中込四郎・伊藤豊彦・山本裕二編：よくわかるスポーツ心理学, 株式会社ミネルヴァ書房：京都, (2012)
- 7) 竹中晃二：スポーツメンタルトレーニング教本第4章1節, 株式会社大修館書店:東京, (2005)
- 8) 杉原隆：運動指導の心理学 運動学習とモチベーションからの接近(新版), 株式会社大修館：東京, (2008)
- 9) Weinberg, R. S. & Gould, D: *Foundations of Sport and Exercise Psychology*, *Human kinetics*, p. 71-91, p. 245-263, (1999)
- 10) 柳沢さおり：目標志向性の測定, *流通科学研究*, 6(2):43-53, (2007)

2012年度ルール改正に伴う投球成績の変化

久保和正¹⁾ 高橋流星²⁾ 筒井崇護²⁾ 利根川勇²⁾

1) 日本体育大学体育学部体育学科 2) 日本体育大学運動方法(ソフト・野球)研究室

1. 背景

ソフトボール(Softball)は、野球から派生した球技で、野球と基本形は同じだがグラウンドサイズ、使用球などルールが幾分異なっている。野球に比べ狭い土地でも行うことができ、ボールも大きく安全性が高いため老若男女を問わずに楽しむ

ことができる。

そのソフトボール競技は、1887年アメリカ合衆国においてジョージ・ハンコックが冬季屋内で野球の練習をするためのスポーツとして発明したとされている。そのため当時は「インドア・ベースボール」や「プレイグラウンドボール」と呼ばれ

ていた。

日本における最初のソフトボールは、1921年(大正10年)アメリカ留学から帰国した東京高等師範学校教授大谷武一によって、学校体操科の遊戯として紹介されたことに始まる。

我が日本のソフトボールの競技レベルは非常に高く、女子はオリンピック金メダル1個、銀メダル1個、銅メダル1個とオリンピック全4回のなかで3個のメダルを獲得している。また、世界選手権では優勝2回、準優勝4回、3位2回と世界的にも強豪国の一つと数えられている。男子においてもワールドカップ2大会優勝など日本の強さは世界的にも証明されている。

日本国内のソフトボール競技は、2012年に投手の投球動作に関するルールの変更が行われ、選手のみならず指導者も苦勞しているのが現状である。

2012年のルールの主な改正点は「クローホップ」(投球時、投手板以外の地面に軸足をずらして、その地点から投球することをいう。投手板から軸足をずらして投球を開始し、投手板以外の地点を蹴り出して投球する。)については従来の(公財)日本ソフトボール協会(以下：JSA)ルールでは、「ジャンピングスロー」(投手板を蹴る勢いでジャンプし、投球する)として不正投球とされていたものが、こちらも正しく投手板から蹴り出せば、投手の軸足と自由足を含む身体全体が空中にあっても、それは「ジャンピングスロー」ではなく「リーピング」という合法的な投球動作であると投手にとって有利にルールが改正された。

本研究では、ソフトボールにおける投手のルール改正に伴い、日本のトップリーグである投手の成績を対象に、成績における変化の有無等を調査することとした。

2. 目的

これまでのソフトボールに関する研究・報告の多くは、身体的動作分析・精神的分析・ゲーム分析が多い。

しかし、ルール改正に伴う改正前後での投球成績の変化については、統計学的分析研究はなされていない。そこで本研究は、ルール変更前(2009

年、2010年、2011年)とルール変更後(2012年)で投手の投球成績を統計学的観点からこすることを目的とした。

3. 方法

3-1 対象者

2009年から2012年のJSA男子日本リーグ(東西含む)に所属する全投手2009年48名、2010年43名、2011年46名、2012年49名、合計186名(スコア上、記録がない者を除く)とした。

また、女子日本1部リーグに所属する全投手2009年53名、2010年54名、2011年55名、2012年48名、合計210名(スコア上、記録がない者を除く)を対象とした。尚、投手成績はJSA：男子日本(東西)リーグ記録、女子1部日本リーグ記録を調査対象とした(表1)。

表1. 対象とした各々の年における男女の投手人数内訳

	2009	2010	2011	2012	計
男子	48	43	46	49	186
女子	53	54	55	48	210

3-2 検定項目

検定項目は各年度の投手成績を基に、打たれた数を被安打・本塁打の和とし、打たれなかった数を四球、死球、犠打、犠飛、エラーを含む和と定義した。

また、投球成績の変化がルール改正の前後のみかを明らかにするために、2009年-2010年、2010年-2011年、2009年-2012年、2010年-2012年の全5項目を検定の対象とした。

尚、分析した全打者数は、男子は、2009年5414打者、2010年7045打者、2011年6695打者、2012年7443打者、合計26597打者であった。

また、女子は2009年7859打者、2010年5643打者、2011年7895打者、2012年7388打者、合計28785打者を分析の対象とした。

3-3 分析方法

全てのデータは、Microsoft Excel 2010上に入力し、打たれた数と打たれなかった数を算出すると共に、同ソフト上で、両者を差の検定を行うため

に、ピアソンのカイ2乗検定における適合度検定 (Pearson's chi-square test)にて比較することとした。

カイ2乗検定とは、「2011年と2012年では投球成績に有意差はない。」と帰無仮説を設定するために、2×2の分割表から χ^2 値を算出し、 χ^2 分布表を用いて有意水準0.05(χ^2 値3.841)を基準に帰無仮説を棄却・採択するか判定した。

4. 結果

図1は、1試合における各年度別平均投球数の比較である。2009年から2010年にかけては男女とも投球数が増加している。しかし、その後の2010年から2011年にかけては男女とも投球数が減少している傾向が見受けられた。

また、投球ルールの改正が行われた2011年から2012年にかけても同様に、投球数が増加していることが見受けられた。

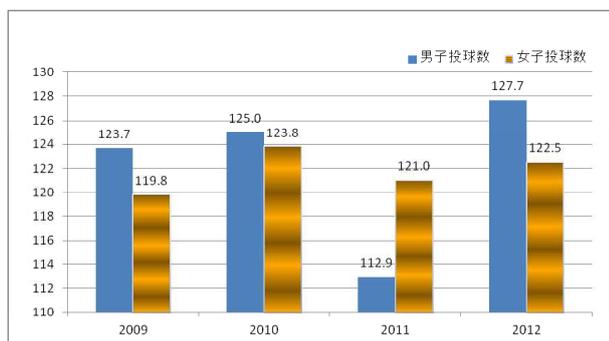


図1. 1試合における各年度別平均投球数の比較

図2は、各年度別防御率の比較を表している。男子は2009年から2010年にかけて防御率は0.3増加しているが、その後は減少傾向にある。女子は2009年から2010年にかけて防御率は0.44増加している。しかし、2010年から2011年にかけては防御率は0.83と減少傾向にあった。

また、2011年から2012年にかけてルール改正が行われたことにより、防御率は0.69増加している。

表2は、各々の年の男女におけるカイ2乗検定の結果である。男子の2011年と2012年で比較した場合、 χ^2 値は0.084であり「2011年と2012年では投

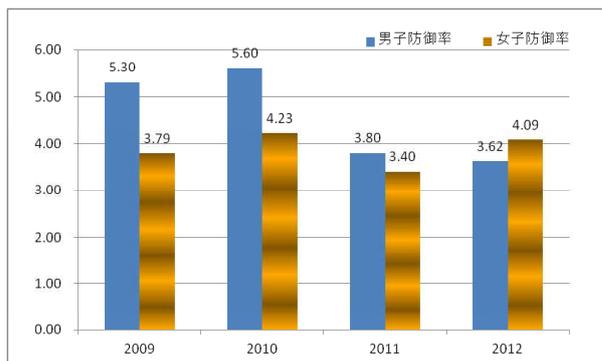


図2. 各年度別防御率の比較

球成績に有意差はない。」という帰無仮説が採択された。これにより2011年と2012年では投球成績に有意差はないことが示された。

また、過去3年間のデータ(2009-2010、2010-2011、2009-2012)も同様にカイ2乗検定を行ったが、いずれも有意水準0.05(χ^2 値3.841)よりも、小さい値を示したため、両者の有意差は認められなかった。

したがって、2011年と2012年で投球成績に有意差は認められず、かつ、その年以前からの投球成績にも有意差は認められないことが示された。

表2. ピアソンのカイ2乗検定における適合度検定 (Pearson's chi-square test)の結果

年度比較		カイ2乗値	
		男子	女子
2009	— 2010	0.229 n.s.	2.680 n.s.
2010	— 2011	2.102 n.s.	1.329 n.s.
2009	— 2012	0.394 n.s.	22.992 **
2010	— 2012	1.428 n.s.	10.255 **
2011	— 2012	0.084 n.s.	4.270 *

n.s.: 非有意 * : p<0.05 ** : p<0.01

一方、女子の場合は、2011年と2012年の χ^2 値は4.270であり有意水準0.05(χ^2 値3.841)をよりも大きな値を示し、帰無仮説は棄却された。よって対立仮説の「2011年と2012年では投球成績に有意差がある。」が採択され投球成績に有意差があると認められた。

しかし、2010年と2011年では、 χ^2 値が1.329と有意水準0.05(χ^2 値3.841)を下回ったため帰無仮説が採択され「2010年と2011年では投球成績に有意差

がない。」ことが証明された。

次に、2009年と2012年では、 χ^2 値が22.992と有意水準0.05(χ^2 値3.841)を大きく上回った。また、2010年と2012年も同様に、 χ^2 値が10.255と有意水準0.05(χ^2 値3.841)を大きく上回り、この年の投球成績には明らかな差があることが示された。

したがって、女子日本リーグに所属する投手の場合は2011年と2012年では投球成績に有意差があった。

5. 考察及びまとめ

本研究では、ルール改正にあたって投球成績は変化し改正前(2011年)の成績よりも改正後(2012年)の方が、よくなっているのではないかと推測していた。しかし分析項目として扱った2009年から2012年の日本リーグ男子に所属する投手全186名のデータを分析したところ「ルール改正前後では投球成績に差はなく、投球成績に差がないことはその年だけのものではなくその年以前から投球成績に差がない」ことが認められた。

これは、投球ルールが変わったところで、競技成績自体は、左右されないことが認められた。また、投手がこれまで築き上げた独自の投球フォームを変化させなかった投手が多かったことも一つの要因と考えられる。

しかしながら、今後データを積み重ね、各対象別(大学・社会人等)に比較、検討することにより、本研究とは異なった結果になることも推察される。

一方、女子日本リーグに所属する投手全210名の結果は、2011年と2012年において有意差があり、2009年と2012年、2010年と2012年では明らかな差があった。

2011年と2012年では有意な差が認められた。

著者自身も投手の経験があるが、ジャンピングスロー(2段ステップ)を行うことにより、上手く身体を使うことができるようになったため、これまでよりもキレがよく速いボールが投げられるようになった。一方、他面から見ると制球力が乱れやすくなった。この体験を基に主観的ではあるが女子選手の投球にキレやスピードが出たが、制

球力が乱れ投球数、防御率ともに増加したのではないかと推察される。

2009年と2012年、2010年と2012年の2項目に関しては、明らかな差がみられた。このことから、2012年のルール改正に伴いジャンピングスローが許可されたことは、投手の投球成績に大きな変化をもたらせたことが見受けられる。

上記の結果からわかるように、男子日本リーグに所属する投手の投球成績には大きな変化は認められなかったが、女子日本リーグに所属する投手の投球成績には大きな差が認められた。

上記のことから、ルール改正に伴い投手成績の変動が確認されたことから、良い成績を得るためには、ルール改正に伴う適応能力が必要不可欠であると考えられる。特に、女子選手においては、12.19mから13.11mへ、白ボールから黄色ボールへ、投手のルール改正等、めまぐるしいルールの変更があり、このルールによって競技を断念した選手も多くいる。

今後、投球フォームが確立されていないジュニアの投手を指導するにあたっては、ルール改正も視野に入れた、適応能力を身につけるために様々な投球フォームを試すことも必要であると考えている。つまり、練習中においても、誰かの投球フォームの真似をすることやいろいろな球種や投げ方を行ってみるといった「遊び心」が必要であり、その「遊び心」がルール改正になった後でも、適応できる能力を身につけることができるのではないかと考えている。

今後の研究課題として、今回はトップリーグの成績を基に分析を行ったため、大学生や高校生など、いろいろなカテゴリーで分析をすると今回とは異なった結果となるかもしれない。また、ジャンピングスロー(2段ステップ)が、投球動作にどのように影響するのか、身体動作学的に分析することも必要であると考えている。

6. 参考・引用文献

- 1) インターネット：フリー百科事典「Wikipedia」
- 2) 大澤 清二：生活の統計学, p134-136, p161

- 3) 市原 清志、佐藤 正一：カラーイメージで学ぶ統計学の基礎第2版, p118-123
- 4) 薩摩 順吉：理工系の数学入門コース確立・統計, p214
- 5) 江口 善章：統計解析の基礎, p126
- 6) 森 真、小川 重善：よくわかる確立統計の基礎と仕組み, p221
- 7) (公財)日本ソフトボール協会：日本リーグ投手結果一覧表
- 8) (公財)日本ソフトボール協会：「2012年ルー

ル改正について」

7. 謝辞

本研究の遂行ならびに本論文をまとめるにあたり日本体育大学落合卓四朗教授にはデータ集計方法・分析、討論などと貴重な示唆を頂戴いたしました。記して厚く感謝申し上げます。また、投手成績を提供して下さった(公財)日本ソフトボール協会事務局の皆様、また関係者の皆様に重ねて感謝申し上げます。

【卒業論文(要約)】 体育授業におけるソフトボールの扱い方について

浅井 麻美 (神戸親和女子大学発達教育学部ジュニアスポーツ教育学科)

1. はじめに

文部科学省・学習指導要領の改正に伴い、平成24年度から球技・ベースボール型＝ソフトボールが中学校1・2年の必修科目となった。それに伴って現場の先生方はベースボール型スポーツを指導するに当り、時間的制約・施設・ソフトボールの技術・評価基準・運動量の確保など多くの問題に直面されている。筆者は小学生の頃から13年間ソフトボールを続けてきた。体育の時間や放課後にソフトボールの練習や試合を行うとなると、野球経験者の友人と共に中心になりプレイしてきた。しかし、野球やソフトボールのルールを何も知らない、経験したこともないという友人は、あまり積極的ではなかった記憶がある。ソフトボールの試合はボールの扱いが、「できる」・「できない」の技能差によって試合が停滞、楽しさも半減する。

限られた学習時間の中で生徒が自ら考え、自己の動きや役割を理解し、生徒が夢中になれる授業を目指し、全員が楽しめるベースボール型のゲームづくりをするためには、どのような指導が必要なのか探っていきたい。ベースボール型スポーツ

はルールが複雑で、筆者も未だに試合中にルールブックを読み返し、確認する場面も少なくはない。そういったなかでいかにルールを簡易化し生徒の発達の段階に応じた授業づくりをすることが重要である。また動いているボールをバッドで打ったり、捕球したり、自分の思ったところに投げたりなどといった技能の習得に時間を費やすだけの授業にならないように留意する必要がある。それには、特定の種目固有の技能を身につけるのではなく、新学習指導要領によりベースボール型、ネット型、ゴール型の3つに分けられた型に共通する動きや技能を身につけさせることを前提としたベースボール型ゲームを発展させたい。

そこで、正式なルールでなくてもベースボール型スポーツ特有の魅力や楽しさを全員の生徒が味わうためには、どのような授業展開が必要なのかを考えたい。そして、筆者がソフトボールの魅力を深く理解しているからこそ、他のスポーツでは味わうことのできない、ソフトボールだけが持っている楽しさを一人でも多くの児童、生徒に伝えていきたい。

2. 研究方法

体育授業におけるソフトボールの望ましい指導方法を追求するため、次のように行った。

1. 文献調査

ソフトボールと体育の授業に関する最近の文献の内容について考察した。

2. アンケート調査の分析考察

平成23年に神戸市立中学校保健体育研究会が行った中学生2,960名を対象とする調査に分析と考察を加えた。

3. 神戸市立の中学校に勤務する保健体育教師8名に対して聞き取り調査を平成24年10月に実施した。

3. 結果並びに考察

1. 実践例

①ゲームの実践例

生徒の発達の段階やグラウンドの環境に応じて、正規のソフトボールのルールや球場ではなく、生徒が学びやすい授業展開にする必要がある。また生徒の意欲・関心を高めるために、得点板を用意したり、チーム名や打順などを生徒同士で考えさせたり、生徒が主体的に考える環境をつくることが大切である。

・ゲーム1（二角ベース）

本塁と一塁のベースだけを用いるので、生徒の人数が少数のときに行う。ルールが部分化されており、ベースボール型の経験のない生徒が多くいるクラスに適している。1チーム5～6人で行い一塁までの距離を正規の距離より広げて置く。一塁を踏めば1点もしくは、ホームベースまで帰ってきて1点など工夫できる。ルールについては2アウト制を用いて、ゲーム展開が素早く進むように意識する。さらにこのゲームは、スピーディーで守備の時間を減らすことにより次の攻撃にさらに意欲的になる。アウトの取り方は、走者にボールを当てる、または正規のように一塁へ走者より速くボールを到達させることによってアウトがとれる。この際に使用するボールはソフトテニスのボールやソフトバレーボールを活用し安全面の配慮を行う。

・ゲーム2（三角ベース）

45度程度に開いた塁ベースを用いるもので、正

規に近い形だが、四角と違って点が入りやすい。二角ベースより少し難しくなるが、生徒が今持っている技能、知識でゲームが楽しめる正規ゲームの導入の段階で用いるゲームである。

・ゲーム3（目指せ得点王）

遠くへボールを飛ばす打撃メインの試合やグラウンドの広さが縦長の場合に用いる。例えば、本塁から10m以内に打球が止まったりそれ以上でも飛球がキャッチされたらアウト、10～15mは単打、15～20mは二塁打、20～25mは三塁打、25m以上は本塁打とする。バッターが打って打球が落ちた場所により、得点や進める塁を決める。守備者が飛球を捕球した場合はアウトとなるため、全員が打ってから攻守交代を選択した方が効率が良い。

・ゲーム4（正規のゲーム）

生徒が簡易ゲームでルールや基礎的な技能が身につけば正規のソフトボールのゲームに移行する。しかし、男女の体力の差や経験値によって投球スタイルや投本間の距離、守備者の人数、球場の規格などに配慮することが重要である。また、ベンチの設置をすることにより、安全面の配慮につながる。なお、審判やスコアラー係りなど、役割分担を明確にし、ゲームを遂行すると、試合の流れやルールについても覚えやすい。

②安全面の配慮

技能の習得の場面で安全面についても触れてきたが、生徒はソフトボールに対して（特に打撃において）、グリップがすれて痛いまた打撃後にバットを後方に投げだす行為などで恐怖心を感じることがある。競技ソフトボールでの事故は、大きさまであるが、命にかかわるような事故まで起きているのが現状である。

現場の先生方の聴き取りから、主にバッティングの練習をしている際に、事故が起きていることが多いようである。特に、初心者へのアドバイスがポイントで『全力で思い切り振りなさい。』と指導した際に鎖骨が折れるような重大なケガにもつながっていた。他にもバットを振り過ぎて、自分のバットが側頭部を強打するようなケガをしたということである。バットを振ったことがない生

徒にスイングすることによって、想像もしていない事故が起こることもある。

スポーツにおけるケガや事故の未然防止には、生徒に安全知識を理解させるとともに、指導者も安全についての知識を深める必要がある。安全の確保という観点からの授業中の観察も重要なポイントである。例えば、ソフトボールでは野手と走者との触塁に際しての事故が多いので、これを防ぐために、ベースを2m×2m程度に大きくすることを考えた先生がいた。このことで安全面がかなり確保される。学校体育ソフトボール専用の少し大きいベースも販売されているが、そのベースがない場合、普段の大きさのベースを置きその周り

<評価観点及び趣旨>

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 球技に積極的に取り組むとともにフェアなプレイを守ろうとする。 分担した役割を果たそうとする。 作戦などについての話し合いに参加しようとする。 安全面に気を配っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題や状況に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにすること 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な技能や仲間と連携した動きで、ゲームが展開できるようにする。 ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防を展開することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 球技の特性や成り立ち、技術の行い方、関連して高まる体力や体の動かし方などを理解している。

<ベースボール型のバット操作やボール操作とボール操作の動きの例>

観 点	中学校1・2年	中学校3年
指 導 内 容	ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などで攻防を展開すること。	ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって、攻防を展開すること。
ゲームの様相	攻撃を重視して、易しい投球を打ち返したり、定位置で守ったり攻防を展開できるようにする。	易しい投球に対する安定した打撃により出塁・進塁・得点する攻撃と仲間と連携した攻防を展開できるようにすること。
バット操作	<ul style="list-style-type: none"> 肩越しでのバットの構え レベルスイング タイミングを合わせた打撃 	<ul style="list-style-type: none"> 体の軸を安定させたスイング 高さやコースへのタイミング ねらった方向への打ち返し
ボール操作	<ul style="list-style-type: none"> ゆるい打球に対応した捕球 大きな動作での送球 正面の送球をうける 	<ul style="list-style-type: none"> 最短距離で移動した捕球 一連の動きでの送球 タイミングよく送球を受けたり中継したりする。

ソフトボールの評価は非常に難しい。技能の評価につながるスキルテストは時間を費やし、技能の差が激しいため基準を決めなければならない。しかし、授業の前に説明することで、生徒にとって目標がしっかりと定まるので、実施した方が意欲や関心が持てる。これらの40人の生徒、各一人一人全て評価することはできない。その中で、指

導者は、日本体育ソフトボール協会が提示しているソフトボールの基本用語やルールを毎回の授業でプリントをするなどして、知識・理解を評価する工夫も手間をとるが、大切である。

2. ソフトボールについての調査結果

神戸市内の中学生2,960名を対象にしたアンケート結果の一部を紹介する。

ベースボール型スポーツアンケート結果 (%)

質問項目	回答	男子 N=1552			女子 N=1408		
		1年生 N=579	2年生 N=569	3年生 N=404	1年生 N=549	2年生 N=519	3年生 N=340
ソフトボールを知っていますか。	よく知っている	26.8	18.8	17.6	6.1	6.3	14.2
	知っている	38.2	42.0	34.0	38.8	32.7	32.0
	少しわかる	26.8	29.2	31.1	42.5	40.3	42.7
	全く知らない	8.3	10.0	17.3	12.6	20.7	11.1
ソフトボールを観たことがありますか。	ある	66.8	50.9	75.5	62.1	46.9	65.1
	ない	33.2	49.1	24.5	38.8	53.1	34.9
ソフトボールをやったことがありますか	ある	49.3	48.6	51.0	36.9	32.2	36.2
	ない	50.7	51.4	49.0	63.1	67.8	63.8
ソフトボールに対する印象を答えて下さい。 (複数回答あり)	難しい	40.2	41.3	36.1	60.3	63.2	64.4
	簡単	19.0	17.0	11.9	2.0	3.5	4.1
	安全	8.8	10.4	9.7	4.6	2.1	0.9
	危険	33.8	34.4	22.0	23.3	32.8	30.9
	面白い	53.0	53.3	54.5	26.4	46.1	44.4
	面白くない	17.3	10.2	9.7	18.2	16.4	9.4
	かっこいい	16.9	20.0	14.4	30.4	30.8	36.8
	かっこわるい	4.3	2.5	3.5	0.4	14.8	0.0
	その他	12.3	2.8	7.4	7.7	4.6	12.4
グローブをつけて、キャッチボールをしたことがありますか。	ある	83.2	90.1	90.8	53.2	54.3	50.6
	ない	16.8	9.9	9.2	46.8	45.7	49.4
バットでボールを打ったことがありますか。	ある	86.9	91.9	90.1	64.4	73.1	61.6
	ない	13.1	8.1	9.9	35.6	26.9	38.4

このアンケートは、平成23年1月に神戸市立中学校保健体育研究会が行ったものであるが、同研究会の先生方は次のように考察を加えている。

1. 「ソフトボールを知っていますか。」という質問に対し、男子の方が「よく知っている・知っている」と答える生徒が多かった。
2. 「ソフトボールを観たことがありますか。」という質問に対しては男女ともほぼ観たことがある生徒が多かった。
3. 「ソフトボールをやったことがありますか。」という質問に対し、男女とも約半数以上の生徒がやったことがないと答えた。
4. 「ソフトボールに対する印象」について質問すると、男子は「面白い」と答える生徒が半数以上いた。次に多いのが「難しい」と答える生徒だった。観る面白さや、プレイする面白さを感じる生徒が多いと考えられる。難しいと感じる生徒はプレイ経験がないことやボールをバットに当てること、ボールをグローブでキャッチすること、そしてルールの複雑さに難しさを感じるのではないかと考えられる。女子の場合、男子とは反対に「難しい」と感じる生徒が一番多かった。次に多かったのは、「面白い」だった。男子と女子では、逆の順番になった。「難しい」という理由では男女に違いがあるとは思われないが、経験の少ない女子が「面白い」と感じるのはどの部分なのか研究の材料となるのではないかと感じた。
5. 「グローブをつけて、キャッチボールをしたことがありますか。」という質問に対し、「ある」と答えた男子生徒は多かった。女子は「ある・ない」の約半分ずつに分かれた。男子生徒はほぼ経験したことがあるという結果になった。
6. 「バットでボールを打ったことがありますか。」という質問に対し、男子は「ない」と答える生徒が少なかった。女子も「キャッチボールをしたことがある」よりは「バットで打ったことがある」と答える生徒が多かった。

このアンケートの結果を受け、神戸市内の中学校での取り組みの基本は次のようであった。

1. 施設環境や生徒数などに合わせた授業計画
2. ゲームを楽しむために必要な基本的技能の向上
3. 未熟な技能でもソフトボールの特性を味わうことができるゲーム設定

これに加えて以下のように考察することができる。

アンケートの結果から、ソフトボール（野球も含めて）を観たことはあるが、経験したことがないという生徒が男女とも多く見られる。野球やソフトボールといったスポーツを経験したことがないということは、生徒の幼少期～少年期にかけての遊びの変容が関係しているのではないかと思われる。筆者自身の幼少期、少年期は父や兄とキャッチボールをしたり、近所の友人と野球やソフトボールをしたりしていた（女子は1人だった。）。野球やソフトボールと平行してゲームボーイやカードゲームなどの屋内で遊ぶゲームをすることが多くなった。近年では、子どもの遊ぶ3つの間、「時間」「空間」「仲間」がなくなり、なかなか屋外で集団的に遊ぶことは少なくなった。最近では、公園に行くと、「バットは振らないように」「キャッチボール禁止」「野球禁止」といった看板をよく見かける。このような環境の中で、野球離れやソフトボール離れを招く原因といわれるようになった。しかし、アンケートを見てみると、約半数以上の生徒が、ソフトボールのゲームは未経験だが、キャッチボールやバットでボールを打ったことがあるという。男子生徒に関してはソフトボールに対してとても興味・関心を示している。ソフトボールに興味を持たない男子生徒は運動が苦手な生徒も含まれると思う。特に男子生徒は運動をする生徒としない生徒の差が激しいので、運動をする生徒もしない生徒もお互いに楽しめる授業づくりが必要である。女子についてはソフトボールを未経験という生徒が多く、ソフトボールの印象に対して多くの生徒が難しいと感じている。男子と比べて女子が野球をするということに蟠りはあるのだろうか。しかし中にはキャッチボールを経験したことがある生徒が約半分見られたので、兄や弟の影響を受けたのではないかと感じた。技

能の習得やルールを理解することに難しさを感じ、興味をもたなくなる。技能の習得はより簡単に女子生徒でもわかりやすく、できたという実感や達成感が味わえるような授業展開が必要である。女子生徒は打撃に興味をもっており、打撃を中心にティーボールやテニスのボール遠くへ飛ばすというルールの工夫などで授業を進めていくことにより面白いという実感がわくかもしれない。女子が面白いと感じるところは、ヒットを打てたり、ボールを捕球できたりという、できなかったことができるようになったことなど成功体験ではないだろうか。女子はそれが友人であっても喜べる。やはり達成感を味わえる授業展開が必要である。

続いて安全面に注目する。ソフトボールは危険だと感じている生徒が、男女とも3割程度認められた。ソフトボールは硬いボール、金属バットを使用し、走塁時の接触、様々な事故が起こる可能性がある。いかに生徒に安全にプレーさせるかを考え、生徒を安心させることが重要となる。常に安全についてのルールを決め生徒の恐怖心を取り除いてあげて注意しなければならない。

3. まとめ

『体育授業におけるソフトボールの扱い方』について調査・研究した結果、データや現場の先生方からの聴き取りから、環境・用具・施設・生徒の経験値の差・生徒の発達段階によって授業展開を工夫することが最も重要だということが分かった。工夫された授業を展開していくためには、豊富な知識、研究心が必要である。指導者が生徒の自発性・自主性を導き、自ら学び・考えることができる授業づくりが必要である。現場の先生方は多忙な中でも、アンケートやワークシートのチェックを欠かさない。用紙の作成などに時間を使っても、生徒一人ひとりの表情や課題の克服状況を確認し、これが工夫された授業につながってい

るのではないかと感じた。

学校体育において、「楽しさ・面白さ」は絶対になくしてはならない。それは次なる興味、関心につながるからである。生徒自身のイメージの中で楽しさがなければ、真剣に取り組まなくなる。これは全教科に共通していえることでもあるが、大人は楽しさを求めるだけでは授業にならないと考えてしまう。子どもたちは「遊びのプロ」であり、ボール1つでいろんな遊び方を思いつく。楽しさや面白さを追求した後は、公正さも遊びの中でみつけることがある。男女とも共通していえることだが、遊びに近づけた、簡素化した練習やゲームが面白いと感じることは多い。面白い・楽しいと感じることにより、もっとやりたいと思うようになるだろう。今後、様々な経験を積み、たくさん指導の引き出しを持ち、多くの生徒にソフトボールの魅力を知ってもらい、楽しませられるような工夫をを積み重ねていきたい。

4. 引用参考文献

1. ソフトボール指導教本 日本ソフトボール協会 日本体育社
2. 体育科教育 2011年 5月号 大修館書店
3. 学校体育ソフトボールガイドブック 日本ソフトボール協会 日本体育社
4. 体育に授業づくりと授業研究 小林 篤 大修館書店
5. 教師のための運動学 三木四郎 大修館書店
6. 小学校学習指導要領解説 体育編 文部科学省 東山書房
7. 中学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省 東山書房
8. 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省 東山書房

(編集部註：卒業論文は分量が多いので、筆者に要約を掲載するということで了解いただきました。)



文部科学大臣杯第47回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会期：平成24年8月31日(木)～9月3日(月)

会場：埼玉県坂戸市／坂戸市民運動公園軟式野球場 他

大会概要

早稲田大学 圧倒的な力で7年ぶり2回目の優勝

大会記録長 常岡昇

今年で47回目を迎えた大会は、埼玉県坂戸市・坂戸市民総合運動公園の3会場と鶴ヶ島市運動公園において、各ブロック予選会を勝ち上がった32チームの精鋭が参加して開催された。

大会は、初日、2日目と降雨、雷雨に見舞われ会場を変更して行われたが、準々決勝までの28試合は日程通り終了した。しかし、初日の坂戸市民運動公園多目的運動場の第4試合を同運動公園軟式野球場B球場の第5試合へと2日目の鶴ヶ島市運動公園サブグラウンドの2試合目から多目的広場へ移動し、試合が行われた。この移動に際し、迅速な対応を取っていただいた会場委員に対し感謝したい。

優勝した早稲田大学は2回戦において、9点をリードした後、7人の野手を変えたことにより6失点したが、それがなければ全試合コールドゲームとなり、走好守3拍子揃った総合力で他を寄せ付けない圧勝だった。神戸学院大学は、2回戦で日本体育大学を破った勢いがそのまま続き、過去最高の3位から脱出し準優勝となった。3位には強豪中京大学と2回戦で環太平洋大学を、準々決勝で昨年優勝の中京学院大学を破り勝ち上がった、初出場の九州共立大学を称賛したい。

今大会において、太田宗之祐（早稲田大学）選手は、8連続安打、最高打率8割3分3厘の新記録を達成した。

大会講評

関東地区常任理事 大塚 隆
埼玉県坂戸市、鶴ヶ島市で開催された第47回全

日本大学男子ソフトボール選手権大会は、早稲田大学の7年ぶり2回目の優勝、神戸学院大学の準優勝で幕を閉じた。

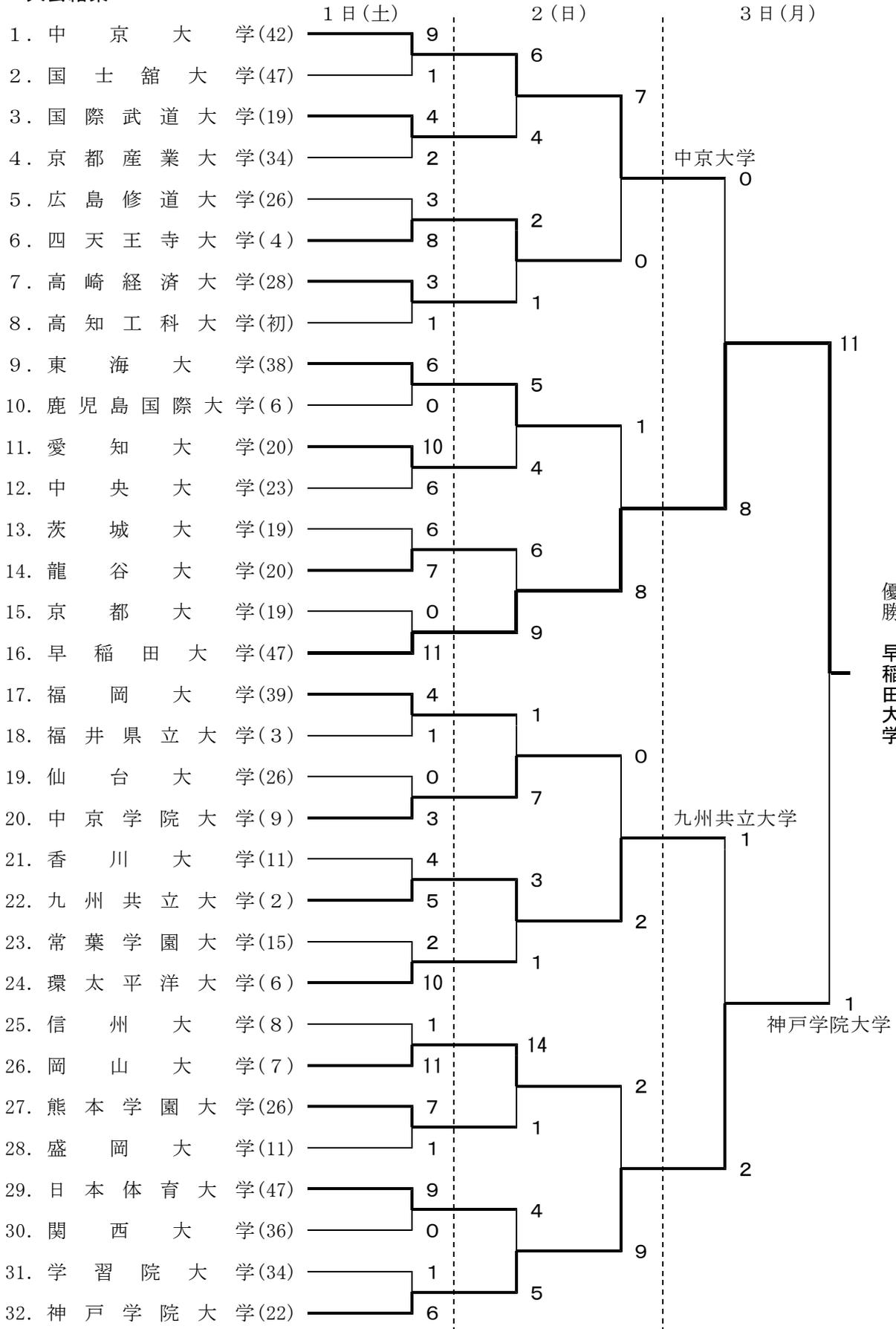
早稲田大学は、5試合中4試合がコールド勝ちという圧倒的な強さでの優勝であった。大会を通じて好調だった左腕古川恵士投手（3年）を、どのチームも打ち崩すことができなかった。加えて、俊足を活かしたそつのない走塁と破壊力のある長打を絡め、大量得点をあげる攻撃をどのチームも押さえることができなかった。

準優勝の神戸学院大学は、片岡正貴投手（4年）を中心に、接戦を制しながら決勝まで勝ち上がってきた。特に、2回戦日本体育大学戦や準決勝九州共立大学戦では、緊迫した雰囲気の中、チームの底力を伺わせる見応えのある試合を展開した。

本大会では、得点差のある試合はあったものの、各チームの力は均衡しており、好ゲームが多かったように感じる。一つのプレーが試合の流れを左右する。その流れを逃さずに得点できる、またピンチの場面で流れを止める堅実な守備がでるかどうかが、勝つためには大切であることを改めて確認することのできる大会であった。

男子会場に華を添えたのは、日本体育大学の吹奏楽・チアリーディング、早稲田大学の応援団・チアリーディングであった。対戦相手にとってはやりづらかったことと思われるが、応援される選手には心強かったことであろう。また、今年度はカラー印刷による選手の顔写真入プログラムが販売され、すぐに完売となった。観客席では、そのプログラムを見ながら応援や観戦が行われていた。このような応援・観戦の形態は、大学男子ソフトボールの普及発展に一石を投じるものであるように思われる。学生には、応援に恥じないような姿勢や態度でのプレーを期待したい。

大会結果



7年ぶり2回目
優勝 早稲田大学

※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼第1日（9月1日）1回戦

中京大学 00252 : 9
 国土館大学 10000 : 1

[中] ○深津悠平－和田隆太
 (本)小池昌弘、山口恭平
 (三)伊藤太慈 (二)小池昌弘

[国] ●小林大記、武井大樹－吉田 学
 (二)勝沼雄斗

【評】1点を追う中京大は、3回に小池の2ランで逆転すると、4回には打者一巡・6安打の集中打を浴びせて大量リードを奪い、試合を決めた。国土館大は初回、今泉のタイムリーで先制。2回以降も三塁まで走者を進めるものの、本塁が遠かった。

京都産業大学 0020000 : 2
 国際武道大学 000310x : 4

[京] ●合田圭佑－奥村雄太
 (三)左脇正人 (二)杉中義明

[国] ○滝口悠真－小澤拓也

【評】2点を先行された国際武道大は、4回に小澤の三遊間安打を足がかりに、四球・安打に敵失を絡めて3点を奪って逆転。5回にも1点を加え、このリードを滝口投手の力投で守り、逆転勝ちした。京都産業大は、3回に、敵失を足がかりに3本の長短打を浴びせて2点を先取したが、4回以降加点できず。最終回も走者を三塁に置くも得点に至らず敗れた。

四天王寺大学 2120012 : 8
 広島修道大学 0100002 : 3

[四] ○中松竜佑－上野佑貴
 (二)敷田哲平②、長嶋建太

[広] ●酒井悠希、川合勇作－森良輔、鳥谷 賢

【評】雨天のため、1時間44分に及ぶ断続的な中断のあったこの試合は、四天王寺大が初回に1点を先行するなど、序盤に5点を挙げ、終盤にも二塁打を足場にするなどして着々と加点し、試合を決めた。広島修道大は、あとのない最終回、2つの四球から玉里のタイムリーで2点を返し、なお

も二死満塁のチャンスを築いたが、力尽きた。

高知工科大学 0000001 : 1
 高崎経済大学 200100x : 3

[知] ●赤木亮太－上瀬恭介
 (三)安井 新

[崎] ○滝本 涼－金井塚和希

【評】高崎経済大は初回、無死二、三塁で金井塚が投手強襲の安打を放ち2点を先制。4回にも二死から梁瀬の適時打で追加点を挙げ試合を優勢に進めた。高知工科大は高崎の滝本投手に4安打に抑えられたが、最終回に大島のセンター前安打で1点を返し意地をみせた。

東海大学 0211020 : 6

鹿児島国際大学 0000000 : 0

[東] ○高橋宏允－竹内和樹

(二)田中翔太

[鹿] ●二反田義征－厚地了実

(二)米森大貴

【評】東海大は2回、3つの四死球で満塁とすると、福永の先制タイムリーと田中の犠牲フライで2点を先制。3回に1点、4回にも1点を加えると、6回は2本の安打にダブルスチールを絡めて2点を挙げてダメ押しした。鹿児島国際大は、再三にわたって塁上に走者を送るものの、あと一本が出ず。最終回も米森が二塁打で出塁したが、後続を断たれて涙を飲んだ。

愛知大学 1034020 : 10

中央大学 0004200 : 6

[愛] ○林 俊輔－小池祐太

(本)林 俊輔②、飯田 啓

(三)小池祐太、宮崎 諒

(二)小池祐太、栗本拓哉

[中] ●小山祐輝、平野智士、小山祐輝－

村田貴大

(本)植西剛大

【評】愛知大は初回、小池の三塁打に暴投が絡んで先制点を挙げ、3回に林の3ランで加点すると、4回には林の2打席連続となる3ランなどで4点

を加えた。投げて、林は被安打8を浴びながら粘り強く奪三振5で要所を抑えて反撃を断ち、2回戦にコマを進めた。中央大は4回に植西の2ランなどで4点を返して反撃すると、5回にも打者8人の攻撃で2点を返したが、猛追及ばず敗れた。

茨城大学 2030100 : 6
龍谷大学 111130x : 7

[茨] 島根聖平、●山崎 翼ー根本隆範

(三)山崎 翼 (二)阿部武仁、岡田純平

[龍] ○戸梶紘希ー浅浦紘太郎

(三)浅浦紘太郎 (二)西川 健

【評】龍谷大は、2点を先行されて迎えた5回、敵失から西川のこの試合2本目となる二塁打などで3点を奪って逆転に成功。終盤の攻撃を封じて粘り勝ちで2回戦にコマを進めた。茨城大学は初回に2点、3回にも2本の長打などで3点を加え、試合を優勢に進めたが、逆転された6回二死満塁の絶好機であと1本が出ず、惜敗した。

京都大学 00000 : 0

早稲田大学 01100x : 11

[京] ●湯井大貴ー辻 英剛

[早] ○古川恵士、西村直晟、増井和輝ー

平野修太、沓澤 翔

(本)平野修太

【評】早稲田大は、3回に平野のグランドスラムなど、打者16人・10安打の猛攻で大量10点を挙げると、3投手のリレーで快勝。京都大は、4回に連続安打で一、三塁の好機を築くも、得点できず敗れた。

福岡大学 0011011 : 4

福井県立大学 1000000 : 1

[岡] ○梶原大志ー山口直人

(三)山口直人

[井] ●伊藤暢康ー渡辺貴弘

(三)辻野秀平 (二)長谷川竜太

【評】福岡大は1点を先制されたが、3回表戸川の適時打で同点に追いつき、4回には山口の左越え三塁打で逆転。6回、7回にも四球で出塁した

走者を返し二回戦に進出した。

福井県立大も初回、一死一、三塁から重盗を決め先制点を挙げたが、その後は福岡大の梶原投手に抑えられた。

仙台大学 0000000 : 0
中京学院大学 010200x : 3

(二)畠山真司

[仙] ●八重樫祐紀ー猪原直和

[中] ○片岡 涼ー園田智幸

(三)大井英幸 (二)山下 治、池見郁哉

【評】中京学院大は、大井の適時三塁打で1点を先取すると、4回には池見の2点タイムリー二塁打で加点。投げては片岡投手が三塁を踏ませないピッチングで無失点に抑え、2回戦進出を決めた。仙台大は、相手投手を攻めめぐみ、塁上に走者を置くものの得点には至らず。最終回も二死から安打の走者を出したが、反撃及ばずに敗れた。

香川大学 0020020 : 4
九州共立大学 400001x : 5

[香] ●柳田諭志ー仁科英明

(二)千代盛翔平

[九] ○前田征那、三谷祥平ー山田雄太郎

(二)笠立孝彰、立石勤大

【評】九州共立大は、初回到打者一巡・5安打の攻撃で4点を先制後、同点とされた6回、敵失からバント安打と犠牲フライで再度勝ち越し。この1点を先発・前田投手から継投した三谷投手が守りきり、激戦を制した。香川大は、4点を先行された3回に2点を返すと、6回にも千代盛の二塁打などで2点を加え一旦は同点に追いついた。しかしあと一歩及ばず惜敗した。

常葉学園大学 00020 : 2
環太平洋大学 9001x : 10

[常] ●神菌晃智、平良希ー佐藤 光

(本)高橋孝芳

[環] ○今谷圭吾ー小幡瑛司

(本)松藤創一、中本直樹

【評】日没のため照明のある軟式球場に球場を移

して行われたこの試合で、環太平洋大は初回、松藤、中本の2本塁打を含む6安打などで9点を先制。常葉学園大も4回に高橋のセンターオーバーの本塁打で2点を挙げ反撃したが、初回の失点があまりにも大きく及ばなかった。

岡山大学 4 1 6 0 0 : 11

信州大学 1 0 0 0 0 : 1

[岡] ○水野拓実ー尾相史人

(本)池内拓洋 (二)大谷俊貴

[信] ●鈴木拓也ー富岡 諭

【評】岡山大は四球、死球、二塁打などで4点を先制。その後も2回に1点、3回に満塁ホームランなどで6点加点して試合を決めた。信州大学も初回到敵失を絡めて1点を返したが、2回以降相手投手に反撃を断たれた。

盛岡大学 0 0 0 0 1 0 0 : 1

熊本学園大学 1 2 0 0 4 0 x : 7

[盛] ●櫻田亮介ー杉山大輔

(本)平山将司、濱崎裕太 (三)栗生裕介

[熊] ○土田翔平、内村駿介ー栗生裕介

(本)杉山大輔

【評】熊本学園大は初回から得点を重ね、5回には平山、濱崎の連続アーチなどで4得点を挙げ試合を決めた。盛岡大は5回、初安打となる杉山のホームランで1点を奪うも、反撃はこの1点にとどまった。

関西大学 0 0 0 0 0 : 0

日本体育大学 0 4 2 3 x : 9

[関] ●西耕太郎ー永見淳

[日] ○立石壮平、河野拓郎ー中西康太

(本)遠藤大輔、古敷谷亮、久保和正

(二)中西康太

【評】日本体育大が、4回の3連弾など終始攻撃の手を緩めず、投げて、立石・河野の継投で出塁を許さず、快勝した。関西大学は、西投手が初回の立ち上がり、連続三振を含め三者凡退としたが、2回以降相手打線につかまり、打線も沈黙してコールドゲームで敗れた。

神戸学院大学 1 4 0 1 0 0 0 : 6

学習院大学 0 0 0 0 0 0 1 : 1

[神] ○片岡正貴、楠岡侑也、津森伸、永野塁ー丸山大地

(本)川島正敬、(二)川島正敬

[学] ●照山篤融、島村裕輝、西田圭吾ー黒澤淳

(三)大森寛文、山下義朗

【評】神戸学院大は1点先行して迎えた2回、先発・照山投手をつかまえ、和田の2点タイムリーと川島の左越え2ランなどで4点を挙げ勝利した。学習院大は毎回のように安打を放つものの得点につながらず、最終回、代打・山下の三塁打で1点を挙げたが及ばなかった。

▼第2日(9月2日)2回戦

中京大学 0 0 2 0 0 0 4 : 6

国際武道大学 4 0 0 0 0 0 0 : 4

[中] ○深津悠平ー和田隆太

(三)山田将也 (二)伊藤太慈

[国] ●滝口悠真ー小澤拓也

(三)照屋凌 (二)岩間謙司郎、小澤拓也

【評】中京大は、4点ビハインドで迎えた3回に2点を奪うと、後がない7回には、二死から、小池の一塁線を破る起死回生のヒットで満塁の走者を一掃するなど、都合4点を加えて鮮やかな逆転勝ちをおさめた。国際武道大は初回到4点を先行したが、リードを守りきれずに力尽きた。

四天王寺大学 1 0 0 0 0 0 0 1 : 2

高崎経済大学 0 0 1 0 0 0 0 0 : 1

[四] ○中松竜佑ー上野佑貴

(本)鴻谷亮介

[高] ●滝本 涼ー金井塚和希

(本)梶原裕作(二)金井塚和希

【評】四天王寺大・中松、高崎経済大・滝本両投手の投げ合いとなったこの試合は、1対1の同点のまま、タイブレーカーに突入。四天王寺大は8回、内野ゴロと野選で二塁走者を還し、勝ち越し。その裏の高崎経済大の反撃を断ち、激闘を制した。高崎経済大は、7回裏無死満塁の絶好機を得点に結び付けることができず、惜敗した。

東海大学 0400010 : 5
愛知大学 2001010 : 4

[東] 持田直哉、○高橋宏允ー竹内和樹
(三)浅原史登

[愛] ●林 俊輔ー小池祐太
(本)栗本拓哉

【評】東海大は2回、3本の安打に敵失が絡んで、4点を奪って逆転。6回にも浅原の三塁打で1点を加え、接戦をものにした。愛知大は1回に栗本の本塁打などで2点を先行、4・6回にも1点ずつ加えて追撃したが及ばずに惜敗した。

早稲田大学 3510000 : 9
龍谷大学 0003300 : 6

[早] 西村直晟、○大嶋翼、増井和輝ー平野修太
(本)北村和也 (三)溝口 聖②
(二)吉田享平

[龍] ●戸梶紘希ー浅浦紘太郎
(二)戸梶紘希、原畑英治

【評】早稲田大は、初回二死満塁から溝口の走者一掃のタイムリー三塁打で3点を先取。2回には溝口の2打席連続の三塁打を含む打者一巡・5安打の攻撃で5点を挙げ、3回にも北村のソロで1点を加えた。龍谷大は、大量失点を追う展開で迎えた4回にまず3点を奪うと、5回にも4連打で3点を挙げて必死の追い上げを見せたがあと一歩及ばずに敗れた。

福岡大学 0010000 : 1
中京学院大学 101032x : 7

[福] ●梶原大志ー山口直人
(二)山口直人

[中] ○竹本流星ー園田智幸
(本)芝 大紀、山下 治

【評】中京学院大は、同点に追いつかれた3回、一死満塁から山下が四球を選んで、勝ち越しに成功。5回には山下の2ランなどで3点、6回にも小橋の2点タイムリーで得点を重ね、試合を決めた。福岡大は、3回に四球と安打2本に野選で1点を挙げ、一旦は同点に追いついた。しかし、再勝ち越しを許した後は、チャンスをつくるものの、

得点に結びつかず、2回戦で姿を消した。

環太平洋大学 1000000 : 1
九州共立大学 010110x : 3

[環] ●今谷圭吾ー小幡瑛司

[九] ○三谷祥平ー山田雄太郎
(二)山田雄太郎、立石勤大

【評】九州共立大は2回に同点に追いつくと、4回に山田・立石の二塁打で1点、5回にも3本の安打で1点を加えた。投げては、三谷投手の要所を抑えるピッチングで、環太平洋大の反撃を許さず、準々決勝進出を決めた。環太平洋大は、初回に中本のレフト前安打から1点を先取。しかし、2回以降は3・4・5回と走者を三塁に置くものの、あとひと押しが出ず惜敗した。

岡山大学 01913 : 14
熊本学園大学 00010 : 1

[岡] ○水野拓実、水谷晃敏ー居相史人
(三)吉田光一 (二)平井貴久二

[熊] ●土田翔平、内村駿介ー栗生裕介

【評】岡山大は2回に1点を先行、3回には打者14人・6安打の猛攻で大量9点を挙げ、試合を決めた。追う熊本学園大は、4回に2本の安打と四球で二死満塁とすると、死球押し出しで1点を返した。5回にも、二死ながら3連打で満塁の好機を築いたが、後続が断たれて敗れた。

日本体育大学 0100300 : 4
神戸学院大学 200300x : 5

[日] ●立石壮平ー中西康太

(本)深谷祐太、久保和正 (二)山崎正晴

[神] ○片岡正貴ー丸山大地

(本)川島正敬 (三)樋上翔平

【評】神戸学院大は初回、一死一塁から川島の2ランで先制。4回には、一死満塁から道仲の犠飛でまず1点、樋上の三塁打で2点を加えると、このリードを片岡が1点差でしのいで逃げ切った。日本体育大は、4点差を追う5回に先頭・山崎の二塁打を足場に、久保の2ランなどで1点差としたが、あと一歩及ばず。

▼第2日（9月2日）準々決勝戦

中京大学 100411 : 7
 四天王寺大学 000000 : 0

[中] ○深津悠平－和田隆太
 (本)和田隆太 (二)石原健司

[四] ●中松竜佑－上野佑貴

【評】1点を先制した中京大は4回、4番・和田がセンターオーバーの3点本塁打などで4得点。5回と6回にも敵失につけ込み、1点ずつを追加しコールド勝ちをした。四天王寺大は元気のあるはつらつとしたプレーだったが、中京大の深津投手に6回まで無安打無得点に抑えられた。深津投手は9奪三振、内野ゴロ6、内野飛球2、外野飛球1、四球1、死球1。

東海大学 00001 : 1
 早稲田大学 2105x : 8

[東] ●高橋宏允－竹内和樹、有泉賢太
 [早] ○古川恵士－平野修太
 (二)平野修太、兼子修治

【評】早稲田大は初回、平野の2点二塁打で先制すると、2回に1点を加え、4回には打者一巡・6安打で大量5点を奪い、準決勝進出を決めた。東海大は、4回まで走者1人に抑えられていたが、5回、先頭の代打・平山が中前安打で出塁。盗塁などで三進後、有泉の内野安打で生還。しかし反撃はこの1点にとどまり敗れた。

中京学院大学 0000000 : 0
 九州共立大学 020000x : 2

[中] ●片岡 涼－園田智幸
 [九] ○三谷祥平－山田雄太郎

【評】九州共立大は2回、二死ながら安打と死球から走者二、三塁の絶好機を築くと、8番・前田の打球は三遊間を破る安打となり、二者が生還。結局この得点が決勝点となり、ワンチャンスを生かした九州共立大がベスト4に名乗りを上げた。中京学院大は、毎回のように走者を出しながら得点することができない苦しい試合展開。目指した二連覇を成し遂げることはできなかった。

岡山大学 00200 : 2
 神戸学院大学 44001x : 9

[岡] ●水野拓実－居相史人
 (二)池内拓洋
 [神] ○永野 塁、楠岡侑也－丸山大地
 (本)岩田貴晶 (三)河添幹也

【評】神戸学院大は初回到河本の2点三塁打などで4点を先取、2回にも岩田の3ランなど打者一巡で4点を追加、大量リードを奪って試合を決めた。岡山大は3回に池内の二塁打などで2点を挙げた。しかし、反撃はこの2点にとどまり準決勝進出はならなかった。

▼第3日（9月3日）準決勝戦

中京大学 00000 : 0
 早稲田大学 2024x : 8

[中] ●深津悠平－和田隆太
 [早] ○古川恵士－平野修太
 (本)大川 孝也

【評】東日本と西日本の覇者同士の対戦となった準決勝戦、早稲田大は初回、一死三塁から吉田の中前安打で先制、溝口の安打でさらに1点を加えると、3回に2点、4回にも打者一巡の攻撃で4点を加えて大量リードを奪い、5回の中京大の攻撃を3人で抑えて決勝進出を決めた。中京大は、ここまで3試合を粘りの投球で投げ抜いてきた深津投手が力投したが、早稲田打線につかまり、西日本優勝の勢いをつなげられず昨年が続いて決勝進出はならなかった。

九州共立大学 0000001 : 1
 神戸学院大学 110000x : 2

[九] ●前田征那－山田雄太郎
 [神] ○片岡正貴－丸山大地
 (本)川島正敬

【評】神戸学院大は初回、二死から川島の中越弾で1点を先制。2回には安打で出塁の走者が暴投と犠打で三進、河添の適時打で還って1点を加えると、片岡投手が相手打線の反撃をしのぎ、接戦をものにした。九州共立大は、6回まで得点を奪

えず、あとがない7回に立石の安打を足場に1点を返し、一矢を報いたが、反撃及ばず敗れた。

▼第3日（9月4日）決勝戦

神戸学院大学 00010 : 1
早稲田大学 0632x : 11

[神] ●片岡正貴、永野 塁一丸山大地

[早] ○古川恵士ー平野修太

(二)北村和也、平野修太

【評】早稲田大は2回、2つの押し出しと北村と平野の2点タイムリー二塁打2本などで大量6点を先行すると、着々と加点。観客席の応援を背に受けて、7年ぶり2回目の栄冠を勝ちとった。神戸学院大は3回まで二塁を踏めない苦しい試合展開。4回に樋上の安打を足場に1点を返したが、早稲田・古川投手を崩せず涙を飲んだが、西日本初戦敗退の屈辱を晴らす見事な準優勝であった。

男子大会打撃ベスト20（規定打席数12以上）

打方	位 置	選 手 名	大 学 名	打 席	打 点	安 打	得 点	打 球	犠 打	四 球	死 球	三 振	盗 塁	残 塁	打 出	二 塁	三 塁	本 塁	打 撃 率	試 合	
L	8	太田宗之祐	早稲田	16	12	8	6	4	0	2	2	0	7	5	0	14	0	0	0	0.875	5
L	DP	溝口 聖	早稲田	15	13	10	4	9	1	1	0	0	1	6	0	11	0	2	0	0.769	5
	DP	川島 正敬	神戸学院	14	12	7	4	6	1	0	0	1	0	0	1	7	1	0	3	0.583	5
	2	平野 修太	早稲田	16	13	7	8	12	0	0	2	1	1	0	3	3	2	0	1	0.538	5
L	4	吉田 和樹	九州共立	13	12	6	1	1	0	1	0	4	1	4	0	7	0	0	0	0.500	4
	8	樋上 翔平	神戸学院	17	15	7	4	3	2	0	0	2	0	3	0	7	0	1	0	0.467	5
L	7	兼子 修治	早稲田	16	14	6	5	0	0	2	0	2	2	2	0	8	1	0	0	0.429	5
L	6	吉田 享平	早稲田	16	14	6	8	7	0	2	0	1	4	0	0	8	1	0	0	0.429	5
	5	北村 和也	早稲田	16	14	6	5	7	1	0	1	3	0	1	0	7	1	0	1	0.429	5
	2	山田雄太郎	九州共立	12	12	5	3	0	0	0	0	1	0	2	0	5	1	0	0	0.417	4
L	6	野上 涼平	神戸学院	13	10	4	3	1	1	2	0	1	2	4	0	6	0	0	0	0.400	5
L	3	小池 昌弘	中 京	13	8	3	3	7	0	5	0	2	0	4	0	8	1	0	1	0.375	4
L	9	石原 健詞	中 京	14	11	4	5	1	0	2	1	3	0	1	0	7	1	0	0	0.364	4
S	4	栗田 俊哉	早稲田	15	11	4	3	4	1	1	2	2	1	5	0	7	0	0	0	0.364	5
L	8	山田 将也	中 京	15	12	4	4	3	0	3	0	2	1	2	0	7	0	1	0	0.333	4
L	7	河添 幹也	神戸学院	13	12	4	1	3	0	1	0	4	0	4	0	5	0	1	0	0.333	5
	6	山本 佑馬	中 京	12	10	3	0	1	0	2	0	1	0	4	0	5	0	0	0	0.300	4
L	6	藤井 佑真	九州共立	13	10	3	0	1	2	1	0	1	0	2	0	4	0	0	0	0.300	4
L	9	大道 祐蔵	神戸学院	15	12	3	3	2	2	1	0	2	1	1	0	4	0	0	0	0.250	5
L	5	和田 亮磨	神戸学院	15	12	3	2	1	1	2	0	0	1	2	0	5	0	0	0	0.250	5

男子大会投手成績ベスト10（規定投球イニング数11以上）

左 投	選 手 名	大 学 名	投 球 回	打 者 数	打 数	被 安 打	失 点	自 責 点	被 犠 打	与 四 球	与 死 球	奪 三 振	被 本 打	暴 投	不 正 投	投 球 数	防 御 率	勝 試 合	負 試 合	試 合 数
L	古川 恵士	早 稲 田	18	62	57	6	2	1	0	4	1	24	0	0	0	259	0.39	4	0	4
	三谷 祥平	九州共立	15	63	51	9	1	1	2	6	4	15	0	2	0	237	0.47	2	0	3
L	滝本 涼	高崎経済	15	62	50	6	3	2	2	10	0	13	1	2	0	261	0.93	1	1	2
	片岡 涼	中京学院	13	47	43	6	2	2	1	1	2	17	0	1	0	171	1.08	1	1	2
	片岡 正貴	神戸学院	22	95	87	23	14	9	2	2	4	14	2	1	0	317	2.86	3	1	4
	中松 竜佑	四天王寺	21	95	75	15	11	9	3	15	2	12	2	5	0	328	3.00	2	1	3
	深津 悠平	中 京	22	101	87	24	13	11	2	7	5	28	0	0	0	376	3.50	3	1	4
	戸梶 紘希	龍 谷	14	73	63	22	15	7	3	5	2	7	1	0	0	261	3.50	1	1	2
	前田 征那	九州共立	12	49	42	10	6	6	4	3	0	4	1	1	0	165	3.50	1	1	2
L	高橋 宏允	日本文理	17.2/3	79	72	21	10	9	1	6	0	20	0	2	1	281	3.57	2	1	3

1 年 間 を 振 り 返 っ て

早稲田大学男子ソフトボール部主将 渡 辺 慎 也

インカレ優勝の瞬間、チーム内では本当に多くの感情が飛びかっていたことを今でも鮮明に覚えている。感動して泣き崩れている者や喜びを爆発させる者など、とにかく多くの感動がそこにはあった。私自身としては、言葉にならないほど興奮をし、とにかく喜びを爆発させていたことは今でも覚えている。

この1年を振り返れば、本当に多くのことがあった。新チーム結成当初の秋リーグ4位という結果は、私が経験したなかでも記憶にない成績であった。更には、完敗を喫した上での4位という結果であった。そして、そのあとの関東大学選手権においても、決勝戦で日体大に完敗という結果に終わった。そこで、長い冬を迎えるにあたり、私たちはとにかく猛練習をすることを決意したのである。私が経験してきた4年間の中では群を抜いて冬のトレーニングは体力的にも精神的にもきつかったことを覚えている。毎日のように走り、バットを振り、トレーニングを重ねた。それを乗り

越えられた背景には、秋リーグ4位という危機感と、秋リーグ4位からでも日本一になれるということを実証するための強い気持ちがチーム全員にあったからである。今振り返っても、冬の練習だけでなく、1年を通して日本一の量と質の練習ができていたという自信を部員全員がもっていると、私は確信している。

東日本インカレ、全日本インカレを通して、1試合を除き、全てをコールドで勝てたことは間違いなく練習の賜物である。個人が上手くなるために、そしてチームが強くなるための行動や発言が、学年に関係なく、多くの部員から見られた。守備、攻撃、走塁、全ての面において、常に向上心を持って部員全員が取り組み続けられたこと、その成果がようやく夏に来て花開いたのであった。今年の早稲田は本当に全員が練習から本気であった。部員全員が本当に最後の最後まで向上心を高く持ち続けられたのである。日本一の練習の背景に、部員全員が日本一向上心を持って取り組めたこと

は、部員に対する感謝や尊敬であり、私の誇りである。

インカレの優勝は吉村先生をはじめ、多くのOB・OGの方々が築いてくださった伝統、支えなくしてなかったものである。インカレ当日も遠くから多くのOB・OGの方が応援に来て頂き、また、学校の友達や保護者の方など、多くの支えがあってこそその日本一である。部員一同、本当に感謝の気持ちでいっぱいである。私個人としても、吉村先生をはじめ、コーチである高杉さん、木村さんには、

1年間本当に多くの指導をして頂いた。ソフトボールの技術以上に人間として、また、社会人になる者として、本当に多くの指導をして頂いたことは、感謝の気持ちでいっぱいであり、これこそが早稲田の伝統、そして、強みであると実感している。

これからはOBとして、後輩達が私の想像もできないような高い目標を立て、成し遂げていく姿を楽しみにしている。そして、早稲田のソフトボール部ならば可能であると信じている。

第47回全日本大学ソフトボール選手権大会に関わって

学生委員会委員長 生野 裕 樹（慶應義塾大学）

2012年8月31日から9月3日までの四日間、全日本大学選手権大会が埼玉県坂戸市、東松山市、鶴ヶ島市、毛呂山町の四市町で盛大に行われました。私は坂戸市の男子会場、東松山市の女子会場の二会場に参加し、貴重な体験をさせて頂きました。

昨年度は選手側として初めて全日本大学選手権大会に出場させて頂きましたが、出場選手のレベルの高さに只々驚くばかりでした。今年は大学連盟の学生委員会を代表して広報活動のお手伝いとして参加させて頂いたにも関わらず、昨年と同様にその一つ一つのプレイのレベルの高さに仕事を忘れて一観客として見入ってしまいました。またプレイの他にも、出場していない選手が、声を枯らしながら味方に声援を送りチーム一丸となって戦う姿には感動しました。

競技面だけでなく、運営面にも目を向けても驚かされることが多々ありました。

大会初日の雨天による試合中断、日程の消化が危ぶまれる事態も起きましたが、審判員や大会本

部の方々の迅速な判断・行動により、無事に終えることができました。また、試合中に限らず、朝早くから夜遅くまで大会運営のために先生をはじめとする多くの関係者の方々が業務にあたっておられました。運営面において陰ながらも大会を支えることで、選手達のモチベーションも向上し、よりレベルの高いパフォーマンスができるのだと改めて実感しました。私達も東京都の連盟の運営をしていますが、会場・設備・PR等のあらゆる面を地区のリーグ戦から改善していくべきだと感じ、それがモチベーションの向上、ひいては競技の普及・発展に繋がるものだと実感しました。

大会を通し、学生が勝利を目指して真剣にプレイする姿や全国大会でこそ見られる高いレベルのプレイ、そしてそれを支える運営の方々の思い、学生役員としてその一端に触れられたことを大変光栄に思います。

貴重な体験をさせて頂いたこと、大会期間中に御世話になった学連の先生をはじめとする関係者の皆様に感謝申し上げます。

文部科学大臣杯第47回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会期：平成24年8月31日(木)～9月3日(月)

会場：埼玉県毛呂山町／大類ソフトボールパーク 他

大会概要

園田学園女子大 みごと二連覇!! (通算6回目)

大会記録長：川 田 稔 之

標記大会は、平成16年の埼玉国体におけるソフトボール競技の会場となった、毛呂山町の大類ソフトボールパークを主会場に、東松山市と鶴ヶ島市の2市1町で開催された。開会式は、女子が今大会より8チーム増え、男女各32チームが参加の合同で坂戸市の総合運動公園で執り行われ非常に華やかな式典であった。

また、プログラムでは、チーム紹介欄の監督、選手等をカラー写真で掲載しており大変カラフルであったことと、大会期間中悪天候にもかかわらず、グラウンドの整備において速やかに的確に処理されていたのが印象に残った大会でもあった。

大会1日目は3会場共に午後から悪天候により試合が中断され、特に大類の最終試合はナイターになり別会場へ移動して続行・無事終了した。

初日より1点差の試合が6試合と好試合が多く、淑徳大対環太平洋大戦では、淑徳大の青木投手が1安打の完封勝利。東京女子体大の山本絵梨奈がサイクル安打にあと単打1本という好打撃を記録。

2日目は昨年の準決勝対決の園田学園大対早稲田大戦は園田大の逆点勝ち。大阪大谷大の上片野麻衣が大会タイ記録の1試合2本の三塁打を記録。淑徳大は牧野絵梨加が大会新記録となる1試合3本の二塁打等で昨年準優勝の鈴鹿国際大を破るも、準々決勝で東京女子体大の前に敗退。龍谷大の始澤菜摘投手は今大会防御率0.00の1位ながらもチームは2回戦敗退。日本体育大は三木綾菜の連投で、2回戦は強豪東北福祉大を、準々決勝戦では富士大をそれぞれ破り準決勝戦に進出。東京女子体大も投打かみあい準決勝戦に。準決勝戦の残る一つは東海学園大が2回戦は打撃戦を、準々決勝

戦は投手戦を制して獲得した。

大会最終日の3日目は天候にも恵まれ、準決勝戦、決勝戦の3試合が無事行われた。準決勝戦の園田学園大対日本体育大戦は園田学園大が逆転勝ちで決勝戦へ、日本体育大は昨年に続き今年も準決勝戦で涙をのんだ。東京女子体大は東海学園大を僅差で破り決勝戦に進出。今年の東西の女子学生リーグ王者同士の戦いとなった決勝戦は、昨年の優勝バッテリー（泉礼花一清原奈侑）を擁する園田学園大が投打にわたり東京女子体大を圧倒し、2年連続6回目の優勝を飾り大会の幕を閉じた。

大会講評

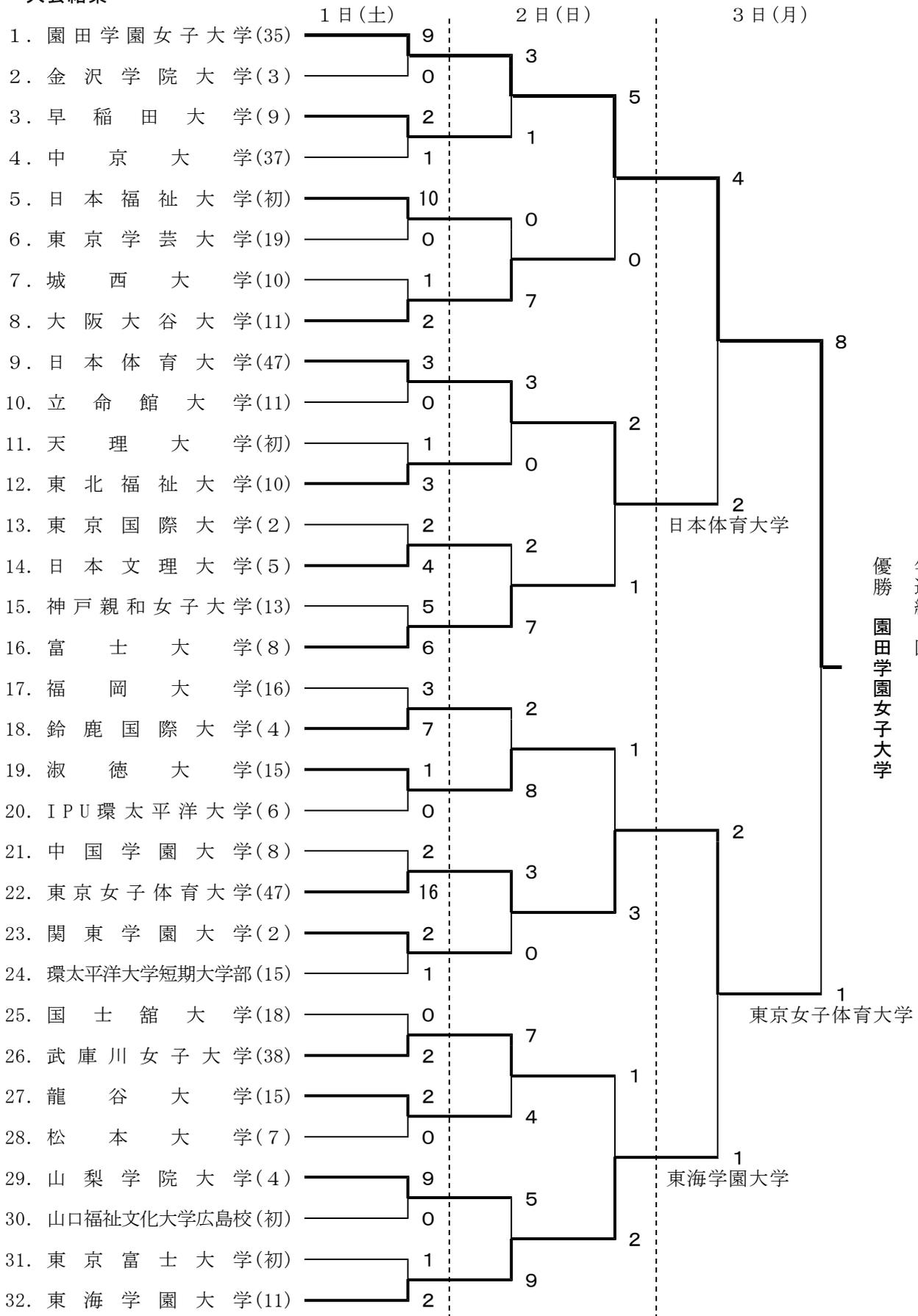
32チーム参加による初めてのインカレ

広報記録部：矢 澤 久 史

近年、各地区予選ではインカレの最後の出場枠を巡って激しい戦いが繰り広げられている。インカレ出場を逃したチームが東日本大会や西日本大会で上位に入ることも珍しくない。そのようなことから、インカレの出場枠の増加が毎年検討され、やっと希望が叶い、今回のインカレでは8枠が増枠され、32チームが出場できる初めての記念すべき大会となった。

決勝では共に新監督が率いる園田学園女子大学と東京女子体育大学という東西を代表する伝統校の対戦となったが、東京富士大学、日本福祉大学、天理大学、山口文化福祉大学の4チームが初出場を果たし、新風を吹き込んだ。中でも創部1年目での出場という快挙を成し遂げた東京富士大学は名将藤原徹監督の下、今大会第3位に入賞した東海学園大学に終盤までリードを奪うという大健闘であった。結果的には伝統校や実力校が順当に勝ち進んだ大会となったが、来年度は新しいチームの上位進出を予感できるような大会でもあった。

大会結果



2年連続6回目
優勝 園田学園女子大学

※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼第1日(9月1日)1回戦

金沢学院大学 00000 : 0
園田学園女子大学 0225x : 9

[金] ●徳原萌、小西由依、大和未沙、小西由依
一酒匂愛美

[園] ○泉礼花、池田美樹一清原奈侑、岡恵利華
(三)山口めぐみ

(二)野上綾香、大和未沙、亀井愛梨

【評】園田学園大は、2回二死二、三塁の好機に野上の二塁打で2点を先制、続く3回にも4連続安打で2点を追加した。4回にも打者一巡の攻撃で5点を加えた。泉、池田の継投で完封勝利し2回戦に進んだ。金沢学院大は、打線が振るわず敗れた。

中京大学 0100000 : 1
早稲田大学 0000101x : 2

[中] ●長谷川朋子一荒屋えりか
(三)塚本智名

[早] 森下 藍、○後藤めい一鬼澤麻純

【評】早稲田大は5回、敵失と2安打で同点とすると、森下、後藤の継投で相手打線の反撃をしのぎながら迎えた7回裏、一死満塁の絶好機に北村のセンターへの飛球で三塁走者が還り、サヨナラ勝ち。中京大は、4回一死三塁の加点機を逃したことも響き惜敗した。

東京学芸大学 00000 : 0
日本福祉大学 0433x : 10

[東] ●枝元香菜子、天野志保一大道 茜
(二)滋野真優

[日] ○宇野かんな一新海真里奈

(三)吉川侑里 (二)宇野かんな

【評】日本福祉大は2回、敵失と4本の長短打で4点を先制、3回にも3本の安打と四球に敵失を絡めて3点を加え、続く4回にもさらに3点加点した。この得点を、主戦宇野が2安打完封で抑え勝利した。東京学芸大は、毎回のように塁上に走者を出したものの、守備の乱れもあり敗れた。

城西大学 0000010 : 1
大阪大谷大学 002000x : 2

[城] ●田上沙也加、金澤麻美一保崎麻優里

(三)鮎澤 愛

[大] ○竹田有沙一森下 舞

【評】大阪大谷大は、3回一死二、三塁から松永のバント安打でまず1点、上片野の内野安打で満塁とすると、樽谷が四球を選び1点を加え、都合2点を先取した。このリードを竹田投手が1失点の好投で守って勝利。城西大は、追う6回、地元の大声援にもあって1点を返したが、及ばず惜敗した。3回二死三塁の先制機を逸したのが痛かった。

日本体育大学 0001011 : 3

立命館大学 0000000 : 0

[日] ○三木綾菜一澤井美佑

(二)二階堂夏帆

[立] ●加藤あずさ一山澤 葵

(三)澤井 翠

【評】日本体育大は4回、走者一、二塁として敵失で1点を先制。6回には二階堂の二塁打と松畑の右前安打で1点、続く7回も死球と2連続安打で1点を追加し優位に試合を進めた。立命館大は走者を出すものの、日本体育大の主戦三木に要所を抑えられ、好機にあと一本が出ず得点できなかつた。

天理大学 0001000 : 1
東北福祉大学 020100x : 3

[天] ●石田真子、酒井夏葉一佐藤亜紀子

[東] ○五味彩華一清水菜々子

(本)高橋普喜

【評】東北福祉大は、2回、高橋の本塁打で2点を先行。4回には安打、盗塁、犠牲バントで走者を進め、酒井のライト前タイムリーで1点を加えると、主戦五味が1安打1失点に抑え勝利した。天理は、1安打と打線が振るわず敗れた。

日本文理大学 0210100 : 4
東京国際大学 0000020 : 2

[日] ○馬場麻里－松本 怜

(二) 隅田朋子、北川愛莉

[東] ●井本妃里、金井里奈－降矢 香

(二) 大谷安奈

【評】日本文理大は、2回二死二・三塁から百瀬の中前安打で2点を先制。3回にも二塁打と犠打、敵失で1点を加えた。5回一死二塁には北川の右翼線を抜く二塁打で1点を追加した。主戦馬場が相手の反撃を2点に抑え勝利した。東京国際大は追う6回、地元の大声援を背に、2点を返してなおも無死一・二塁と攻めたがあと一本が出ず敗れた。

富士大学 2300010 : 6
神戸親和女子大学 0030110 : 5

[富] 榎林茉実、○佐藤麻衣子－郷間智美

(二) 熊ヶ谷まどか、伊藤さや香

[神] 篠山彩夏、●竹沢史織－佐藤友麻

(二) 永沢杏奈、佐野由貴美

【評】富士大は、初回二死一、二塁の好機に熊ヶ谷の二塁打で2点を先制、2回にも安打と犠牲フライで3点を追加、6回大村が右中間を破る二塁打で出塁、木村の左前安打で追加点を挙げた。榎林、佐藤の継投で勝利した。神戸親和女子大は1点差まで追い上げる攻撃をしたが一步及ばず敗れた。

鈴鹿国際大学 5200000 : 7
福岡大学 0030000 : 3

[鈴] ○平木綾佳、近田知実－西井春菜

(三) 宮澤早紀 (二) 宮崎早紀、西井春菜

[福] ●西藤笑美、野中めぐみ－木元もえ

(二) 野中めぐみ、河野多喜

【評】鈴鹿国際大は初回、先頭打者の三塁打を含め集中5安打で5点を先制。2回にも2点を加えてリードを広げ、福岡大の反撃を退け初戦を飾った。福岡大も3回3長短打で3点を返し、最終回満塁の好機を生かすことができなかった。

淑徳大学 0010000 : 1
IPU・環太平洋大学 0000000 : 0

[淑] ○樋口麻知子－小島晶子

(二) 樋口麻知子

[環] ●岡野文香－永溝早紀

【評】淑徳大は、3回に二塁打の樋口が野選で選った1点を守りきり、2回戦に駒を進めた。IPU環太平洋大は、樋口投手の前に1安打に抑えられて惜敗、姿を消した。

東京女子体育大学 02743 : 16
中国学園大学 00020 : 2

[東] ○平原かすみ、工藤奈都美、寺川亜美－

上野真友美、山保 彩

(本) 山本絵梨奈

(三) 林由香里、山本絵梨奈、山田美樹

(二) 飯塚真弓、山本絵梨奈、北原史織②、青木茜、山田美樹

[中] ●濱口麻美伊、竹井沙那香－信保由加里

【評】打撃に勝る東京女子体育大は、10本の長打など16安打の猛攻で、3回の打者11人・7安打7点を含め、大量16点を挙げてコールド勝ち。中国学園大は4回に2点を取って追撃するも届かず。

環太平洋大学短期大学部 0000100 : 1
関東学園大学 000200x : 2

[環] ●川内彩加、谷島花波－山下亜依美

(二) 川口茉維、矢野晴佳

[関] ○池沢織乃－福田裕香

【評】関東学園大は4回に一死二、三塁から7番石塚のタイムリーで2点を先制。環太平洋大短期大の反撃を抑え逃げ切った。環太平洋大短期大は5回、八番川口の二塁打で1点を返すが後続を断たれ惜敗した。

国士舘大学 0000000 : 0
武庫川女子大学 101000x : 2

[国] ●吉田千紘－矢内麻美

(二) 田中美紀

[武] ○内海花菜、穴澤早貴恵－吉田美姫

(本) 川口 藍 (二) 伊藤淳美

【評】武庫川女子大は初回、先頭打者・川口の本塁打で先制。3回にも1点を加えて試合をリードし、投手の完封リレーで2回戦進出を決めた。国

士館大は3回、3・4番が連続安打し、反撃を試みるも得点ならず。好調の武庫川の投手陣を打ち崩せずに敗れた。

松本大学 0000000 : 0
龍谷大学 101000x : 2

[松] ●山越栞奈、高橋千波－田島梨恵
(二)山崎奈美佳
[龍] ○始澤菜摘－田井静華
(本)田井静華

【評】龍谷大は、1回一死満塁で5番浦野のタイムリーで先制。3回には4番田井が左越本塁打で追加点を入れ、試合を優位に進めると、始澤投手も力投。投打がかみ合って、2回戦進出を決めた。松本大は、毎回のように安打を放つも散発に終わり無得点。相手投手を打ち崩すことができず惜敗した。

山口文化福祉大学広島校 00000 : 0
山梨学院大学 1323x : 9

[口] ●久留間由麻、高間 茜－矢野沙紀
[梨] ○畑迫遼子、酒井彩好－妹山玲奈
(本)轟 優花、高木奈々 (三)森田紀代美、寺門千奈美、吉井実優、岩寄 楓

【評】山梨学院大は初回到に1点を先制、2回にも森の2ランなどで3点を加えると、3回・4回にも、長打5本を含む7安打で攻撃の手を休めず、試合を決めた。山口福祉文化大広島校は、初回・2回到に1本ずつ安打を放つも、得点に結びつかず苦しい試合展開。5回には先頭打者が四球で出塁、二進して本塁を窺がったが、得点に至らず敗れた。

東海学園大学 0000101 : 2
東京富士大学 0100000 : 1

[海] ○河津かおり－久保亜希美
(二)古海香穂、吉田沙織、平松美妃
[京] ●小林楓、森崎愛理－荻野みなみ
(二)田口美佳

【評】園田学園女子大は3回、三塁打2本等で3点を挙げて逆転に成功し、このリードを最後まで守り切って準々決勝進出を決めた。早稲田大は2

回、先制点を挙げたが、逆転された後は、泉投手を攻めあぐんで惜敗した。

▼第2日(9月2日)2回戦

園田学園女子大学 0030000 : 3
早稲田大学 0100000 : 1

[園] ○泉 礼花－清原奈侑
(三)知念千香、胡子路代、清原奈侑
[早] ●森下 藍、後藤めい－鬼澤麻純
(三)三浦由華子

【評】園田学園女子大は3回、三塁打2本等で3点を挙げて逆転に成功し、このリードを最後まで守り切って準々決勝進出を決めた。早稲田大は2回、先制点を挙げたが、逆転された後は、泉投手を攻めあぐんで惜敗した。

日本福祉大学 000000 : 0
大阪大谷大学 203011x : 7

[日] ●宇野かんな－新海真里奈
(二)宇野かんな、田中 唯
[大] ○竹田有沙、辻 恭香－森下 舞
(三)上片野麻衣② (二)森下 舞②

【評】大阪大谷大は、初回上片野の三塁打と森下の二塁打で2点を先制。3回には2本の適時打などで3点を加点した。途中、1時間30分にわたる中断があったものの、5・6回にも1点ずつを加え、コールド勝ち。日本福祉大学は、毎回、得点の機会は作るもののあと1本の適時打が出ずに敗れた。

東北福祉大学 0000000 : 0
日本体育大学 000120x : 3

[東] ●五味彩華－清水菜々子
[日] ○三木綾菜－澤井美佑
(二)渡邊みちか②

【評】日本体育大は、4回一死二塁から4番二階堂のタイムリーで先制。5回二死一、二塁から3番渡邊の二塁打で2点を加えて試合を優勢にすすめた。三木投手がこのリードを散発3安打の好投で守って勝利。東北福祉大は4回に二死ながら連打で好機を作るも得点できず。最終回も内野安打

で反撃を期したが、及ばず涙をのんだ。

日本文理大学 1010000 : 2
富士大学 010015x : 7

[日] ●馬場麻里－松本 怜

(三)百瀬 篠

[富] ○榎林茉実、佐藤麻衣子－郷間智美

(三)桐生彩香 (二)桐生彩香、郷間智美

【評】中盤までシーソーゲームを展開し同点で迎えた6回裏、富士大は打者11人・桐生の三塁打を含め6長短打を集中し、一挙5点を挙げて勝ち越しに成功すると、7回表の反撃を退けて快勝。準々決勝に駒を進めた。日本文理大は、先制し、一度は勝ち越すなど終盤まで互角の戦いをすすめたが、再び勝ち越すことはできなかった。

鈴鹿国際大学 2000000 : 2
淑徳大学 120050x : 8

[鈴] ●平木綾佳、三井綺乃、平木綾佳－

西井春菜

(二)西井春菜、宮澤早紀

[淑] ○樋口麻知子－小嶋晶子

(本)小嶋晶子

(二)牧野絵梨加③、清水美峰湖

【評】淑徳大は1点リードされた2回、牧野の二塁打を足がかりに2点を加えて逆転に成功。5回には小嶋の本塁打を口火に打線が爆発、打者11人の猛攻で5点を挙げた。投げても、樋口が要所を締めて勝利。鈴鹿国際大は、初回到4安打で2点を先制。しかし2回以降は9本の安打を放つものの本塁が遠く、最終回も満塁の好機を生かせず敗退した。

関東学園大学 0000000 : 0
東京女子体育大学 201000x : 3

[関] ●池沢織乃、猪井玲那－福田裕香

[東] ○平原かすみ－上野真友美

(本)山本絵梨奈

【評】東京女子体育大は初回、山本の2ランで2点を挙げ、3回には一死満塁の好機に山田の左前適時打で1点を加えた。主戦平原が完封の好投で

勝利した。関東学園は走者を出すも一歩及ばず敗れた。

武庫川女子大学 7000000 : 7
龍谷大学 0003001 : 4

[武] ○内海花菜、穴澤早貴恵、若狭里絵、内海

花菜－吉田美姫、平井遥香、吉田美姫

(二)川口 藍、川口亜祐美

[龍] ●竹林 瞳、始澤菜摘－田井静華

(二)長澤由里

【評】武庫川女子大は、初回到打者12人・10安打の攻撃で7点を挙げ試合を優位に進め、内海・穴澤・若狭の3投手の継投で勝利した。龍谷大は、4回に3点、7回にも1点を返し、なおも一、二塁と粘ったが、序盤の大量失点を挽回しきれずに敗れた。

東海学園大学 4400001 : 9
山梨学院大学 0032000 : 5

[東] 河津かおり、○平松美妃、後藤菜緒子、

勢村香織－久保亜希美

(三)久保亜希美、金子歩惟 (二)光井綾香

[山] ●樋口麻知子－小嶋晶子

(本)小嶋晶子 (二)吉井実優

【評】東海学園大は、初回打者10人の攻撃で4点を先制し、続く2回にも久保、金子の三塁打を含む4本の安打を集めて4点を追加すると、小刻みな継投でリードを守り逃げ切った。山梨学院大は、3回3点、4回2点を返したが、前半の失点が響き敗れた。

▼第2日(9月2日)準々決勝戦

大阪大谷大学 0000000 : 0
園田学園女子大学 000005x : 5

[大] ●竹田有沙－森下舞

[園] 池田美樹、○泉礼花－岡恵利華－清原奈侑

(三)中川なおみ (二)亀井愛梨

【評】近畿勢の対戦となったこの試合は、園田学園女子大が6回裏、四球走者を足がかりに、中川の三塁打と亀井の二塁打などで、5点を挙げて均衡を破ると、このリードを泉が守って熱戦を制し

た。大阪大谷大は再三にわたって塁上に走者を送り、相手投手を攻めたが、あと一歩及ばず敗れた。

富士大学 0000001 : 1
日本体育大学 001010x : 2

[富] ●榎林茉実－郷間智美

[日] ○三木綾菜－澤井美佑

【評】日本体育大は、3回に走者三塁から澤井のタイムリーで1点を先制。5回には澤井の2打席連続のタイムリーで1点を追加した。富士大の反撃を1点に抑え逃げ切り勝ち、準決勝に進出した。富士大は、7回満塁から押し出しで1点を返すも、後続を断たれ惜敗した。

淑徳大学 0001000 : 1
東京女子体育大学 120000x : 3

[淑] ●樋口麻知子－小嶋晶子

(二)清水友子

[東] ○平原かすみ－上野真友美

(二)山田静佳

【評】東京女子体育大は、初回一、三塁の好機に山田の内野安打で1点を先制。続く2回一死一、二塁に走者を置き山田の二塁打で2点を加えた。序盤のリードを主戦樋口が1失点の好投で勝利した。淑徳大は4回に清水の二塁打で1点を返したものの、樋口を攻略できず、地元勢のベスト4入りはならなかった。

東海学園大学 0100010 : 2
武庫川女子大学 0000100 : 1

[東] ○河津かおり、勢村香織－久保亜希美

(二)石川千夏

[武] ●内海花菜－吉田美姫

(二)瀬田美波

【評】東海学園大は2回、死球を足がかりに犠打で三進した走者が、石川の左前安打で生還して1点を先制。6回には光井がバント安打で出塁すると、犠打で二進、粕谷の中前安打で光井の代走・山田が還り、勝ち越しに成功。この1点が決勝点となり、東海学園大が準決勝進出を決めた。武庫川女子大は、一旦は同点に追いつくもベスト4を

前に力尽きた。

▼第3日（9月3日）準決勝戦

園田学園女子大学 0000400 : 4
日本体育大学 0110000 : 2

[園] ○泉 礼花－清原奈侑

(三)清原奈侑、古澤春奈

[日] ●三木綾菜、鈴木佑芽、高田彩也香－澤井美佑

【評】園田学園女子大は、2点差を追う5回二死満塁から古澤の走者一掃の三塁打で逆転に成功、さらに亀井の左前打で1点を追加し一挙4点を挙げた。このリードをエース泉投手が失点2に抑える好投で守り、決勝進出を決めた。日本体育大は、2回に1点を先取、3回にも1点を加え序盤の試合を優位に進めたが、決勝進出はならなかった。

東海学園大学 0010000 : 1
東京女子体育大学 2000000 : 2

[海] ●河津かおり、勢村香織－久保亜希美

(二)吉田沙織

[京] ○平原かすみ－上野真友美

(二)山田美樹

【評】東京女子体育大は初回に、敵失で出塁した2走者が重盗と内野ゴロの間に還って先制すると、エース平原の好投でこの2点を守りきり勝利した。東海学園大は、3回に1点を返すもあと1点が遠く惜敗したが、西日本での初戦敗退という屈辱を見事に晴らす3位入賞であった。

▼第3日（9月3日）決勝戦

園田学園女子大学 05030 : 8
東京女子体育大学 00010 : 1

[園] ○泉 礼花、池田美樹－清原奈侑

(三)中川なおみ、川村可奈子、清原奈侑

[東] ●平原かすみ、金澤理沙、寺川亜美－上野真友美、山保 彩

(二)北原史織

【評】東日本と西日本の覇者の激突となった決勝戦。準決勝戦の逆転勝ちで勢いにのる西の園田学園女子大は、2回に川村の三塁打など打者一巡の

攻撃で5点を先取、4回にも3本の安打などで3点を奪った。このリードを泉・池田のリレーで守り、2年連続6回目の優勝を飾った。東の東京女

子体育大は、追う4回に北原の二塁打で1点を還すも、反撃及ばず。東日本優勝の勢いに乗っての2年ぶりの王座奪還はならなかった。

女子大会打撃ベスト20 (規定打席数12以上)

打方	位	選手名	大学名	打席数	打点	安打	得点	打点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	打出	二塁	三塁	本塁	打撃率	試合	
	8	桐生 彩香	富士	12	9	5	2	4	3	0	0	0	1	4	0	5	1	1	0	0.556	3
L	8	吉田 沙織	東海学園	14	13	7	2	0	1	0	0	1	0	4	0	7	2	0	0	0.538	4
L	3	山田 美樹	東女体	15	14	7	3	4	0	0	1	2	0	3	0	8	2	1	0	0.500	5
L	3	中川なおみ	園田学園	13	13	6	3	4	0	0	0	3	1	3	0	6	0	2	0	0.462	5
L	2	澤井 美佑	日本体育	14	13	6	1	2	0	1	0	0	3	6	0	7	0	0	0	0.462	4
L	7	野上 綾香	園田学園	13	11	5	0	3	1	1	0	2	0	4	0	6	1	0	0	0.455	5
	6	粕谷 朋代	東海学園	13	9	4	2	3	1	2	1	0	1	3	0	7	0	0	0	0.444	4
L	7	山田 静佳	東女体	16	14	6	4	3	1	1	0	0	1	5	0	7	1	0	0	0.429	5
	2	清原 奈侑	園田学園	16	12	5	1	2	1	3	0	1	1	2	0	8	1	3	0	0.417	5
DP		林 由香里	東女体	15	12	5	3	0	1	2	0	0	0	3	0	7	0	1	0	0.417	5
L	D9	樋谷 史花	日本体育	12	10	5	1	0	1	1	0	0	2	2	0	5	0	0	0	0.400	4
	6	山本絵梨奈	東女体	16	15	4	4	6	0	1	0	2	0	2	0	7	1	1	2	0.400	5
L	4	胡子 路代	園田学園	16	16	6	3	4	0	0	0	0	0	1	0	6	0	1	0	0.375	5
	5	二階堂夏帆	日本体育	13	11	6	1	3	1	1	0	1	0	2	0	5	1	0	0	0.364	4
L	8	川村可奈子	園田学園	17	15	4	3	2	0	1	1	2	2	3	0	7	0	1	0	0.333	5
	6	亀井 愛梨	園田学園	15	15	5	2	4	0	0	0	2	0	3	0	5	2	0	0	0.333	5
	2	郷間 智美	富士	12	9	5	1	1	2	1	0	1	0	2	0	4	1	0	0	0.333	3
L	5	青木 茜	東女体	13	12	4	1	2	1	0	0	0	1	2	0	4	1	0	0	0.333	5
L	7	金子 沙耶	東海学園	16	16	5	1	2	0	0	0	2	1	5	0	5	0	0	0	0.313	4
	3	光井 綾香	東海学園	15	13	4	1	1	2	0	0	0	1	2	0	4	1	0	0	0.308	4

女子大会投手成績ベスト10 (規定投球イニング数11以上)

左投	選手名	大学名	投球回数	打者数	打点	被安打	失点	自責点	被犠打	与四球	与死球	与三振	与盗塁	与暴投	不正投	投球数	防御率	勝試合	負試合	試合数
	始澤 菜摘	龍谷	13	48	41	8	0	0	4	2	1	2	0	0	0	158	0.00	1	0	2
	三木 綾菜	日本体育	25.2/3	103	92	24	5	1	6	5	0	16	0	0	0	360	0.27	3	1	4
	河津かおり	東海学園	18.2/3	74	62	11	4	1	6	5	1	11	0	0	0	276	0.38	2	1	4
	泉 礼花	園田学園	25	97	87	22	4	2	7	2	1	9	0	0	0	292	0.56	5	0	5
	樋口麻知子	淑徳	20	88	79	21	5	4	4	4	1	4	0	1	0	269	1.40	2	1	3
	五味 彩華	東北福祉	13	51	41	6	4	3	2	7	1	3	0	0	0	205	1.62	1	1	2
	平原かすみ	東女体	25.2/3	103	92	22	7	6	9	2	0	11	0	0	0	347	1.64	4	1	5
L	竹田 有沙	大阪大谷	17	71	59	15	6	6	4	7	1	5	0	0	0	247	2.47	2	1	3
L	内海 花菜	武庫川	16.1/3	65	55	12	6	6	4	3	3	4	0	3	0	229	2.57	2	1	3
	榎林 麻里	富士	16.2/3	71	61	16	8	8	5	4	1	10	0	1	0	226	3.36	2	1	3

二 連 覇 へ の 挑 戦

園田学園女子大学ソフトボール部 主将 胡 子 路 代

今年は、前年度までの板谷監督が総監督、木田コーチが監督に就任されました。また鮫島コーチを新たに迎え新体制でこのチームがスタートしました。

昨年度のインカレでは優勝という成績を残すことができ、他のチームから追われる立場となりましたが「挑戦者」という気持ちを忘れず、今年もインカレに挑みました。しかし、その道のりは決して簡単なものではなく「二連覇」という周囲の期待からプレッシャーも強く感じていました。

昨年は機動力を重視したチームでしたが、先輩方が卒業され新チームとなり、今年はどうのようなチームでありたいか試行錯誤の日々でした。シーズンに至るまで何をしても上手くいかず、なかなかまとまらないチーム状況が続きましたが「必ず二連覇しよう」と仲間と話し合いました。

シーズンを迎え、インカレ予選を兼ねた春季リーグでは、初戦黒星スタートと苦しい立ち上がりとなりましたが、なんとかインカレの出場権を得ることが出来ました。西日本インカレでは、優勝して終えることが出来たものの、技術面もメンタル面もたくさんの課題を残しました。

インカレ直前に合宿を行い、グラウンド設営など全てのことを自分たちでしました。食事は、卒業生の方が栄養面のことを考えメニューを決めてくださいました。この合宿を通し、改めて何不自由なくソフトボールが出来る幸せを実感しました。

練習では常にインカレを意識し一球の重みを感じ、目標を達成する喜びを学ぶことが出来ました。また、仲間と共に過ごしていく中で仲間を信じる思いや、チームが一つになることの大切さを得ることが出来ました。

そして、いよいよインカレ開催地の埼玉県に入りました。開会式の直前のミーティングで、木田監督から「この優勝旗をもう一度持って帰ろう。」という言葉に緊張していた私たちでしたが落ち着きを取り戻しました。強豪校と戦い苦しい展開ばかりでしたが、仲間を信じ戦い抜くことが出来ました。決勝戦では、昨年度の合言葉でもある「挑戦者」とう気持ちで挑み、日本一を手にした瞬間は、本当にうれしく最高の気持ちでいっぱいでした。また、どんな時でも味方で一緒に戦ってくださった総監督、監督、コーチの最高の笑顔を見られたことが本当に幸せな瞬間でした。「二連覇」の目標を達成することが出来たのも保護者の方々、卒業生の方々、応援して下さい下さった方々そして最後まで一緒に戦い抜いた仲間がいたからです。

園田学園女子大学の主将を務められたことやこの環境でソフトボールが出来たことを誇りに思います。私は三月で卒業となりますが、学校生活で学んだことをこれからに生かして頑張りたいと思います。後輩たちみなさん、決して簡単な道のりではないと思いますが、これからのご活躍を期待しております。

全日本大学ソフトボール選手権大会に携わって 学連学生副委員長 金山美穂（中央大学）

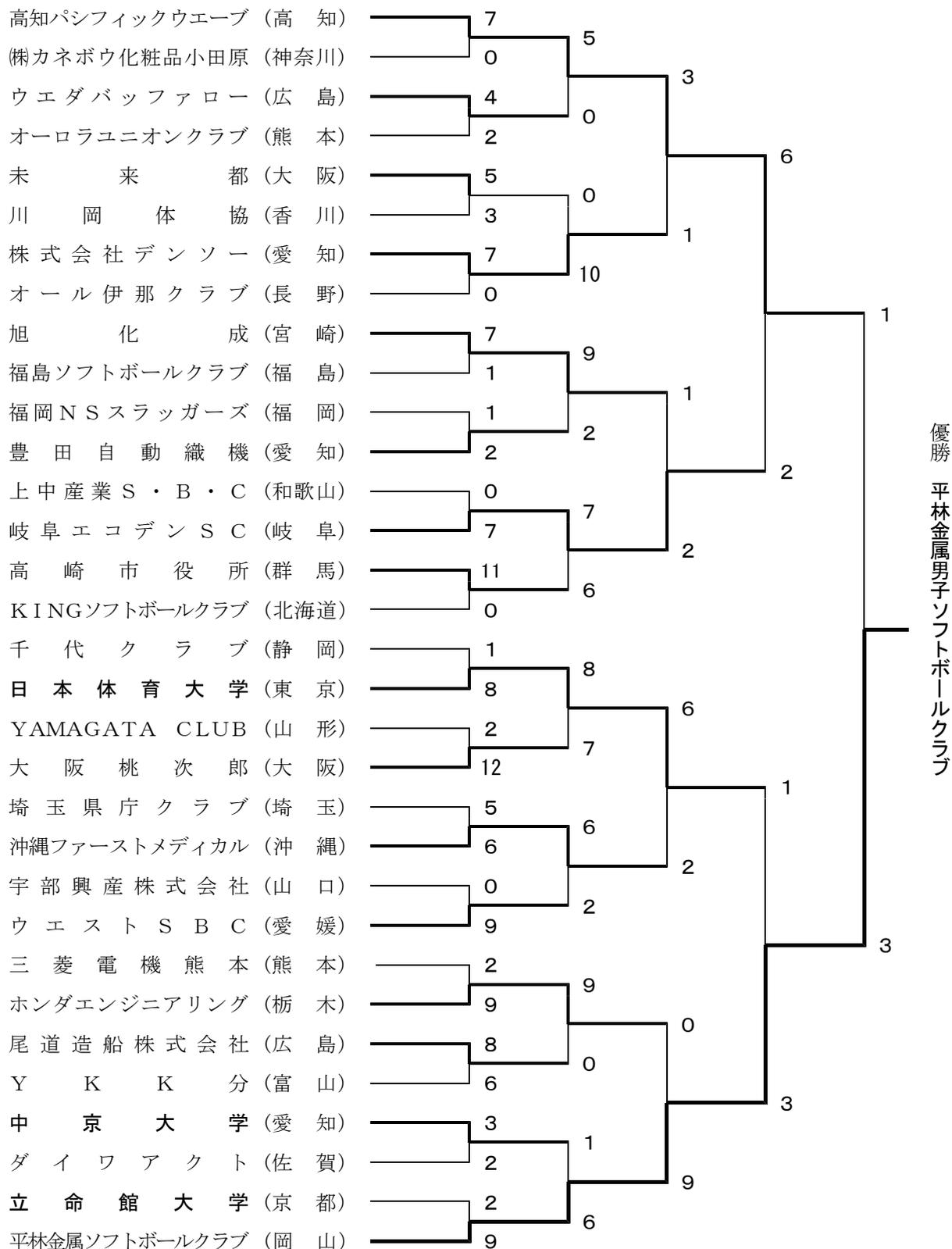
今大会で最も印象に残ったのは、高校生・中学生の姿が多く見受けられたことでした。彼女達はただ試合をみるのではなく、その手にはメモやスコアがありました。感嘆の声をあげながらペンを走らせる姿は、ソフトボール界の再興を期待させるものでした。そんな下の世代が憧れる場であるためにも、インカレはもっと世間から注目されなければなりません。今後広報チームは、ソフトボールを愛して下さっている方に楽しんで頂くのはもちろん、興味の薄い方にどのようにしたら関心を持って頂けるのか…と考えることも必要になると思います。そんな時は、私もひとりのソフトボールファンとして、少しでもお役に立てるよう、一緒に考えていきたいです。

振り返れば、ソフトボールのおかげで充実した日々を過ごすことができ、多くの人と出会えることができました。その恩を返す方法をこれから長い年月をかけながら模索していこうと思います。

第58回全日本総合男子選手権大会

会期：平成24年9月15日（土）～17日（月）

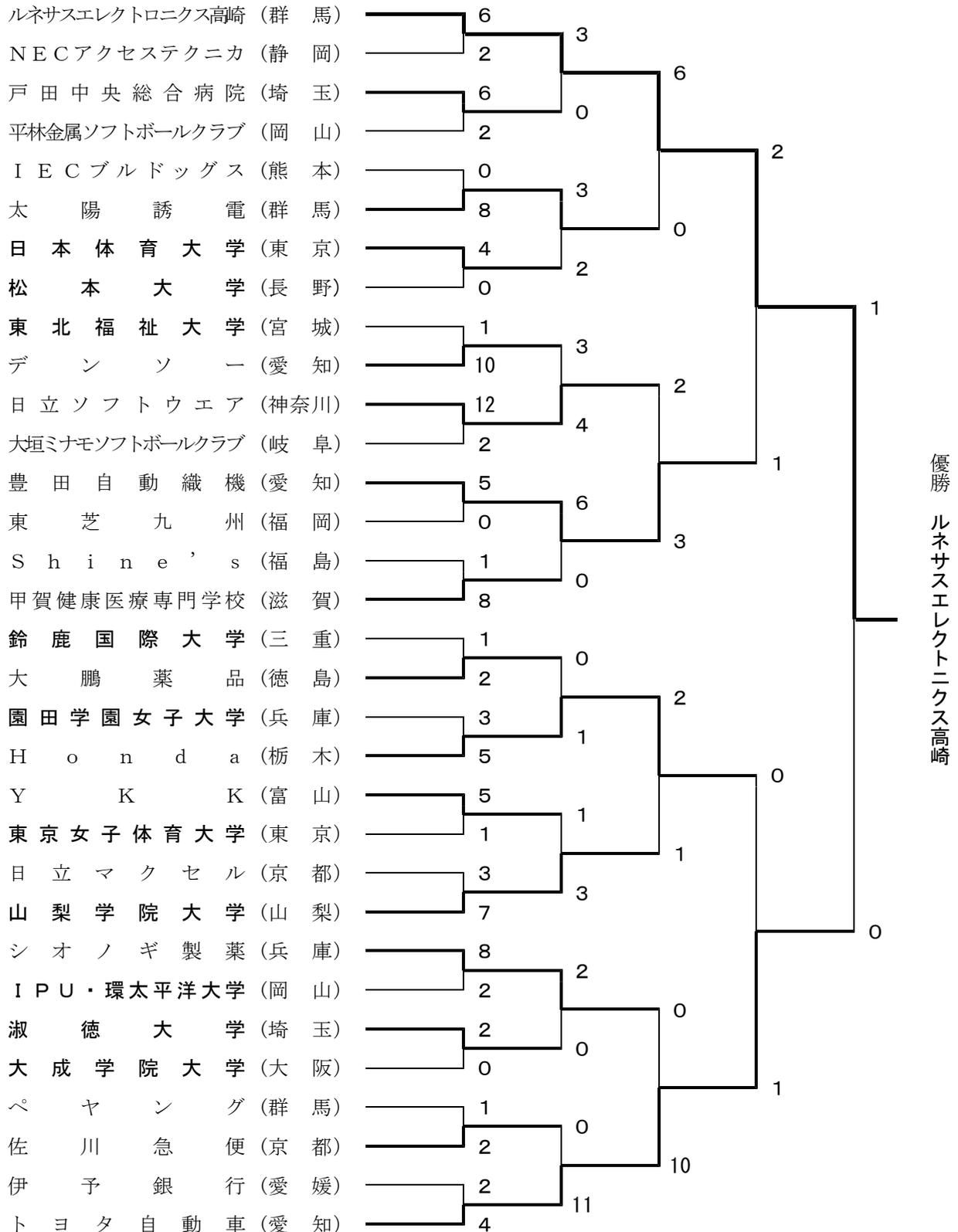
会場：長野県伊那市／伊那市営野球場 他



第64全日本総合女子選手権大会

会期：平成24年9月21日（金）～24日（月）

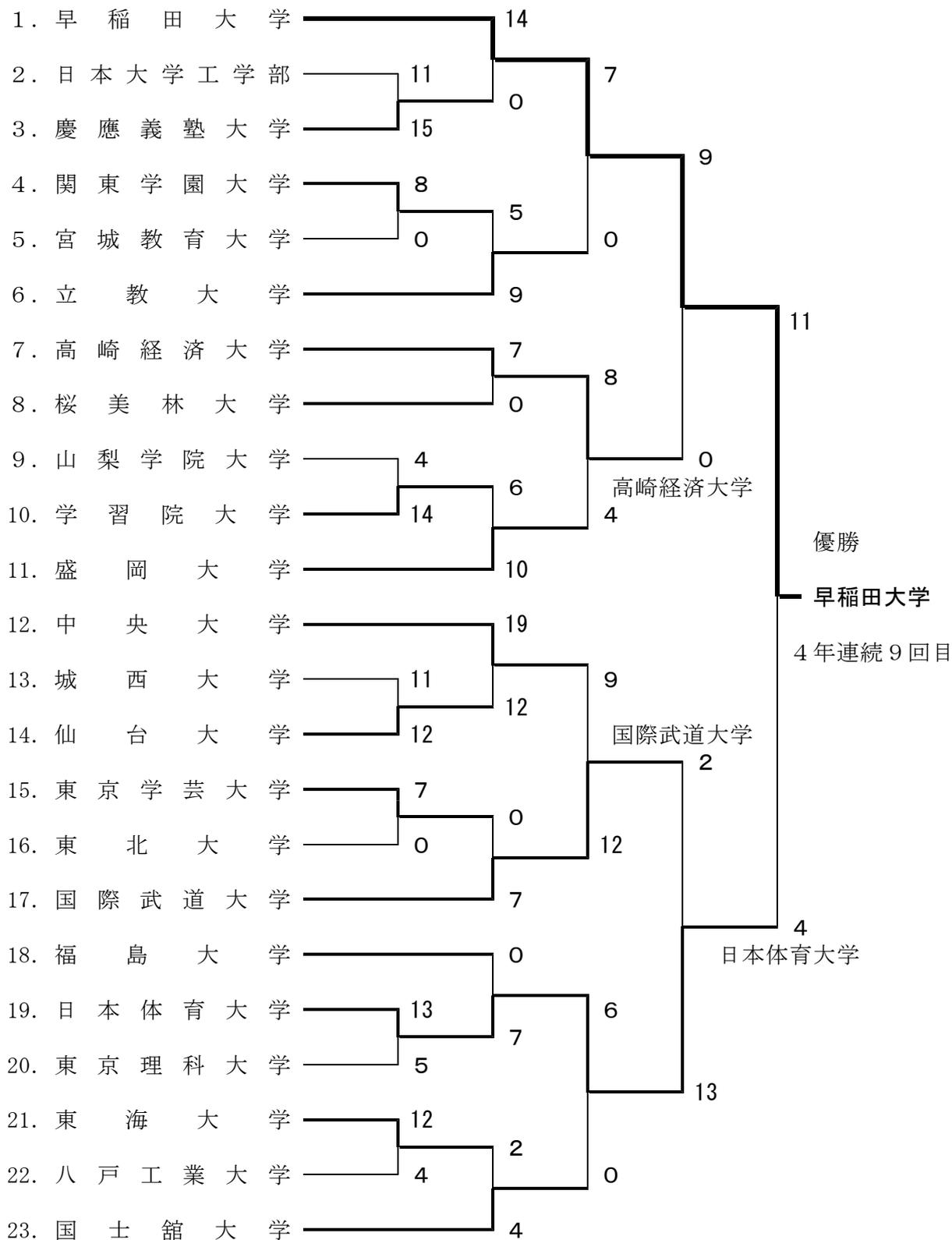
会場：東京都福生市・あきる野市・三鷹市・瑞穂町／福生市営野球場他



第27回東日本大学(男子)ソフトボール選手権大会

会期：平成24年8月10日(金)～8月12(日)

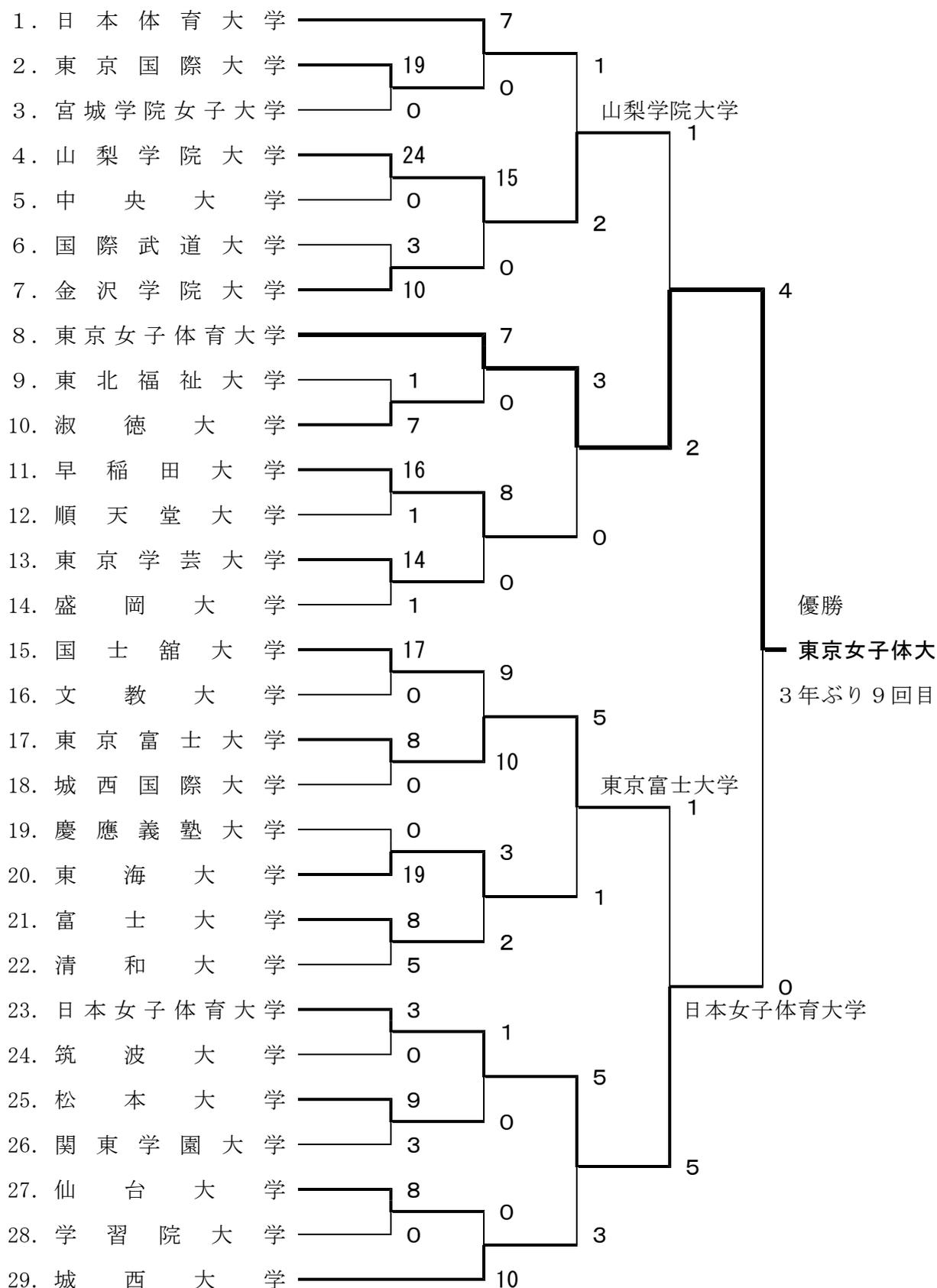
会場：岩手県花巻市／石鳥谷ふれあい運動公園



第27回東日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会期：平成24年8月10日(金)～12日(日)

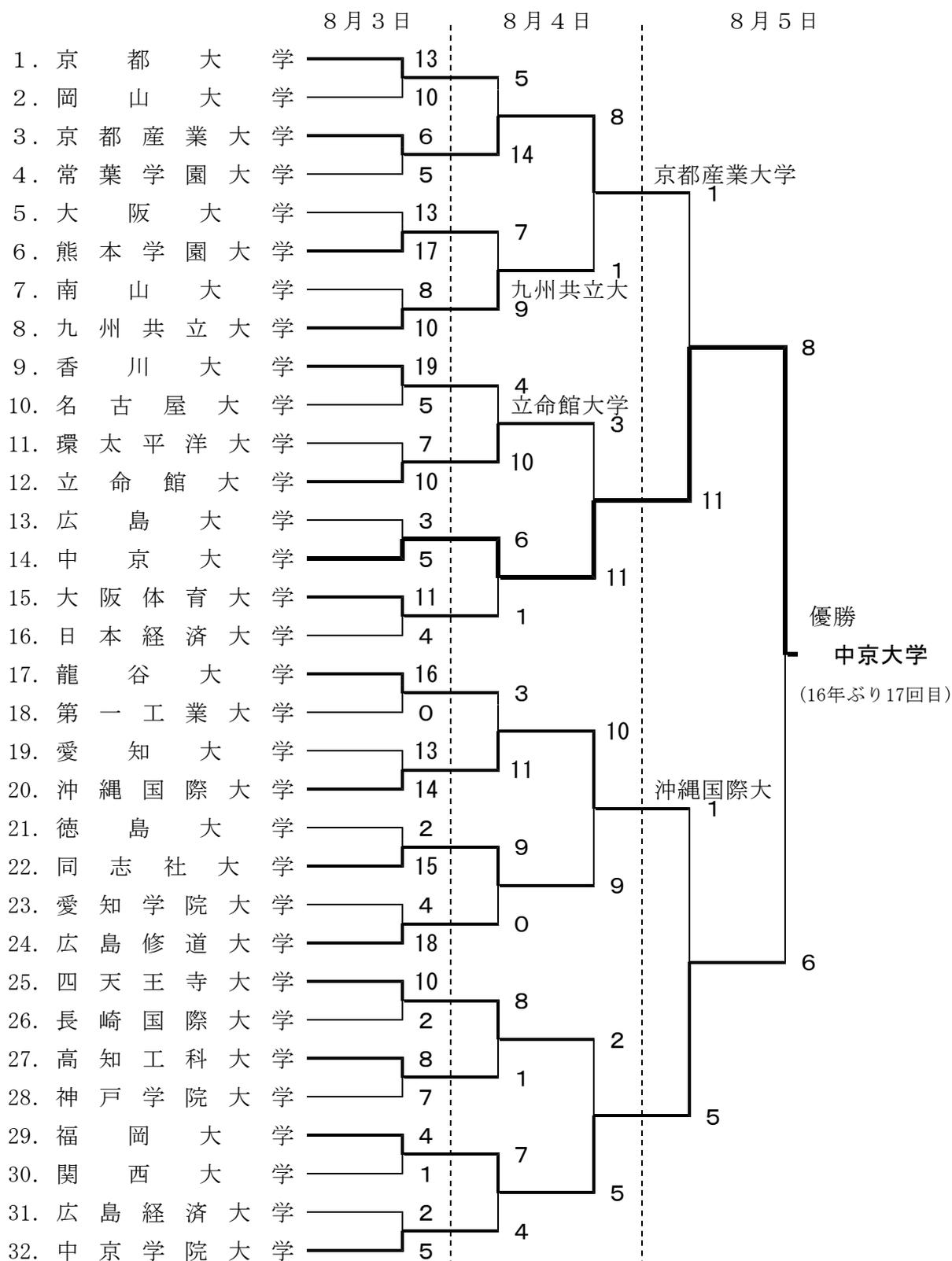
会場：岩手県花巻市／石鳥谷ふれあい運動公園



第44回西日本大学(男子)ソフトボール選手権大会

会期：平成24年8月2日(木)～5日(日)

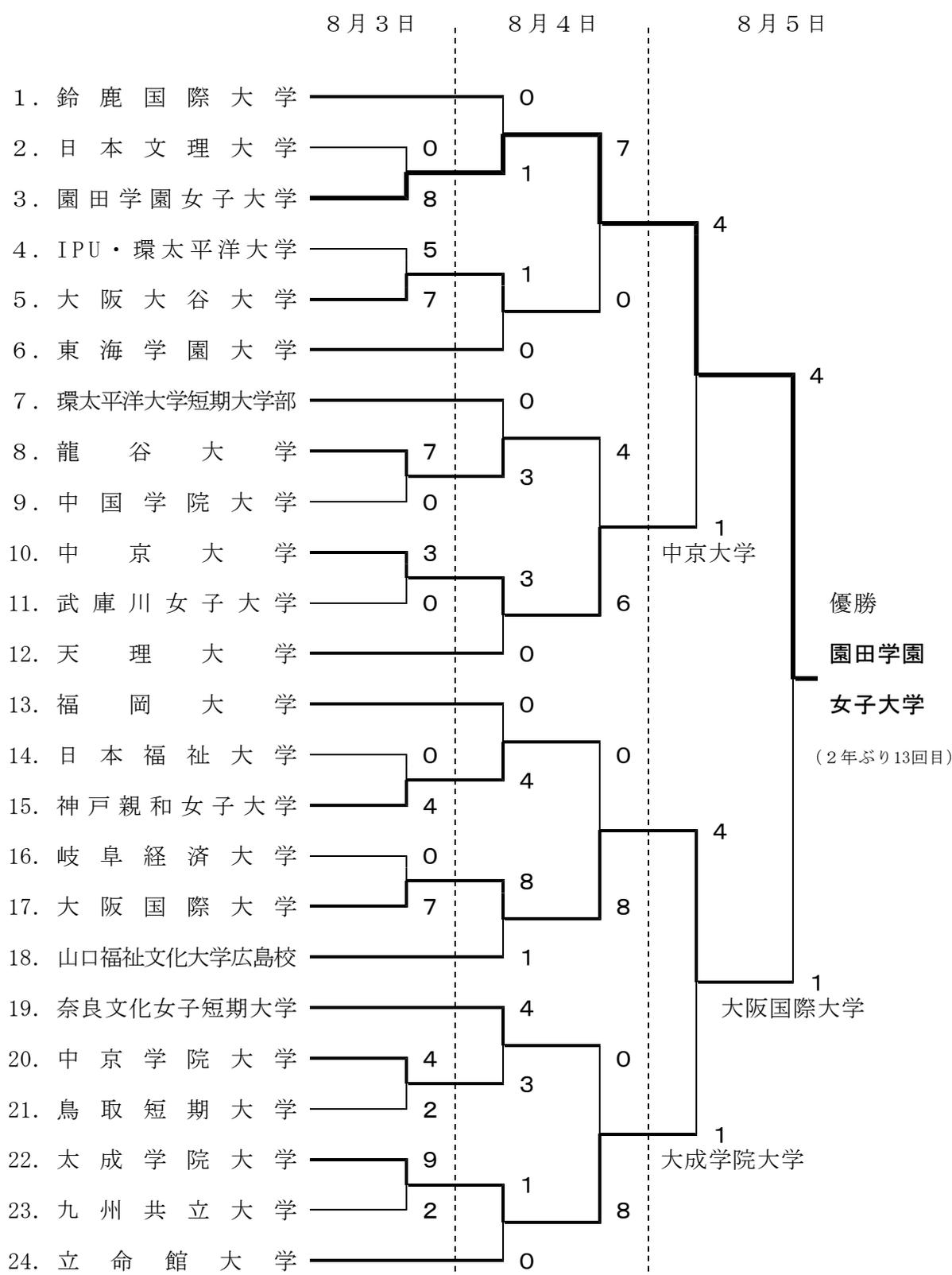
会場：愛媛県新居浜市／国領川河川敷G・住友鉱山磯浦G



第44回西日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会期：平成24年8月2日(木)～5日(日)

会場：愛媛県松山市／松山中央公園運動場、伊予銀行G



第11回 大学ソフトボール東海オープン男子対戦結果

会期：平成24年3月21日(水)・22日(木)

会場：愛知県豊田市／運動公園ソフトボール場・多目的広場

男子予選リーグ戦（3月21日）

Aグループ	愛知学院	高崎経済	京 都	
愛知学院	-	○ 9 - 2	● 2 - 14	2
高崎経済	● 2 - 9	-	● 0 - 8	3
京 都	○ 14 - 2	○ 8 - 0	-	1

Bグループ	中京学院	東 海	中 央	順
中京学院	-	○ 10 - 0	○ 10 - 5	1
東 海	● 0 - 10	-	○ 6 - 4	2
中 央	● 5 - 10	● 4 - 6	-	3

Cグループ	中 京	信 州	近大工学	順
中 京	-	△ 7 - 7	○ 10 - 4	1
信 州	△ 7 - 7	-	○ 10 - 7	2
近大工学	● 4 - 10	● 7 - 10	-	3

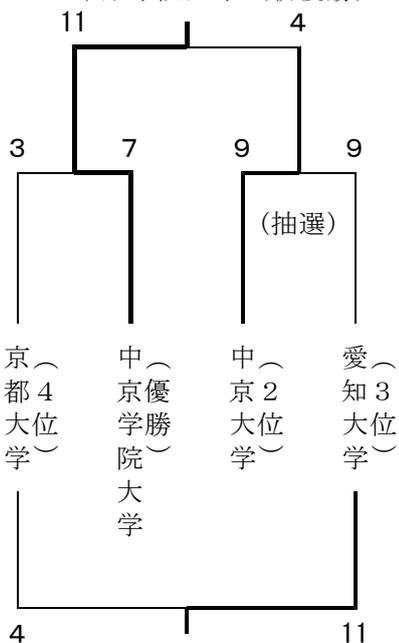
Dグループ	愛 知	関東学園	広 島	順
愛 知	-	○ 10 - 9	○ 7 - 4	1
関東学園	● 9 - 10	-	● 2 - 9	3
広 島	● 4 - 7	○ 9 - 2	-	2

※1～2位は失点率による。

男子順位決定戦（3月22日）

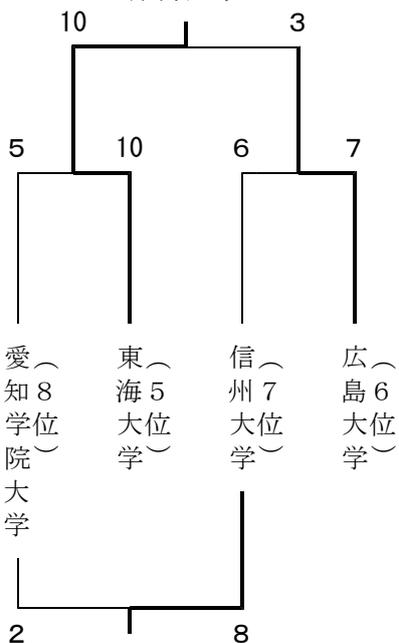
1～4位決定戦

中京学院大学（初優勝）



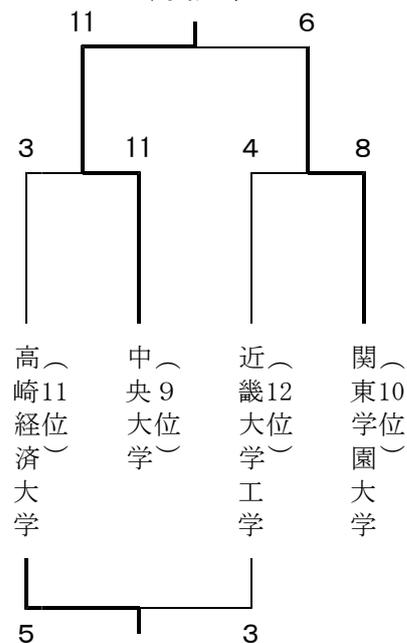
5～8位決定戦

東海大学



9～12位決定戦

中央大学



第11回 大学ソフトボール東海オープン女子対戦結果

会期：平成24年3月21日(水)・22日(木)

会場：愛知県安城市／総合運動公園ソフトボール球場A B・野球場

女子予選リーグ戦（3月21日）

Eグループ	日本福祉	岐阜経済	仙 台	順
日本福祉		● 2 - 6	○ 9 - 0	2
岐阜経済	○ 6 - 2		○ 13 - 3	1
仙 台	● 0 - 9	● 3 - 13		3

Fグループ	中 京	至学館	山梨学院	順
中 京		○ 2 - 1	○ 3 - 2	1
至学館	● 1 - 2		● 0 - 7	3
山梨学院	● 2 - 3	○ 7 - 0		2

Gグループ	東海学園	中京学院	関東学園	順
東海学園		○ 4 - 0	△ 1 - 1	1
中京学院	● 0 - 4		● 2 - 4	3
関東学園	△ 1 - 1	○ 4 - 2		2

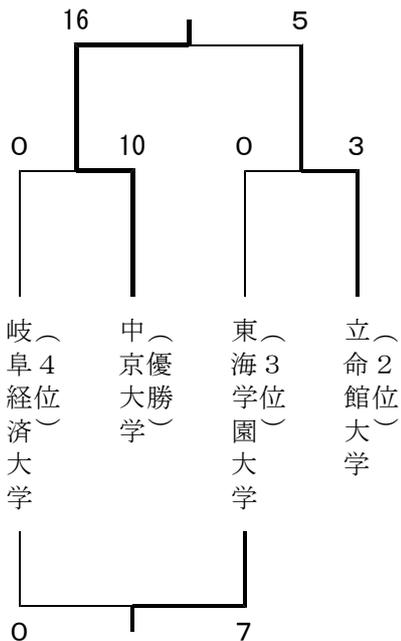
Hグループ	東海学院	愛知教育	立 命 館	順
東海学院		○ 10 - 0	● 0 - 11	2
愛知教育	● 0 - 10		● 0 - 14	3
立 命 館	○ 11 - 0	○ 14 - 0		1

※1～2位は失点率による。

女子順位決定戦（3月22日）

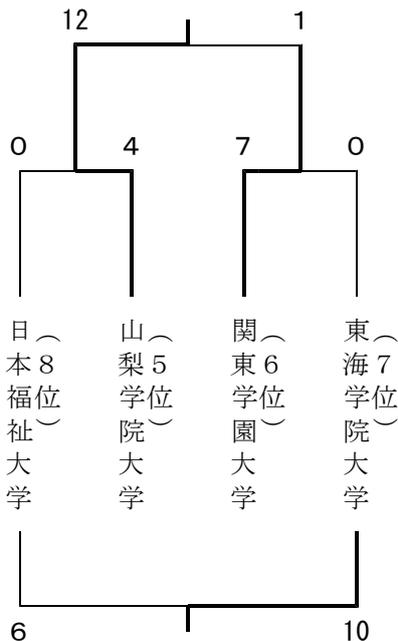
1～4位決定戦

中京大学(2年ぶり5回目)



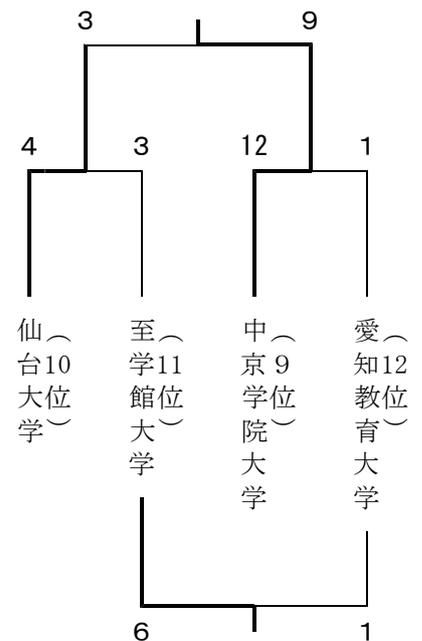
5～8位決定戦

山梨学院大学



9～12位決定戦

中京学院大学

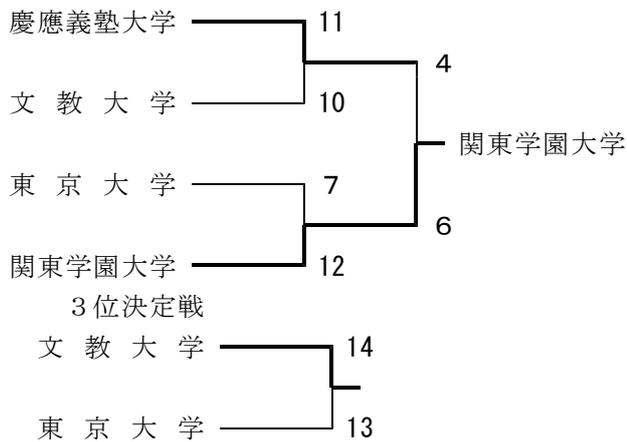


第14回 千葉オープン・チャレンジカップ・ソフトボールフェスティバル

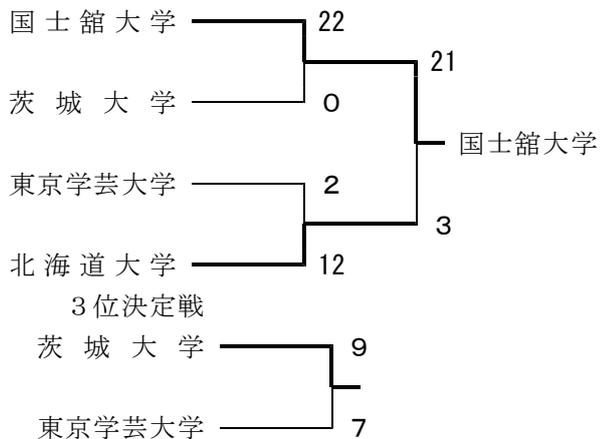
会期：平成24年3月26日(月)・27日(火)

会場：千葉県野田市／東京理科大学ソフトボール場

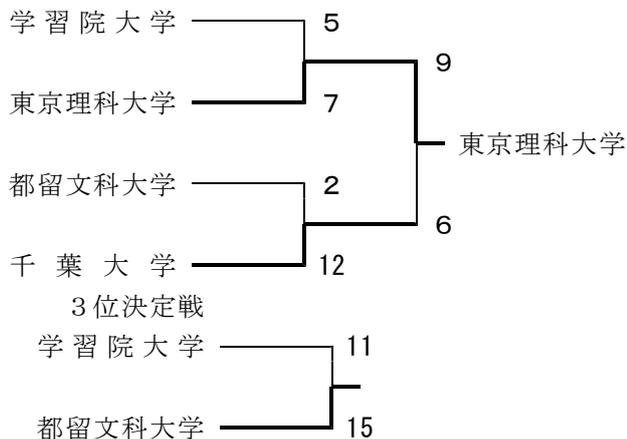
【予選Aブロック】



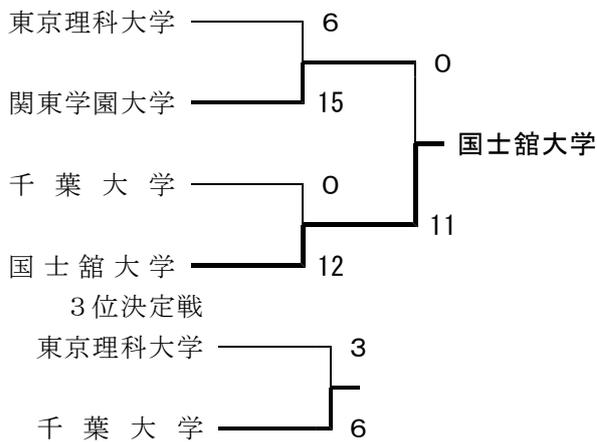
【予選Bブロック】



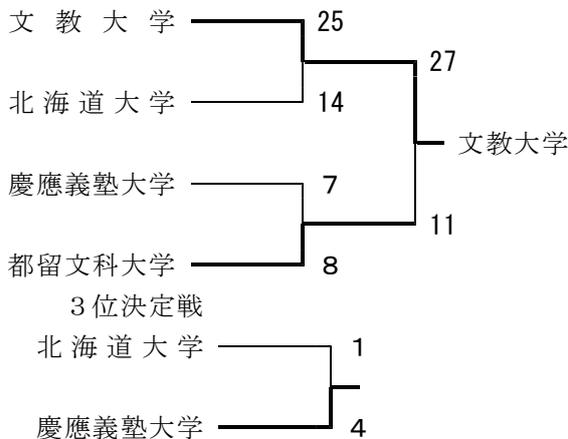
【予選Cブロック】



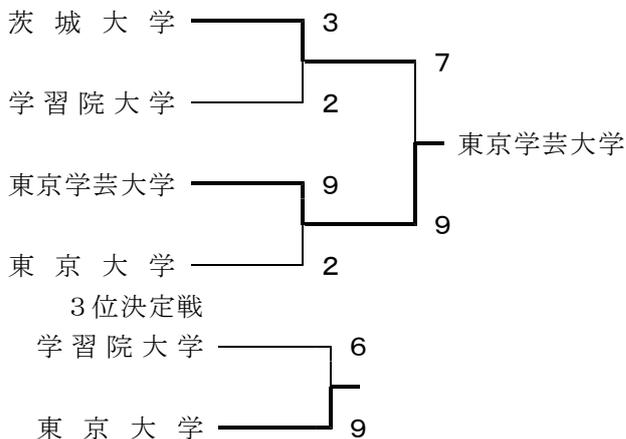
【決勝第Iブロック】



【決勝第IIブロック】



【決勝第IIIブロック】



第13回 「峠のまち」 Matsuida Cup 男・女大学ソフトボール強化大会

会期：平成24年4月21日(土)～22日(日)

会場：群馬県安中市／五料運動場・坂本スポーツ広場・久芳スポーツ広場

横川LEAG	千葉	都留文	東海	山梨	順
千葉	○	△	●		2
都留文科	●	○	○		3
東海	△	○	○		1
山梨学院	○	●	●		4

※3～4位は大会規定による。

碓氷LEAG	城西	関学	高経	信州	順
城西	○	●	○		1
関東学園	●	○	○		2
高崎経済	○	●	△		3
信州	●	●	△		4

※1～2位は大会規定による。

順位決定戦

◇1～2位：東海大学 - 城西大学 (雨天中止)

◇3～4位：千葉大学3-1 関東学園大学

◆5～6位：都留文科大学 - 高崎経済大学 (雨天中止)

◆7～8位：山梨学院大学13-11 信州大学

【女子】

ALEAG	松本	城西	東海	東福	順
松本	○	●	●	●	4
城西	○	○	○	○	1
東海	○	●	○	●	3
東北福祉	○	●	○	○	2

順位決定戦

◇1～2位：城西大学8-8 富士大学

◇3～4位：東北福祉大学12-0 関東学園大学

◆5～6位：東海大学6-5 山梨学院大学

◆7～8位：松本大学10-3 新島学園短期大学

CLEAG	山梨	富士	新島	関学	順
山梨学院	○	●	○	●	3
富士	○	○	○	○	1
新島短期	●	●	○	●	4
関東学園	○	●	○	○	2

【最終結果】(男子/女子)

優勝：東海大学・城西大学/富士大学

第5位：都留文科・高崎経済大学/東海大学

準優勝：城西大学

第6位：山梨学院大学

第3位：千葉大学/東北福祉大学

第7位：山梨学院大学/松本大学

第4位：関東学園大学/関東学園大学

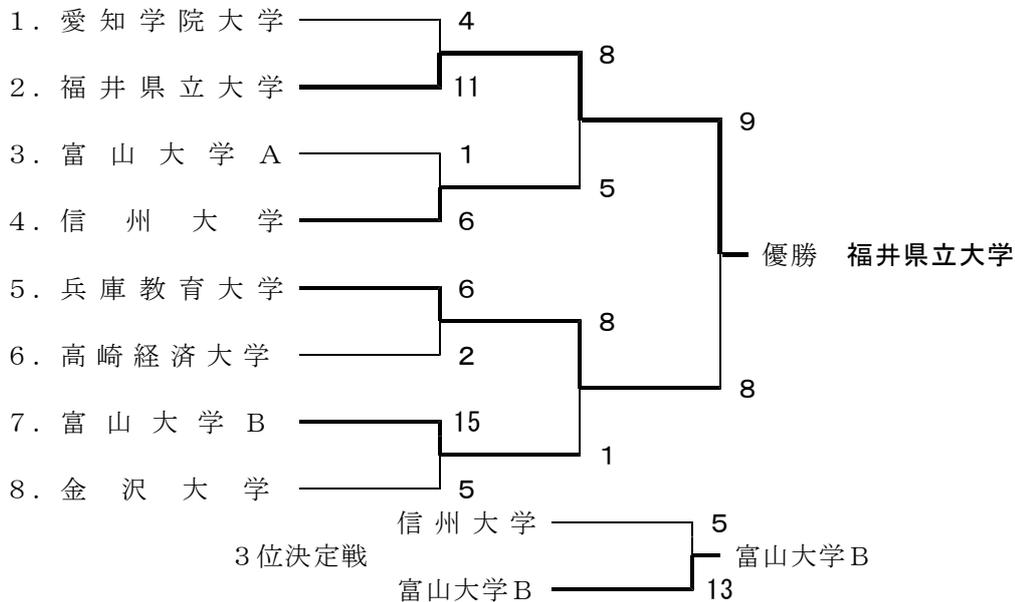
第8位：信州大学/新島学園短期大学

第9回 北信越大学オープンソフトボール大会

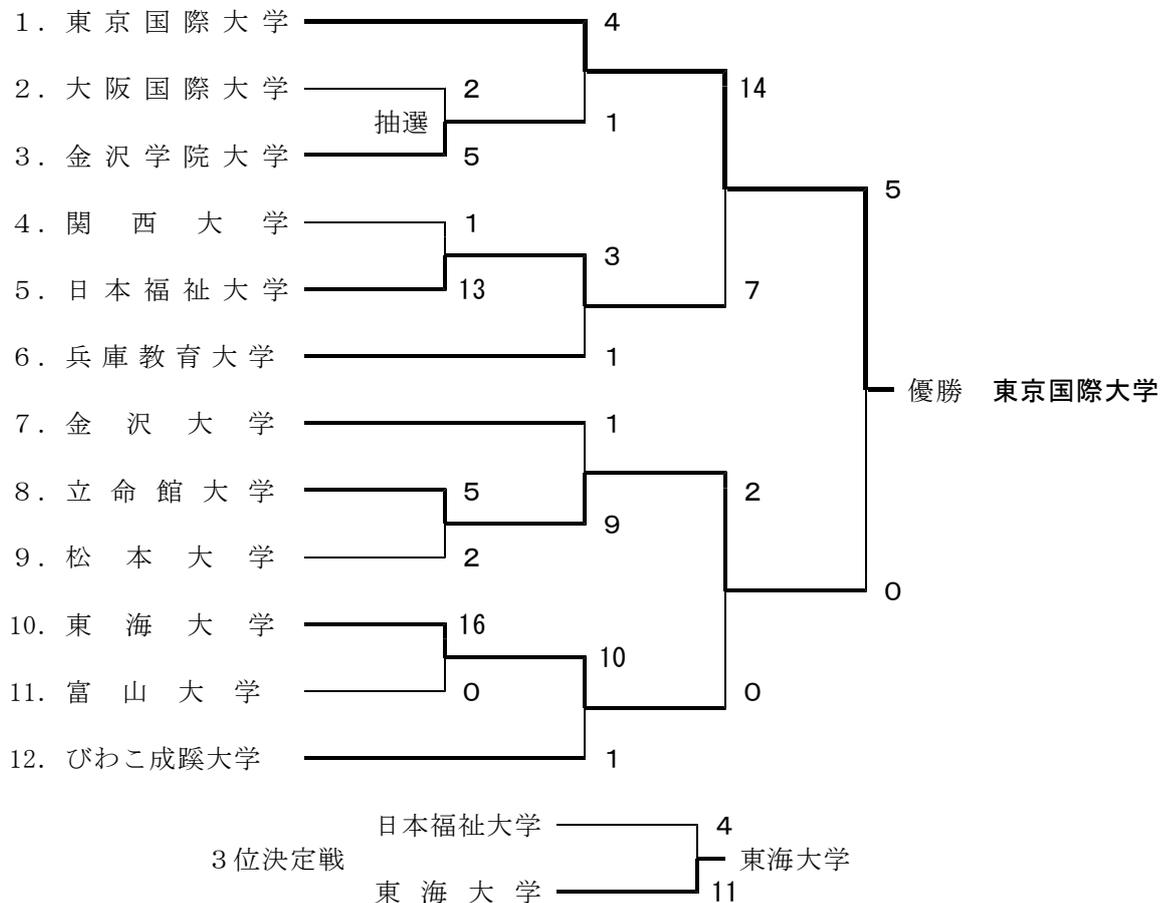
会期：平成24年7月7日(土)～8日(日)

会場：石川県金沢市／専光寺ソフトボール場

【男子】



【女子】

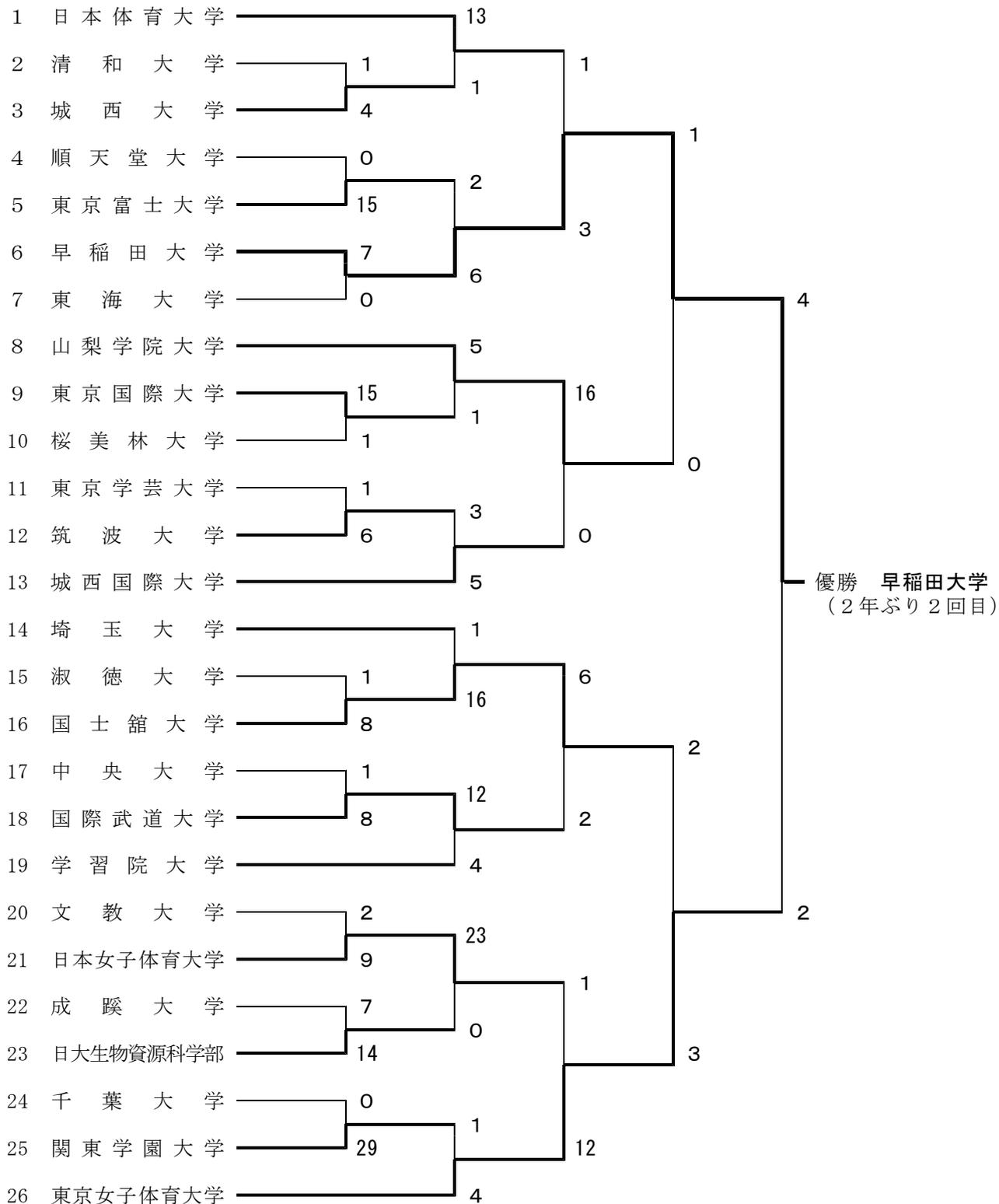


第43回 関東大学男女ソフトボール選手権大会

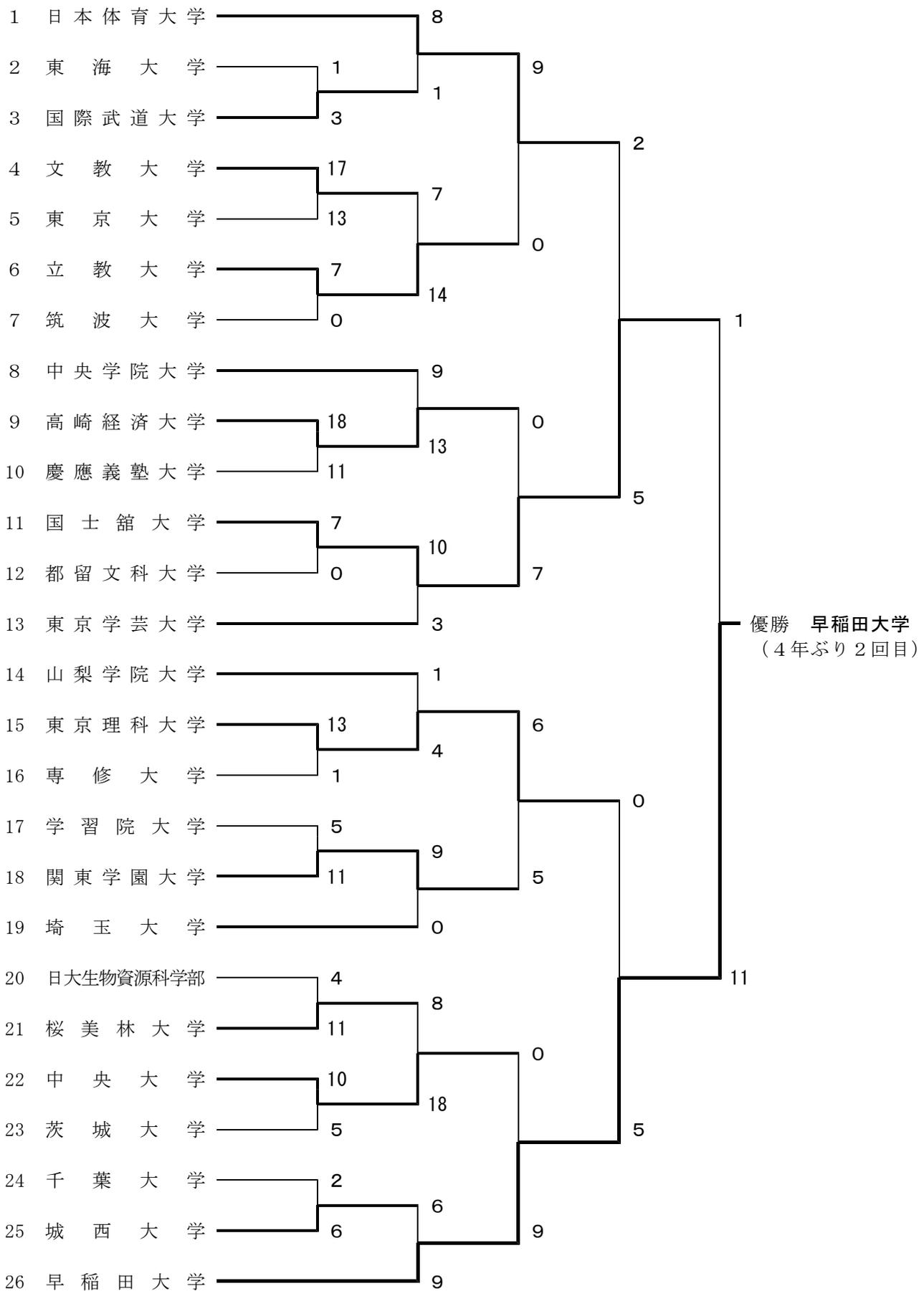
会期：平成24年11月10日(土)～12日(月)

会場：山梨県甲府市／小瀬スポーツ公園球技場他、笛吹市／御坂花鳥の里スポーツ広場

【女子】



【男子】



藤原初男杯 第4回全国大学・実業団対抗ソフトボール選抜大会

会期：平成24年11月24日(土)・25日(日)

会場：愛知県刈谷市／双葉グラウンド・亀城公園運動広場

Aグループ	トヨタ	東 福	I P U	日 福	NEC	日 体	大 谷	東 園	勝	分	敗	順
トヨタ	○	○	○	○	○	○	○	○	4	0	0	2位
東北福祉	●	○	○	○	●	○	○	●	1	0	3	-
環太平洋	●	○	○	●	●	○	○	○	1	0	3	-
日本福祉	○	●	○	○	○	●	●	○	1	0	3	-
NEC	○	○	○	○	○	○	○	○	3	0	1	-
日本体育	○	○	○	○	○	○	○	○	1	0	3	-
大阪大谷	○	○	○	○	○	○	○	○	2	0	2	-
東海学園	○	○	○	○	○	○	○	○	3	0	1	-

Bグループ	DENSO	山 学	親 和	中 京	織 機	松 本	園 田	鈴 国	勝	分	敗	順
デンソー	○	○	○	○	○	○	○	○	4	0	0	優勝
山梨学院	○	○	○	○	○	○	○	○	1	0	3	-
神戸親和	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1	2	-
中 京	○	○	○	○	○	○	○	○	2	0	2	-
豊田織機	○	○	○	○	○	○	○	○	4	0	0	3位
松 本	○	○	○	○	○	○	○	○	0	0	4	-
園田学園	○	○	○	○	○	○	○	○	1	0	3	-
鈴鹿国際	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1	1	-

優勝：デンソー(初) 4勝0敗、準優勝：トヨタ自動車 4勝0敗 ※順位は全勝チームの失点率による。

【北海道東北地区】

2012年 北海道・東北地区大学ソフトボール春季大会（男子）

会期：平成24年4月21日（土）・22日（日）・28日（土）・29日（日）

会場：宮城県一関市一関総合運動公園／柴田町阿武隈川運動場

チーム	弘 前	八 戸	盛 岡	東 北	東 学	宮 教	仙 台	福 島	日 工
弘 前	-	*	○ 10-7	*	● 8-9	● 7-17	*	*	*
八戸工業	*	-	*	*	*	● 0-8	● 2-10	○ 6-3	*
盛 岡	● 7-10	*	-	○ 15-8	*	● 1-8	● 7-10	○ 15-2	○ 12-5
東 北	*	*	● 8-15	-	● 7-8	○ 7-3	● 3-5	● 6-8	○ 17-1
東北学院	○ 9-8	*	*	○ 8-7	-	● 3-10	● 1-20	○ 10-4	● 10-12
宮城教育	○ 17-7	○ 8-0	○ 8-1	● 3-7	○ 10-3	-	● 3-9	*	*
仙 台	*	○ 10-2	○ 10-7	○ 5-3	○ 20-1	○ 9-3	-	○ 12-5	*
福 島	*	● 3-6	● 2-15	○ 8-6	● 4-10	*	● 5-12	-	*
日大工学	*	*	● 5-12	● 1-17	○ 12-10	*	*	*	-

※順位は、勝ち数で、ただし勝ち数が同数の場合は試合の多い方が上位、試合数が同じ場合は得点の多い方で決定。それでも決まらない場合は、失点の少ない方で決定する。

※弘前・八工・日工は、一関シリーズのみの参加

最終順位 1位：仙台大学 2位：宮城教育大学 3位：盛岡大学 4位：東北学院大学
5位：東北大学 6位：福島大学 7位：弘前大学 8位：日本大学工学部
9位：八戸工業大学

2012年 北海道・東北地区大学ソフトボール春季大会（女子）

会期：平成24年5月5日（土）・6日（日）

会場：岩手県花巻市石鳥谷ふれあい運動公園

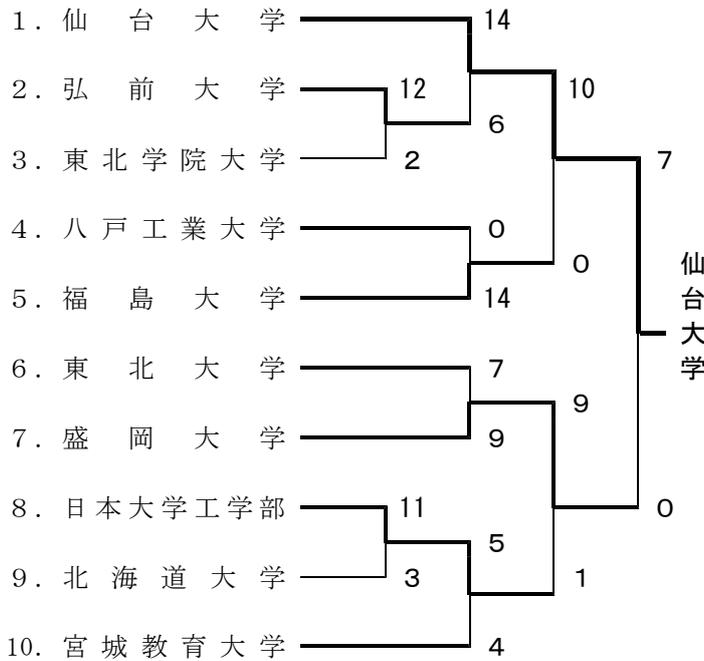
初日5月5日は雨天のため中止。二日目5月6日は、初日の第2試合目まで消化したが、第3試合途中で雷雨のため試合続行を断念した。したがって、女子の春季大会は記録なしとした。

第33回 北海道・東北地区大学ソフトボール選手権大会
兼、第47回全日本大学ソフトボール選手権大会北海道・東北地区予選会

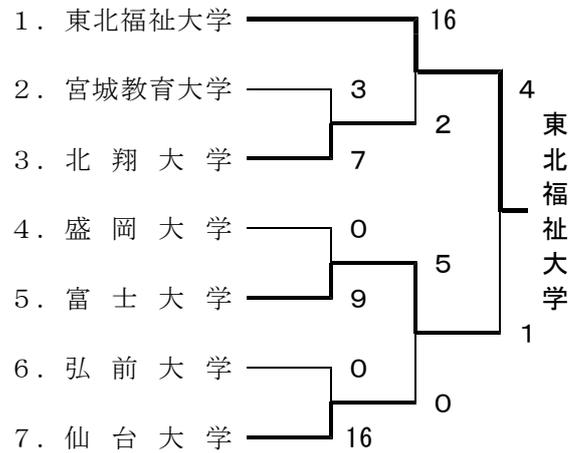
会期：平成24年5月19日(土)～20日(日)

会場：宮城県東松島市／鷹来の森運動公園

男子



女子



女子インカレ出場は、東北福祉大学(10年連続10回目)と富士大学(3年連続8回目)

男子インカレ出場は、仙台大学(7年連続26回目)と盛岡大学(2年ぶり11回目)

2012年度 東北地区大学ソフトボール秋季大会

会期：平成24年10月13日(土)・14日(日)、20日(土)・21日(日)

会場：岩手県八幡平市／松尾総合運動公園

【男子】

Aブロック	仙台	日工	弘前	順
仙台	○	○		1
日大工学	●	○		2
弘前	●	●		3

スコア表 (対戦相手 - 得点):

- 仙台 vs 日大工学: 16-3
- 仙台 vs 弘前: 6-3
- 日大工学 vs 弘前: 3-1
- 仙台 vs 日大工学: 3-16
- 仙台 vs 弘前: 3-6
- 日大工学 vs 弘前: 1-3

Bブロック	盛岡	八工	東学	順
盛岡	○			1
八戸工業	不戦敗	○		
東北学院	●	不戦敗		2

スコア表 (対戦相手 - 得点):

- 盛岡 vs 東学: 18-4
- 盛岡 vs 東北学院: 4-18

Cブロック	福島	東北	宮教	順
福島		● 0-9	● 4-11	3
東北	○ 9-0		○ 7-0	1
宮城教育	○ 11-4	● 0-7		2

東北	7	
盛岡	8	10
仙台		13
宮城教育	8	
東北学院	9	10
日大工学		11
福島	10	
弘前	11	

最終順位

- 1位 仙台大学
- 2位 盛岡大学
- 3位 東北大学
- 4位 日本大学工学部
- 5位 東北学院大学
- 6位 宮城教育大学
- 7位 弘前大学
- 8位 福島大学

【女子】

・予選リーグ戦

Aブロック	東福	弘前	盛岡	順
東北福祉		○ 13-0	○ 7-0	1
弘前	● 0-13		● 3-7	3
盛岡	● 0-7	○ 7-3		2

Bブロック	富士	仙台	宮教	順
富士		○ 11-0	○ 7-0	1
仙台	● 0-11		○ 13-1	2
宮城教育	● 0-7	● 1-13		3

・5～6位決定戦

弘前大学	5	
宮城教育大学		11

・3～4位決定戦

盛岡大学	2	
仙台大学		6

・1～2位決定戦

東北福祉大学	2	
富士大学		1

【関東地区】 第7回 関東学生男子ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成24年5月5日(土)・6日(日)・12日(土)・13日(日)

会場：埼玉県坂戸市／坂戸市民総合運動公園野球場、毛呂山町／西戸グラウンド 他

I部リーグ

チーム	高崎経済	城西	東海	東海理科	関東学園	国際武道	勝	分	敗	順位
高崎経済		● 4-6	△ 1-1	○ 11-10	○ 6-5	○ 8-1	3	1	1	2位
城西	○ 6-4		○ 5-2	○ 12-5	○ 5-1	○ 11-10	5	0	0	優勝
東海	△ 1-1	● 2-5		○ 9-3	● 4-5	● 0-3	1	1	3	5位
東海理科	● 10-11	● 5-12	● 3-9		● 8-13	● 1-21	0	0	5	6位
関東学園	● 5-6	● 1-5	○ 5-4	○ 13-8		● 8-11	2	0	3	4位
国際武道	● 1-8	● 10-11	○ 3-0	○ 21-1	○ 11-8		3	0	2	3位

Ⅱ部リーグ

チーム	埼玉	千葉	中央学院	文教	都留文科	山梨学院	勝	分	敗	順位
埼玉	-	● 2-25	○ 10-4	● 7-15	● 8-21	● 7-16	1	0	4	6位
千葉	○ 25-2	-	○ 11-4	○ 9-1	○ 8-4	○ 17-3	5	0	0	1位
中央学院	● 4-10	● 4-11	-	● 5-7	○ 9-4	○ 10-3	2	0	3	3位
文教	○ 15-7	● 1-9	○ 7-5	-	● 13-17	○ 19-3	3	0	2	2位
都留文科	○ 21-8	● 4-8	● 4-9	○ 17-13	-	● 4-25	2	0	3	5位
山梨学院	○ 16-7	● 3-17	● 3-10	● 3-19	○ 25-4	-	2	0	3	4位

※3～5位の順位はリーグ規約により、当該チーム間の勝敗で決定。

Ⅲ部リーグ

チーム	茨城	筑波	日大生資	東京国際	日大生産	勝	分	敗	順位
茨城	-	○ 15-3	○ 7-6	○ 13-3	○ 11-4	4	0	0	1位
筑波	● 3-15	-	● 16-17	○ 26-6	○ 24-4	2	0	2	3位
日大生資	● 6-7	○ 17-16	-	○ 47-4	○ 15-7	3	0	1	2位
東京国際	● 3-13	● 6-26	● 4-47	-	● 12-27	0	0	4	5位
日大生産	● 4-11	● 4-24	● 7-15	○ 27-12	-	1	0	3	4位

Ⅰ部Ⅱ部入替戦 東京理科大学(Ⅰ部6位) 8-9 千葉大学(Ⅱ部1位) ※千葉大学はⅠ部昇格

Ⅱ部Ⅲ部入替戦 埼玉大学(Ⅱ部6位) 9-16 茨城大学(Ⅲ部1位) ※茨城大学はⅡ部昇格

第7回 関東学生女子ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成24年5月5日(土)・6日(日)・12日(土)・13日(日)

会場：埼玉県坂戸市／坂戸市民総合運動公園野球場、毛呂山町／西戸グラウンド 他

Ⅰ部リーグ

チーム	山梨学院	淑徳	城西	関東学園	東京国際	清和	勝	分	敗	順位
山梨学院	-	● 3-4	● 2-4	○ 7-0	○ 6-1	○ 15-2	3	0	2	2位
淑徳	○ 4-3	-	△ 2-2	○ 1-0	○ 6-2	○ 4-0	4	1	0	優勝
城西	○ 4-2	△ 2-2	-	○ 3-2	△ 4-4	● 4-5	2	2	1	3位
関東学園	● 0-7	● 0-1	● 2-3	-	● 3-4	△ 4-4	0	1	4	6位
東京国際	● 1-6	● 2-6	△ 4-4	○ 4-3	-	● 7-8	1	1	3	5位
清和	● 2-15	● 0-4	○ 5-4	△ 4-4	○ 8-7	-	2	1	2	4位

Ⅱ部リーグ

チーム	東海	新島学園	国際武道	城西国際	順天堂	文教	勝	分	敗	順位
東海	-	○12-0	○6-1	○1-0	○22-1	○11-0	5	0	0	1位
新島学園	●0-12	-	●0-3	●2-9	●0-2	○7-0	1	0	4	4位
国際武道	●1-6	○3-0	-	●3-5	○19-2	○10-2	3	0	2	3位
城西国際	●0-1	○9-2	○5-3	-	○8-3	○10-3	4	0	1	2位
順天堂	●1-22	○2-0	●2-19	●3-8	-	●3-4	1	0	4	5位
文教	●0-11	●0-7	●2-10	●3-10	○4-3	-	1	0	4	6位

※4位～6位の順位はリーグ規約に基づき当該2試合の得失点差により決定。

Ⅲ部リーグ

チーム	筑波	茨城	千葉	日大生資	勝	分	敗	順位
筑波	-	○10-1	○12-3	○16-0	3	0	0	1位
茨城	●1-10	-	○11-7	○4-2	2	0	1	2位
千葉	●3-12	●7-11	-	○11-4	1	0	2	3位
日大生資	●0-16	●2-4	●4-11	-	0	0	3	4位

I部Ⅱ部入替戦 関東学園大学(I部6位) 3-2 東海大学(Ⅱ部1位) ※関東学園大学はI部残留

Ⅱ部Ⅲ部入替戦 文教大学(Ⅱ部6位) 1-11 筑波大学(Ⅲ部1位) ※筑波大学はⅡ部昇格

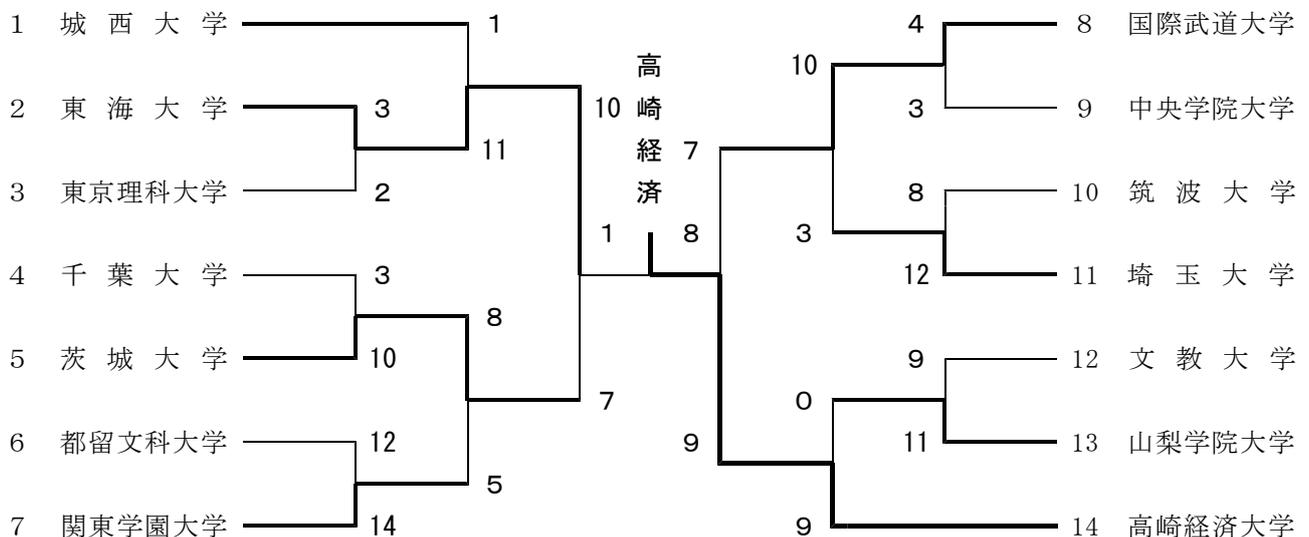
第20回 関東学生ソフトボール選手権大会

兼 第47回全日本大学ソフトボール選手権大会関東地区予選会

会期：平成24年5月26日(土)、27日(日)

会場：群馬県高崎市／群馬総合運動場他、館林市／高根運動場

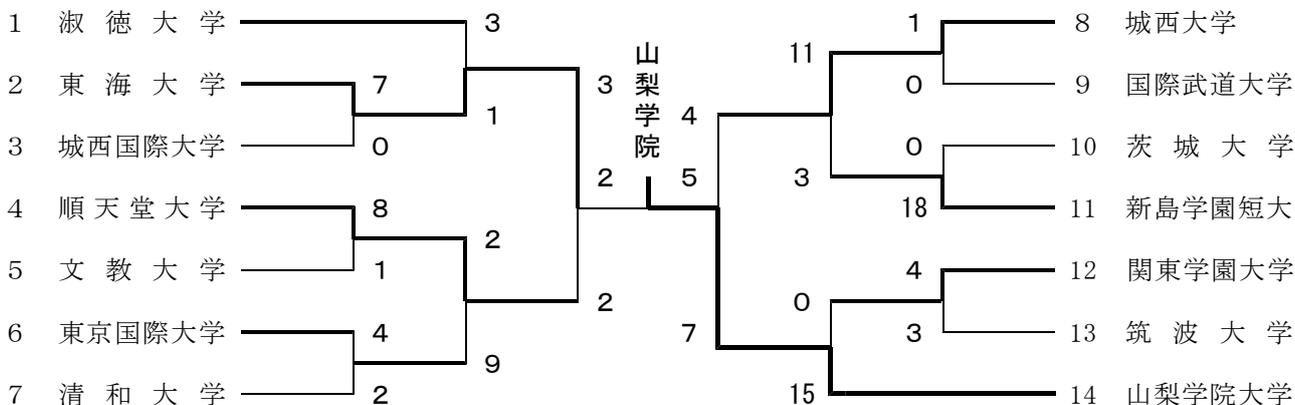
【男子】



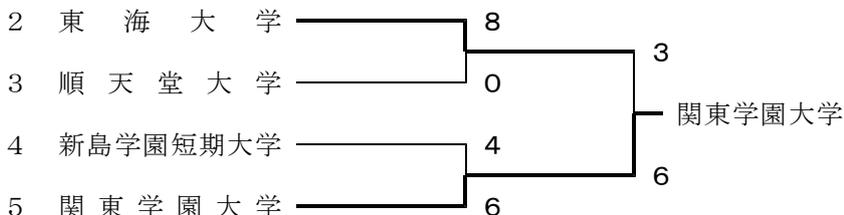
インカレ出場権獲得校

高崎経済大学（2年連続3回目の優勝、4年連続28回目） 茨城大学（5年ぶり19回目）
 東海大学（4年ぶり38回目） 国際武道大学（2年ぶり19回目）

【女子】



第5代表決定戦



インカレ出場権獲得校

山梨学院大学（2年連続2回目の優勝、4年連続4回目） 東京国際大学（2年連続2回目）
 淑徳大学（7年連続21回目） 関東学園大学（5年ぶり2回目）
 城西大学（10年連続10回目）

第12回 関東学生男子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成24年10月6日(土)・7日(日)・8日(月)・13日(土)

会場：東松山市／駒形公園ソフトボール場、淑徳大学耕心記念グラウンド 他

I部リーグ

チーム	城西	高崎経済	国際武道	関東学園	東海	千葉	勝	分	敗	順位
城西	-	○7-0	●4-6	○8-1	△3-3	○5-2	3	1	1	2位
高崎経済	●0-7	-	●6-7	○8-4	△2-2	○10-7	2	1	2	3位
国際武道	○6-4	○7-6	-	○1-0	△2-2	○9-0	4	1	0	優勝
関東学園	●1-8	●4-8	●0-1	-	○3-2	●3-4	1	0	4	6位
東海	△5-6	△5-6	△2-2	●2-3	-	○12-2	1	3	1	4位
千葉	●2-5	●7-10	●0-9	○4-3	●2-12	-	1	0	4	5位

※5～6位は同じ勝ち点で並んだため、大会規約により順位を決定。

Ⅱ部リーグ

チーム	東京理科	文 教	中央学院	山梨学院	都留文科	茨 城	勝	分	敗	順 位
東京理科	○	○19-1	○8-5	●9-10	●5-6	●2-4	2	0	3	4位
文 教	●1-19	○	●7-9	○16-7	●2-14	○19-14	2	0	3	5位
中央学院	●5-8	○9-7	○	△4-4	○13-4	●5-6	2	1	2	3位
山梨学院	○10-9	●7-16	△4-4	○	●5-8	●1-3	1	1	3	6位
都留文科	○6-5	○14-2	●4-13	○8-5	○	●9-11	3	0	2	2位
茨 城	○4-2	●14-19	○6-5	○3-1	○11-9	○	4	0	1	1位

※4～5位は同じ勝ち点で並んだため、大会規約により順位を決定。

Ⅲ部リーグ

チーム	埼 玉	日大生物	筑 波	日大生産	東京国際	芝浦工業	勝	分	敗	順 位
埼 玉	○	○12-5	○28-3	○14-7	●10-12	○24-6	4	0	1	2位
日大生物	●5-12	○	○12-8	●3-17	○11-4	○11-4	3	0	2	4位
筑 波	●3-28	●8-12	○	●10-20	●6-13	○7-0	1	0	4	5位
日大生産	●7-14	○17-3	○20-10	○	●7-21	○13-5	3	0	2	3位
東京国際	○12-10	●4-11	○13-6	○21-7	○	○17-1	4	0	1	1位
芝浦工業	●6-24	●4-11	●0-7	●5-13	●1-17	○	0	0	5	6位

※1～2位、3～4位は同じ勝ち点で並んだため、大会規約により順位を決定。

I部Ⅱ部入替戦 関東学園大学(I部6位)8-7茨城大学(Ⅱ部1位) ※関東学園大学はI部残留

Ⅱ部Ⅲ部入替戦 山梨学院大学(Ⅱ部6位)16-8東京国際大学(Ⅲ部1位) ※山梨学院大学はⅡ部残留

第12回 関東学生女子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成24年10月6日(土)～8日(月)・13日(土)・14(日)

会場：東京国際大学坂戸キャンパス、毛呂山町／大類ソフトボールパーク 他

I部リーグ

チーム	淑 徳	山梨学院	城 西	清 和	東京国際	関東学園	勝	分	敗	順 位
淑 徳	○	●0-4	●4-5	○3-1	●0-3	○5-0	2	0	3	4位
山梨学院	○4-0	○	○6-0	○2-0	○5-4	○4-1	5	0	0	優勝
城 西	○5-4	●0-6	○	△2-2	△0-0	○2-1	2	2	1	3位
清 和	●1-3	●0-2	△2-2	○	●0-2	△1-1	0	2	3	5位
東京国際	○3-0	●4-5	△0-0	○2-0	○	○7-0	3	1	1	2位
関東学園	●0-5	●1-4	●1-2	△1-1	●0-7	○	0	1	4	6位

※大会規約により順位を決定。

Ⅱ部リーグ

チーム	東海	城西国際	国際武道	新島学園	順天堂	筑波	勝	分	敗	順位
東海	-	○2-0	○1-0	○8-1	○9-0	○5-0	5	0	0	1位
城西国際	●0-2	-	●6-7	●1-4	●6-7	○9-8	1	0	4	6位
国際武道	●0-1	○7-6	-	○7-0	○13-3	○10-3	4	0	1	2位
新島学園	●1-8	○4-1	●0-7	-	○10-0	△3-3	2	1	2	3位
順天堂	●0-9	○7-6	●3-13	●0-10	-	●0-6	1	0	4	5位
筑波	●0-5	●8-9	●3-10	△3-3	○6-0	-	1	1	3	4位

※5～6位は同じ勝ち点で並んだため、大会規約により順位を決定。

Ⅲ部リーグ

チーム	文教	茨城	千葉	日大生物	埼玉	勝	分	敗	順位
文教	-	○10-0	○9-1	○7-0	○10-1	4	0	0	1位
茨城	●0-10	-	○7-6	○6-3	○16-4	3	0	1	2位
千葉	●1-9	●6-7	-	●8-9	●5-12	0	0	4	5位
日大生物	●0-7	●3-6	○9-8	-	●7-9	1	0	3	4位
埼玉	●1-10	●4-16	○12-5	○9-7	-	2	0	2	3位

I部Ⅱ部入替戦 関東学園大学(I部6位) 3-1 東海大学(Ⅱ部1位) ※関東学園大学はI部残留
 Ⅱ部Ⅲ部入替戦 城西国際大学(Ⅱ部6位) 2-0 文教大学(Ⅲ部1位) ※城西国際大学はⅡ部残留

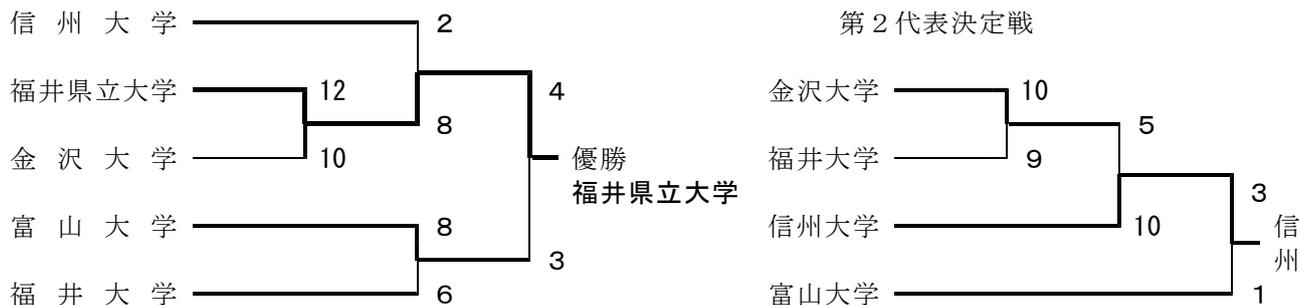
【北信越地区】

第18回 北信越地区大学男子・女子ソフトボール選手権大会
 (兼、文部科学大臣杯第47回全日本大学ソフトボール選手権大会予選会)

会期：平成24年5月19日(土)・20日(日)

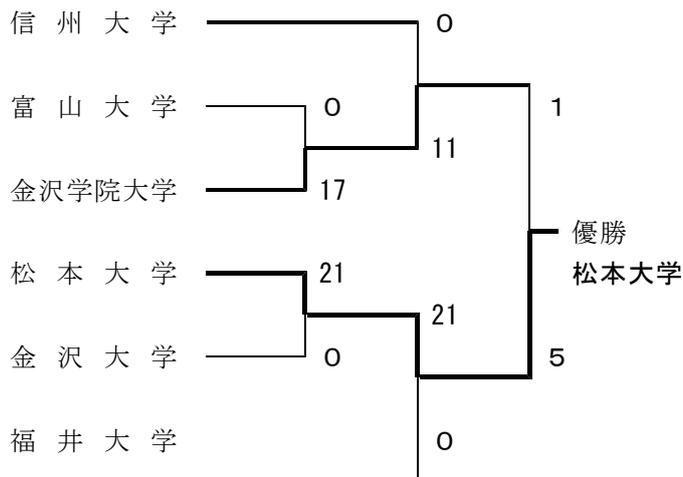
会場：富山県富山市／岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場

【男子】

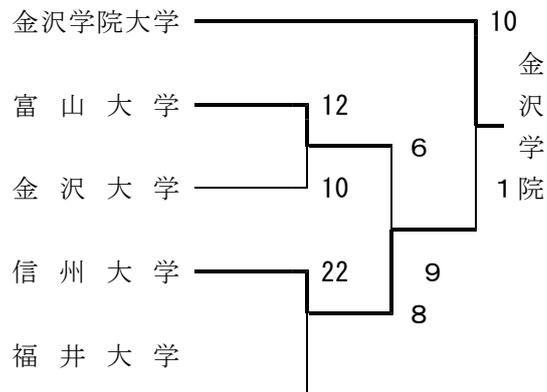


※大学選手権大会出場権獲得校：福井県立大学(初)、信州大学(2年連続8回目)

【女子】



第2代表決定戦



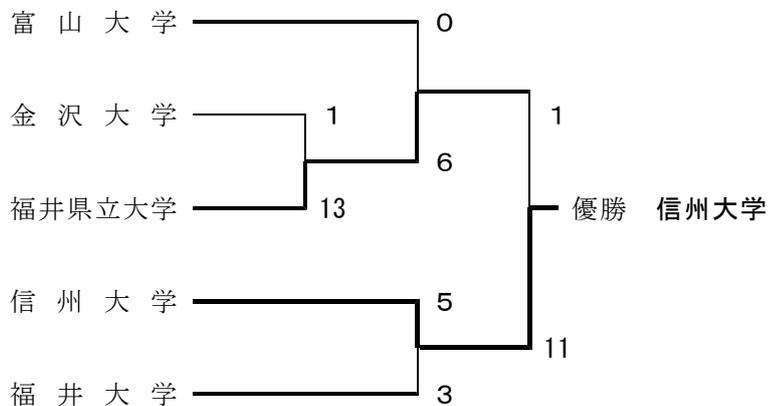
※大学選手権大会出場権獲得校：松本大学(6年連続6回目)、金沢学院大学(2年連続2回目)

第19回 北信越大学新人ソフトボール選手権大会

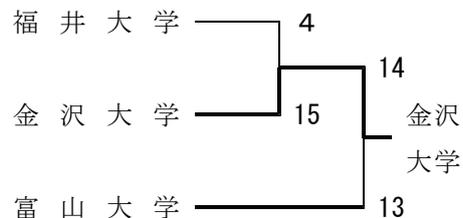
会期：平成24年9月15日(土)・16日(日)

会場：新潟県燕市／スポーツランド燕

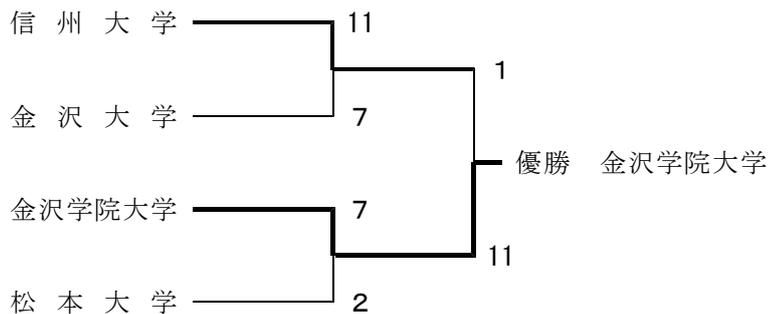
【男子】



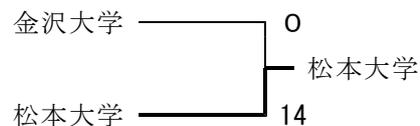
3位決定戦



【女子】



3位決定戦



【東京地区】

平成24年度 第44回東京都大学ソフトボール春季リーグ戦

男子1部

チーム	日本体育	国士館	学習院	早稲田	慶應義塾	中央	勝	分	敗	順位
日本体育	-	○7-1	○13-1	●3-8	○18-0	○12-0	4	0	1	2位
国士館	●1-7	-	○7-1	●3-4	○11-0	○13-1	3	0	2	3位
学習院	●1-13	●1-7	-	●3-10	○14-3	●1-5	1	0	4	5位
早稲田	○8-3	○4-3	○10-3	-	○21-0	○12-0	5	0	0	優勝
慶應義塾	●0-18	●0-11	●3-14	●0-21	-	●0-13	0	0	5	6位
中央	●0-12	●1-13	○5-1	●0-12	○13-0	-	2	0	3	4位

男子2部

チーム	明治	専修	成蹊	立教	東京	東京学芸	勝	分	敗	順位
明治	-	●7-14	○26-7	△8-8	●18-19	○10-8	2	1	2	3位
専修	○14-7	-	○9-4	○7-6	○17-9	○7-5	5	0	0	優勝
成蹊	●7-26	●4-9	-	●5-12	○12-11	●2-14	1	0	4	5位
立教	△8-8	●6-7	○12-5	-	○11-9	○10-5	3	1	1	2位
東京	○19-18	●9-17	●11-12	●9-11	-	●2-7	1	0	4	6位
東京学芸	●8-10	●5-7	○14-2	●5-10	○7-2	-	2	0	3	4位

※5位と6位は直接対決の勝敗による。

男子3部 Aセクション

チーム	桜美林	日本	東京農業	帝京	I C U	勝	分	敗	順位
桜美林	-	○26-3	○25-2	○16-1	○16-1	4	0	0	1位
日本	●3-26	-	○7-5	○8-2	○13-4	3	0	1	2位
東京農業	●2-25	●5-7	-	○8-4	●3-15	1	0	3	5位
帝京	●1-16	●2-8	●4-8	-	○12-3	1	0	3	3位
国際基督	●1-16	●4-13	○15-3	●3-12	-	1	0	3	4位

※3位～5位は失点率による。

男子3部 Bセクション

チーム	東洋	東京都市	文教湘南	明星	勝	分	敗	順位
東洋		●13-21	○13-9	○6-5	2	0	1	2位
東京都市	○21-13		○10-3	○7-6	3	0	0	1位
文教湘南	●9-13	●3-10		○11-8	1	0	2	3位
明星	●5-6	●6-7	●8-11		0	0	3	4位

男子3部 ABセクション優勝決定戦
桜美林大学 7-0 東京都市大学

男子入れ替え戦

1部-2部

慶應義塾大学(6位) 15-4 専修大学(1位)

※慶應義塾大学は1部残留

2部-3部

東京大学(6位) 1-12 桜美林大学(1位)

※桜美林大学は2部昇格、東京大学は3部降格

女子1部

チーム	早稲田	日本体育	東京女体	国士舘	日本女体	東京学芸	勝	分	敗	順位
早稲田		●5-6	○2-0	○10-0	○9-0	○3-2	4	0	1	2位
日本体育	○6-5		●0-8	○11-1	○7-2	○9-0	4	0	1	3位
東京女体	●0-2	○8-0		○6-0	○14-0	○20-1	4	0	1	優勝
国士舘	●0-10	●1-11	●0-6		○12-2	○10-2	2	0	3	4位
日本女体	●0-9	●2-7	●0-14	●2-12		○7-5	1	0	4	5位
東京学芸	●2-3	●0-9	●1-20	●2-10	●5-7		0	0	5	6位

※1位~3位は失点率による。

女子2部

チーム	慶應義塾	中央	桜美林	専修	東洋	明治	勝	分	敗	順位
慶應義塾		○6-5	●0-5	○5-0	○14-7	○22-0	4	0	1	1位
中央	●5-6		○3-2	△6-6	△2-2	○21-3	2	2	1	4位
桜美林	○5-0	●2-3		●7-8	○10-3	○15-0	3	0	2	3位
専修	●0-5	△6-6	○8-7		○11-2	○9-0	3	1	1	2位
東洋	●7-14	△2-2	●3-10	●2-11		○13-1	1	1	3	5位
明治	●0-22	●3-21	●0-15	●0-9	●1-13		0	0	5	6位

女子 3 部

チーム	成 蹊	学 習 院	創 価	I C U	東京富士	文教湘南	勝	分	敗	順 位
成 蹊	● 3-18	○18-0	○14-11	● 0-21	○ 9-8	3	0	2	3 位	
学 習 院	○18-3	● 6-14	○14-6	○33-6	● 1-30	○15-1	4	0	1	2 位
創 価	● 0-18	● 6-14	● 0-7	● 0-7	● 3-7	0	0	5	6 位	
国際基督教	●11-14	● 6-33	○ 7-0	● 0-36	● 7-14	1	0	4	5 位	
東京富士	○21-0	○30-1	○ 7-0	○36-0	○31-0	5	0	0	1 位	
文教湘南	● 8-9	● 1-15	○ 7-3	○14-7	● 0-31	2	0	3	4 位	

女子入れ替え戦

1 部 - 2 部

2 部 - 3 部

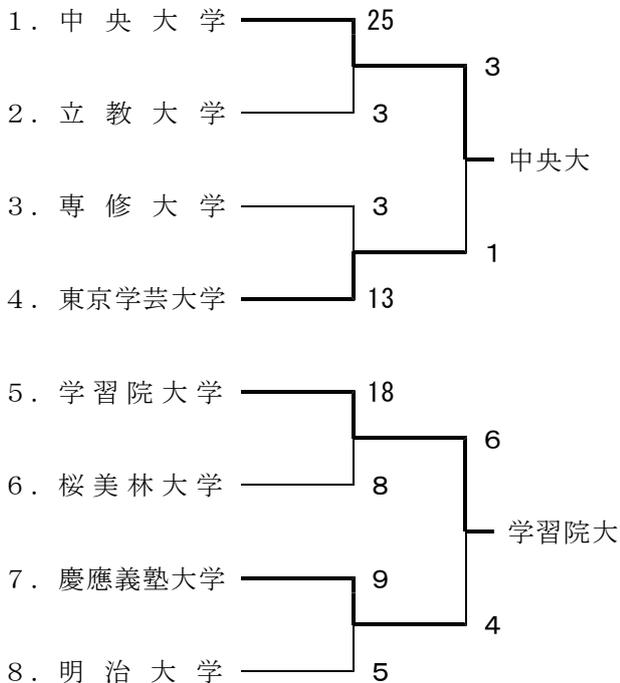
東京学芸大学 (6 位) 11-6 慶應義塾大学 (1 位) 明治大学 (6 位) 0-18 東京富士大学 (1 位)

※東京学芸大学は 1 部残留

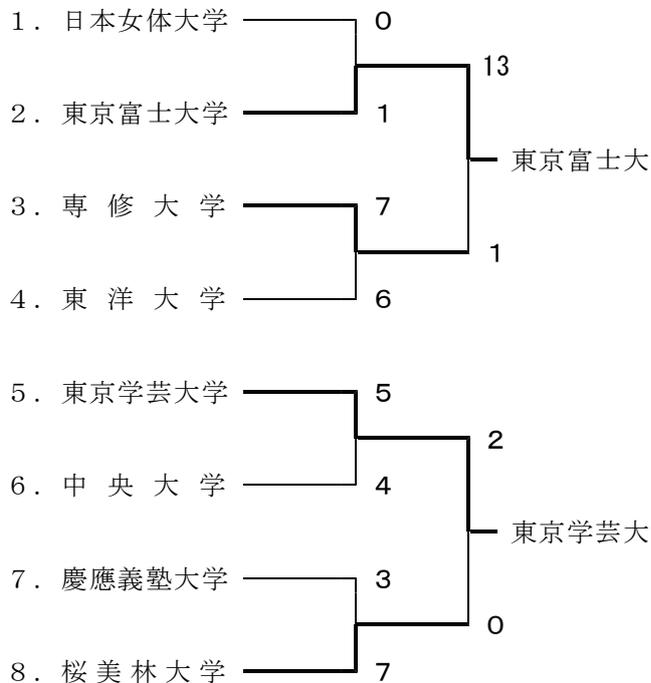
※東京富士大学は 2 部昇格、 明治大学は 3 部降格

全日本大学選手権大会東京都第 2 次予選

男子



女子



第47回全日本大学選手権大会の東京地区代表校

男子：日本体育大学、早稲田大学、国土舘大学、中央大学、学習院大学

女子：東京女子体育大学、早稲田大学、日本体育大学、国土舘大学、東京富士大学、東京学芸大

平成24年度第44回 東京都大学ソフトボール秋季リーグ戦

男子1部

チーム	早稲田	日本体育	国士舘	中央	学習院	慶應義塾	勝	分	敗	順位
早稲田	-	●0-2	○4-3	○5-2	○8-0	○10-1	4	0	1	2位
日本体育	○2-0	-	○10-3	○5-0	○17-0	○11-7	5	0	0	優勝
国士舘	●3-4	●3-10	-	○16-2	○6-1	○11-0	3	0	2	3位
中央	●2-5	●0-5	●2-16	-	○14-2	○7-0	2	0	3	4位
学習院	●0-8	●0-17	●1-6	●2-14	-	○17-3	1	0	4	5位
慶應義塾	●1-10	●7-11	●0-11	●0-7	●3-17	-	0	0	5	6位

男子2部

チーム	専修	立教	明治	東京学芸	成蹊	桜美林	勝	分	敗	順位
専修	-	○13-5	●4-8	△2-2	○13-3	●8-13	2	1	2	4位
立教	●5-13	-	○8-1	●8-10	●6-11	△6-6	1	1	3	5位
明治	○8-4	●1-8	-	△6-6	○15-2	○19-6	3	1	1	2位
東京学芸	△2-2	○10-8	△6-6	-	○9-4	○7-4	3	2	0	1位
成蹊	●3-13	○11-6	●2-15	●4-9	-	●11-12	1	0	4	6位
桜美林	○13-8	△6-6	●6-19	●4-7	○12-11	-	2	1	2	3位

※3位と4位は直接対決の勝敗による

男子3部 Aセクション

チーム	東京	東洋	帝京	明星	東京農業	勝	分	敗	順位
東京	-	△14-14	●7-9	●1-7	○12-2	1	1	2	4位
東洋	△14-14	-	○15-7	●2-9	○11-1	2	1	1	2位
帝京	○9-7	●7-15	-	○10-5	●7-8	2	0	2	3位
明星	○7-1	○9-2	●5-10	-	○11-4	3	0	1	1位
東京農業	●2-12	●1-11	○8-7	●4-11	-	1	0	3	5位

男子3部 Bセクション

チーム	東京都市	日本	文教湘南	ICU	勝	分	敗	順位
東京都市	-	○11-4	△8-8	○17-7	2	1	0	1位
日本	●4-11	-	○13-6	○13-8	2	0	1	2位
文教湘南	△8-8	●6-13	-	○13-12	1	1	1	3位
国際基督	●7-17	●8-13	●12-13	-	0	0	3	4位

男子3部A Bセクション優勝決定戦

東京都市大学 6-5 明星大学

男子入れ替え戦

1部-2部

慶應義塾大学(6位) 5-7 東京学芸大学(1位)

※東京学芸は1部昇格、慶應義塾は2部降格

2部-3部

成蹊大学(6位) 3-10 東京都市大学(1位)

※東京都市大学は2部昇格、成蹊大は3部降格

女子1部

チーム	東京女体	早稲田	日本体育	国士舘	日本女体	東京学芸	勝	分	敗	順位
東京女体	-	●1-6	●0-2	○1-0	○8-1	○16-3	3	0	2	3位
早稲田	○6-1	-	●0-7	○2-1	○7-0	○8-0	4	0	1	2位
日本体育	○2-0	○7-0	-	○4-0	○2-0	○6-0	5	0	0	優勝
国士舘	●0-1	●1-2	●0-4	-	○1-0	○4-1	2	0	3	4位
日本女体	●1-8	●0-7	●0-2	●0-1	-	●2-6	0	0	5	6位
東京学芸	●3-16	●0-8	●0-6	●1-4	○6-2	-	1	0	4	5位

女子2部

チーム	慶應義塾	専修	桜美林	中央	東洋	東京富士	勝	分	敗	順位
慶應義塾	-	○1-0	●0-7	○4-0	○13-3	●1-6	3	0	2	2位
専修	●0-1	-	●1-10	●0-6	△2-2	●0-15	0	1	4	6位
桜美林	○7-0	○10-1	-	●0-3	●0-2	●0-10	2	0	3	4位
中央	●0-4	○6-0	○3-0	-	○7-2	●1-10	3	0	2	3位
東洋	●3-13	△2-2	○2-0	●2-7	-	●0-18	1	1	3	5位
東京富士	○6-1	○15-0	○10-0	○10-1	○18-0	-	5	0	0	1位

※2位と3位は直接対決の勝敗による。

女子3部 Aセクション

チーム	明治	文教湘南	I C U	日本	勝	分	敗	順位
明治	-	●6-17	○15-5	○9-4	2	0	1	2位
文教湘南	○17-6	-	○14-10	○15-11	3	0	0	1位
国際基督	●5-15	●10-14	-	●5-14	0	0	3	4位
日本	●4-9	●11-15	○14-5	-	1	0	2	3位

女子3部 Bセレクション

チーム	学習院	成蹊	創価	実践女子	勝	分	敗	順位
学習院	○26-0	○22-0	○6-0	3	0	0	1位	
成蹊	●0-26	○24-4	○13-1	2	0	1	2位	
創価	●0-22	●4-24	●8-9	0	0	3	4位	
実践女子	●0-6	●1-13	○9-8	1	0	2	3位	

女子3部 ABセレクション優勝決定戦

学習院大学 13-4 文教湘南大学

女子入れ替え戦

1部-2部 日本女子体育大学(1部6位) 0-2 東京富士大学(2部1位)

※東京富士大学は1部昇格、日本女子体育大学は2部降格

2部-3部 専修大学(2部6位) 11-15 学習院大学(3部1位)

※学習院大学は2部昇格、専修大学は2部降格

【東海地区】

東海テレビ杯

平成24年度春季第70回 東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

一兼、第47回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選一

一兼、第44回西日本大学ソフトボール選手権大会予選一

会期：平成24年4月28・29・30日、5月4・5・6日

会場：愛知県豊田市／豊田市運動公園ソフトボール場・多目的広場

一部リーグ戦

チーム	中京学院	中京	愛知	愛知学院	常葉学園	名古屋	勝	敗	失点率	順
中京学院	○6-5	○5-0	○7-0	○7-0	○8-0	5	0	1.03	1	
中京	●5-6	○5-1	○9-1	○13-1	○7-4	4	1	2.68	2	
愛知	●0-5	●1-5	○7-3	○6-2	○11-5	3	2	4.24	3	
愛知学院	●0-7	●1-9	●3-7	●1-10	●1-15	0	5	14.82	6	
常葉学園	●0-7	●1-13	●2-6	○10-1	●14-15	1	4	11.16	5	
名古屋	●0-8	●4-7	●5-11	○15-1	○15-14	2	3	10.00	4	

二部リーグ戦

チーム	静岡	名古屋商	岐阜聖徳	日本福祉	中部	南山	勝	敗	失点率	順
静岡	-	○17-1	●6-24	●0-9	○25-10	●0-19	2	3	17.23	4
名古屋商	●1-17	-	●1-13	●11-18	●4-21	●0-11	0	5	27.33	6
岐阜聖徳	○24-6	○13-1	-	○12-4	○13-3	△3-3	4	1 0	3.40	2
日本福祉	○9-0	○18-11	●4-12	-	○18-11	●3-16	3	2	10.61	3
中部	●10-25	○21-4	●3-13	●11-18	-	●0-3	1	4	24.23	5
南山	○19-0	○11-0	△3-3	○16-3	○3-0	-	4	1 0	1.20	1

※1~2位はリーグ戦規定の失点率による。

三部リーグ戦

チーム	愛知教育	名城	東海学園	愛知教育	名城	東海学園	勝	敗	失点率	順
愛知教育	-	●3-6	○7-0	-	○9-8	○7-0	3	1	7.00	2
名城	○6-3	-	○7-0	●8-9	-	○7-0	3	1	6.00	1
東海学園	●0-7	●0-7	-	●0-7	●0-7	-	0	4	-	3

※1~2位はリーグ戦規定の失点率による。

一部×二部入れ替え戦

常葉学園大(5位)7-6 岐阜聖徳学園大(2位)

※常葉学園大・岐阜聖徳学園大ともに原部残留

愛知学院大(6位)12-5 日本福祉大(1位)

※愛知学院大・日本福祉大ともに原部残留

二部×三部入れ替え戦

名古屋商科大(6位)0-12 名城大(1位)

※名古屋商科大三部降格・名城大二部昇格

代表

第9回東海地域大学ソフトボール選手権大会(第46回インカレ最終予選) :

中京学院大・中京大・愛知大・愛知学院大・常葉学園大・名古屋大・南山大・岐阜聖徳学園大

第43回西日本大学ソフトボール選手権大会 :

中京学院大・中京大・愛知大・愛知学院大・常葉学園大・名古屋大・南山大

個人表彰選手

最優秀選手賞:川原 光(中京学院大学)

一部首位打者賞:見崎 史拓(名古屋大学)

記録6割1分5厘

一部打点賞:細井 勇希(名古屋大学)

記録9

本塁打点賞:該当者なし

盗塁賞:該当者なし

一部最優秀防御率賞:片岡 涼(中京学院大学)

記録0.29

二部優秀選手賞:向井 将吾(南山大学)

二部首位打者賞:渡邊 康平(岐阜聖徳大)

記録7割8分6厘

二部最優秀防御率賞:向井 将吾(南山大学)

記録1.56

三部優秀選手賞:石井 雅大(名城大学)

三部首位打者賞:戸松 孝文(愛知教育大学)

記録6割2分5厘

三部最優秀防御率賞:長尾 希望(愛知教育大学)

橋口 拓歩(名城大学)

記録4.00

ベストスコアラー賞:小保方咲百(常葉学園大学)

ベスト放送員賞:寺田 匠吾(常葉学園大学)

ベストナイン

- 投手 深津 悠平 (中京大学 3年)
- 捕手 和田 隆太 (中京大学 3年)
- 一塁手: 小池 昌弘 (中京大学 4年)
- 二塁手: 池見 郁哉 (中京学院大学 4年)
- 三塁手: 大井 英幸 (中京学院大学 4年)
- 遊撃手: 細井 勇希 (名古屋大学 3年)
- 外野手: 川原 光 (中京学院大学 4年)
- 外野手: 平岩 裕基 (中京大学 2年)
- 外野手: 原 路塁 (常葉学園大学 3年)
- D P F P : 林 俊輔 (愛知大学 4年)

講評 今季のリーグ戦は、会場確保の関係から4月28日にスタートし5月6日まで(一日雨のため順延)の6日間という長丁場の大会となった。役員、審判および関係各位にはかなりご迷惑をおかけした大会となった。この場をお借りして深謝いたします。

さて、一部リーグ戦は秋季リーグ戦同様、昨年度インカレ優勝の中京学院大学と同3位だった中京大学が最終節での全勝対決の決戦となった。結

果は、追いつ追われつの展開となり、中京学院大学が6対5で勝利し、2季連続10回目のリーグ戦チャンピオンに輝いた。リーグ戦を通して、この2チームの投手力が他の4チームを寄せ付けない結果になったことは間違いない。

二部リーグ戦においては、南山大学と岐阜聖徳学園大学が4勝1分で並び失点率で南山大学の優勝となった。この2チームが頭一つ抜け出している感があったが、ノーガードの打ち合いの様相はぬぐえなかった。やはり、一部リーグ同様、各チームとも投手力の弱さが試合を組み立てられない要因であろう。三部リーグ戦は、前季に健闘した愛知みずほ大学の脱退、大同大学と朝日大学の当初からの棄権、さらには東海学園大学の初戦からの出場辞退という寂しい結果になり、愛知教育大学と名城大学の2校で2回戦うことになった。両チーム1勝1敗であったが、失点率で名城大学が上回り、三部優勝チームとなった。

最後に、入れ替え戦の結果、一部・二部は入れ替えがなく、二部・三部は名城大が昇格となった。(東海学連副会長 山本 英弘)

東海テレビ杯 平成24年度春季第59回 東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦

- 一兼、第47回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選一
- 一兼、第44回西日本大学ソフトボール選手権大会予選一

会期：平成24年4月29・30日、5月4・5日

会場：愛知県幸田町／とぼね運動場・深溝運動場

一部リーグ戦

チーム	東海学園	中 京	鈴鹿国際	東海学院	日本福祉	至 学 館	勝分敗	失点率	順
東海学園	-	△ 2 - 2	○ 9 - 3	○ 6 - 0	○ 10 - 1	○ 8 - 0	4 1 0	1.36	1
中 京	△ 2 - 2	-	○ 3 - 2	○ 11 - 0	△ 0 - 0	○ 12 - 1	3 2 0	0.92	2
鈴鹿国際	● 3 - 9	● 2 - 3	-	○ 7 - 0	○ 4 - 3	○ 12 - 0	3 2	3.00	3
東海学院	● 0 - 6	● 0 - 11	● 0 - 7	-	● 2 - 3	○ 6 - 3	1 4	8.08	5
日本福祉	● 1 - 10	△ 0 - 0	● 3 - 4	○ 3 - 2	-	● 0 - 8	1 1 3	4.99	4
至 学 館	● 0 - 8	● 1 - 12	● 0 - 12	● 3 - 6	○ 8 - 0	-	1 4	10.23	6

※5～6位はリーグ戦規定の失点率による。

二部リーグ戦

チーム	中京学院	愛知教育	名古屋	岐阜聖徳	岐阜経済	常葉学園	静岡	勝敗	順
中京学院	○15-1	○10-0	○5-2	●2-9	*	*	*	3-1	2
愛知教育	●1-15	○8-2	○5-1	*	●1-8	*	*	2-2	4
名古屋	●0-10	●2-8	●2-6	*	*	*	*	0-3	7
岐阜聖徳	●2-5	●1-5	○6-2	*	*	●5-8	*	1-3	6
岐阜経済	○9-2	*	*	*	○8-1	○12-0	*	3-0	1
常葉学園	*	○8-1	*	*	●1-8	○19-0	*	2-1	3
静岡	*	*	*	○8-5	●0-12	●0-19	*	1-2	5

※斜線のある欄は予選リーグ戦で、斜線のない欄は順位決定戦である。

一部×二部入れ替え戦

至学館大学(6位) 2-3 岐阜経済大学(1位)
 ※至学館大学二部降格、岐阜経済大一部昇格
 東海学院大学(5位) 3-6 中京学院大学(2位)
 ※東海学院大二部降格、岐阜経済大学一部昇格

二部首位打者賞：新美 天理 (岐阜経済大)
 記録10割0分0厘
 二部最優秀防御率賞：小崎 愛美 (岐阜経済大)
 記録0.78

代表

第8回東海地域大学ソフトボール選手権大会(第47回インカレ最終予選)：
 東海学園大学・中京大学・鈴鹿国際大学・
 日本福祉大学・岐阜経済大学・中京学院大学・
 東海学院大学・至学館大学
 第44回西日本大学ソフトボール選手権大会：
 東海学園大学・中京大学・鈴鹿国際大学・
 日本福祉大学・岐阜経済大学・中京学院大学

ベストスコアラー賞：杉田 華奈 (鈴鹿国際大)
 ベスト放送員賞：後藤菜緒子 (東海学園大)
 ベストナイン

投手 長谷川朋子 (中京大学 3年)
 捕手 久保亜希美 (東海学園大学4年)
 一塁手：河田 有加 (鈴鹿国際大学4年)
 二塁手：臼田 理穂 (至学館大学 3年)
 三塁手：山本 紋子 (中京大学 3年)
 遊撃手：小俣みずき (東海学院大学2年)
 外野手：塚本 智名 (中京大学 2年)
 外野手：吉田 沙織 (東海学園大学4年)
 外野手：長谷川千尋 (鈴鹿国際大学3年)
 DPF P：平松 美妃 (東海学園大学3年)

個人表彰選手

最優秀選手賞：吉田 沙織 (東海学園大)
 一部首位打者賞：塚本 智名 (中京大)
 記録6割8分7厘
 一部打点賞：古海 香穂 (東海学園大)
 記録11
 本塁打点賞：該当者なし
 盗塁賞：該当者なし
 一部最優秀防御率賞：長谷川朋子 (中京大)
 記録0.84
 二部優秀選手賞：新美 天理 (岐阜経済大)

講評

春季59回リーグ戦は、雨天のため1日順延されたが、5月5日に無事4日間の日程を終了した。大会の運営にご尽力いただきました愛知県協会、同西三河支部の皆さんに感謝申し上げます。
 今リーグ戦は、3連覇を目指す東海学園大学、昨年のインカレ準優勝の鈴鹿国際大学、全国屈指の左投手である長谷川投手を擁する中京大学の3強の優勝争いと、この3強に他のチームがどのよ

うに食い込んでくるかが注目されていた。

早くも大会2日目に日本福祉大学が中京大学に0-0のまま延長戦に持ち込み、そのまま引き分けた。日本福祉大学は3強を崩すことはできずに4位に終わったが、鈴鹿国際大学には1点差の惜敗であり、3強を十分脅かす戦いを展開した。

優勝争いは、鈴鹿国際大学を延長で下し3勝1分の中京大学と、順調に全勝を守ってきた東海学園大学との最終戦に持ち込まれた。この最終戦では両者譲らず、2-2の引き分けとなり、東海学園大学が4勝1分で3季連続の優勝を飾った。東海学園大学はチーム打率が.333（6チーム中1位）、防御率は1.43（6チーム中2位）であり、投打にバランスが取れたチームであった。

本リーグ戦では15試合で本塁打14本（東海学園大学、中京大学、鈴鹿国際大学がともに4本、東海学院大学と至学館大学が1本）飛び出した。また、チーム打率では東海学園大学と鈴鹿国際大学が共に3割を超え、今回のリーグ戦の特徴として各チームの打力が非常に向上していたことが挙げられる。試合でもバットの芯を捕らえた強い打球

が外野に飛ぶことが多く、守備が良くても防ぐことができないようなヒットを打たれ、失点を重ねるという場面を多く目にした。

4月の選考会で6月に韓国で行われる東アジアカップに東海地区から3名の選手が選出されていた。塚本智名中堅手（中京大）が首位打者に輝いたのを初め、塚本選手に加え、長谷川朋子投手（中京大）、長谷川千尋中堅手の3名ともベストナインに選出されたのは見事であった。

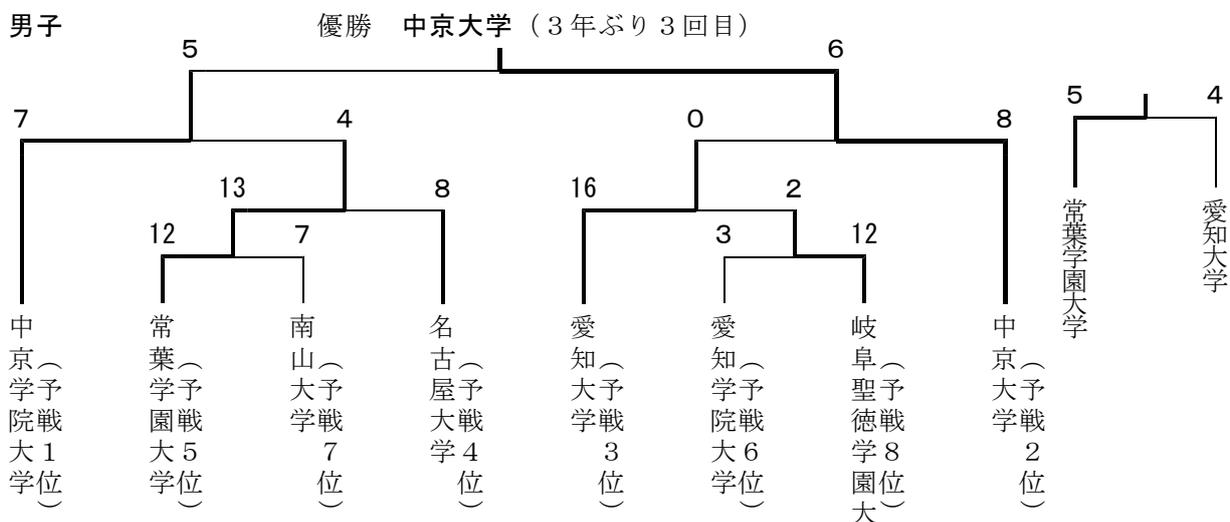
二部では岐阜経済大学が圧倒的な強さで優勝を手にした。特に新美天理内野手は打率10割という完璧な成績で首位打者賞と優秀選手賞に輝いた。入れ替え戦では岐阜経済大学が一部6位の至学館大学を、二部準優勝の中京学院大学が一部5位の東海学院大学を倒し、共に一部昇格を果たした。一部二部制設立以降では中京大学と東海学院大学の2チームだけが1部を死守していたが、これで二部の経験がないのは中京大学のみとなった。今後も実力接近の中、優勝争いと共に一部二部の入れ替えも熾烈になっていくものと思う。（東海学連理事長 矢澤久史）

第9回 東海地域大学男女ソフトボール選手権大会

—兼、第47回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会東海地区最終予選会—

会期 平成24年5月19日(土)、20日(日)

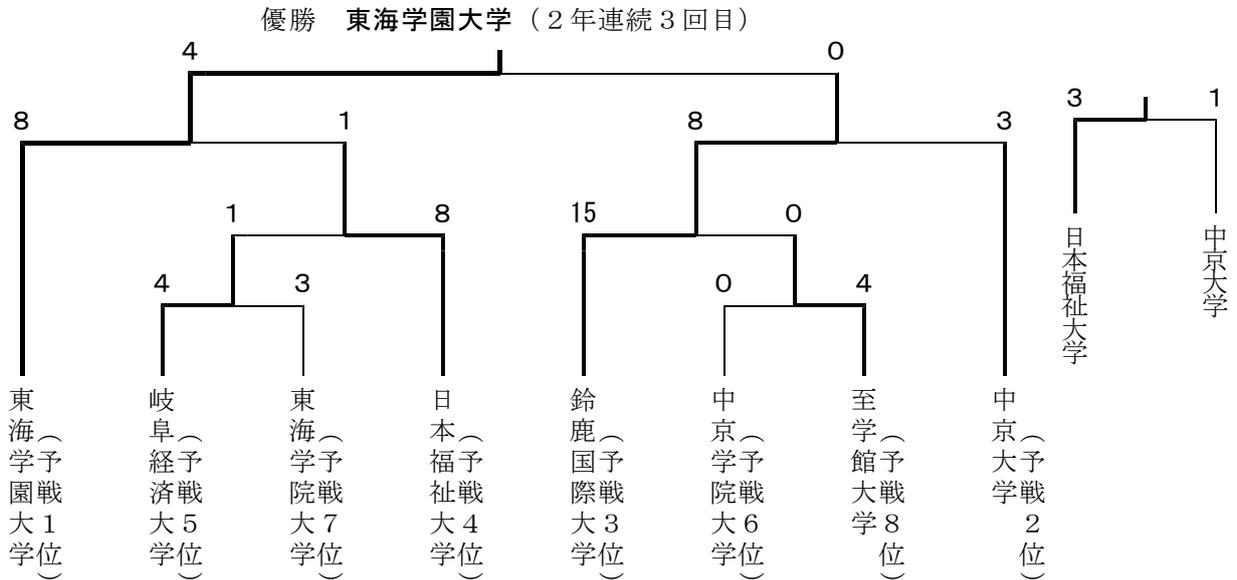
会場 豊橋市／豊橋市営球場・東田球場・石巻運動広場



第47回全日本大学選手権大会代表権獲得チーム

中京大学（5年連続42回目） ・ 常葉学園大学（4年ぶり15回目）
 中京学院大学（8年連続9回目） 愛知大学（2年連続20回目）

女子



第47回全日本大学選手権大会代表権獲得チーム

東海学園大学（5年連続11回目） 日本福祉大学（初）
 鈴鹿国際大学（4年連続4回目） 中京大学（28年連続37回目）

東海テレビ杯 平成23年度秋季第71回 東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

会期：平成24年10月13・14・20・21・27日

会場：愛知県岡崎市／岡崎中央総合公園球技場 他

一部リーグ戦

チーム	中京学院	中 京	愛 知	名 古 屋	常葉学園	愛知学院	勝	分	敗	順 位
中京学院	-	● 1 - 8	○ 12 - 3	○ 14 - 2	○ 10 - 5	○ 7 - 0	4	0	1	2位
中 京	○ 8 - 1	-	○ 12 - 1	○ 9 - 7	○ 9 - 0	○ 7 - 0	5	0	0	優勝
愛 知	● 3 - 12	● 1 - 12	-	○ 11 - 4	● 2 - 9	○ 4 - 0	2	0	3	3位
名 古 屋	● 2 - 14	● 7 - 9	● 4 - 11	-	○ 9 - 8	● 5 - 14	1	0	4	5位
常葉学園	● 5 - 10	● 0 - 9	○ 9 - 2	● 8 - 9	-	● 2 - 9	1	0	4	6位
愛知学院	● 0 - 7	● 0 - 7	● 0 - 4	○ 14 - 5	○ 9 - 2	-	2	0	3	4位

※3～4位、5～6位は直接対戦の結果による。

二部リーグ戦

チーム	南 山	岐阜聖徳	日本福祉	静 岡	中 部	名 城	勝	分	敗	順位
南 山		● 2 - 3	○ 17 - 0	● 6 - 7	○ 17 - 1	○ 9 - 2	3	0	2	2位
岐阜聖徳	○ 3 - 2		○ 12 - 2	○ 17 - 9	○ 15 - 0	○ 8 - 5	5	0	0	1位
日本福祉	● 0 - 17	● 2 - 12		● 9 - 11	○ 16 - 6	● 1 - 9	1	0	4	5位
静 岡	○ 7 - 6	● 9 - 17	○ 11 - 9		● 8 - 9	● 6 - 9	2	0	3	4位
中 部	● 1 - 17	● 0 - 15	● 6 - 16	○ 9 - 8		● 6 - 15	1	0	4	6位
名 城	● 2 - 9	● 5 - 8	○ 9 - 1	○ 9 - 6	○ 15 - 6		3	0	2	3位

※2～3位、5～6位は直接対戦の結果による。

三部リーグ戦

チーム	名古屋商	愛知教育	東海学園	名古屋商	愛知教育	東海学園	勝	分	敗	順位
名古屋商		● 0 - 11	○ 14 - 9		● 6 - 16	● 9 - 13	1	0	3	2位
愛知教育	○ 11 - 0		○ 20 - 1	○ 16 - 6		○ 18 - 6	4	0	0	1位
東海学園	● 9 - 14	● 1 - 20		○ 13 - 9	● 6 - 18		1	0	3	3位

※2～3位は当該チーム間の失点率による。

一・二部入れ替え戦

名古屋大学(一部5位) 0 - 8 南山大学(二部2位) ※名古屋大は二部降格、南山大は一部昇格
 常葉学園大学(一部6位) 14 - 10 岐阜聖徳学園大学(二部一位) ※両大学とも現部に残留

二・三部入れ替え戦

中部大学(二部6位) 13 - 19 愛知教育大学(三部1位) ※愛知教育大は二部昇格、中部大は三部降格

個人表彰選手

最優秀選手賞：伊藤 慈太(中京大学)

一部首位打者賞：細井 勇希(名古屋大学)

一部打点賞：伊藤 慈太(中京大学)

本塁打賞：細井 勇希(名古屋大学)

盗塁賞：該当者なし

一部最優秀防御率賞：深津 悠平(中京大学)

二部優秀選手賞：奥村 彰秀(聖徳学園大学)

二部首位打者賞：猪之鼻隼仁(南山大学)

二部最優秀防御率賞：向井 将吾(南山大学)

三部優秀選手賞：間瀬 未来(愛知教育大学)

三部首位打者賞：杉浦 力(愛知教育大学)

三部最優秀防御率賞：長尾 希望(愛知教育大学)

ベストスコアラー賞：館林 亮輝(名古屋大学)

ベスト放送員賞：寺林 知祥(聖徳学園大学)

ベストナイン

投手：深津 悠平(中京大学)

捕手：園田 智幸(中京学院大学)

一塁手：鈴木 友也(中京大学)

二塁手：齋藤 杏介(名古屋大学)

三塁手：立石 雄二(中京学院大学)

遊撃手：宮崎 諒(愛知大学)

外野手：平岩 裕基(中京大学)

外野手：山下 治(中京学院大学)

外野手：江崎 良（中京学院大学）
 D P F P：藤田 将和（愛知学院大学）

講評 本リーグ戦は、開会直前に日程の変更があり、変則5日間という長い戦いになったが、岡崎協会の万全の開催態勢と好天に恵まれ、無事終了することができました。同協会をはじめ、愛知県協会と西三河支部に対しまずもって衷心から感謝申し上げます。

一部リーグ戦は、中京大学と中京学院大学の2強に対して他の4チームが如何に挑むかが注目されていたが、深津(中京大)・片岡(中院大)両投手の前に打線が沈黙し、両チームの独走を許してしまった。第3日終了時点で、2チームは4勝、他の4チームいずれも1勝3敗という2強4弱の呈を示した。順位がかかる最終日は、3試合とも打線が爆発した打力に勝るチームが大量点を挙げて試合を決めたが、逆に言えば、投手力の弱さが順位を決めたことにもなる。ソフトボールは守り勝負ゲームであることを示したリーグ戦であった。

二部リーグ戦は、例によって全敗チームのない混戦となったが、投打にバランスの取れた岐阜聖徳学園大学がひとつずつ勝利を積み上げて全勝で優勝した。二桁得点の大味な試合が多いリーグ戦

の展開であり、ここでも投手力の差が試合を決めることが多かった。

三部リーグ戦は、3チームによる2回戦のリーグ戦であったが、愛知教育大学が他をまったく寄せ付けず、全勝で優勝した。

入れ替え戦では、3試合中2試合で入れ替えになる結果となり、力の差がなくなって一部と二部、二部と三部が拮抗してきたように思われる。

ところで、リーグ戦の試合以外で気になることがある。それは、スコアカードへの記入である。今回ベストスコアラー賞を獲得した館林亮輝君の記入したスコアカード以外、正しく集計されていたスコアカードは全くなかった。監督会議で指摘したように、記録員の仕事はスコアカードのボックスの記録を着けるだけでなく、それをすべて集計して戦評を記入するところまでである。特に、記録の集計が間違っていると、ひとつひとつの記録をいちいち再集計しなければ記録集計ソフト「Windmill」への入力ができなくなり、主管校に多大の迷惑をかけることになる。主管校を経験すれば誰でも感じることなので、これを繰り返さないように今後は記録の集計を徹底し、間違いのないスコアカードを作成できるよう努力してもらいたい。（事務局長 水谷 博）

東海テレビ杯 平成24年度秋季第60回 東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦

会期：平成24年9月29日、10月13・14日、12月8日

会場：愛知県高浜市／碧海グラウンド・流作グラウンド

一部リーグ戦

チーム	東海学園	中 京	鈴鹿国際	日本福祉	岐阜経済	中京学院	勝	分	敗	順 位
東海学園	△ 3 - 3	● 0 - 3	○ 12 - 2	○ 7 - 2	○ 4 - 2	3	1	1	3位	
中 京	△ 3 - 3	○ 2 - 0	● 3 - 4	○ 3 - 0	○ 7 - 0	3	1	1	2位	
鈴鹿国際	○ 3 - 0	● 0 - 2	○ 9 - 4	○ 5 - 2	○ 14 - 2	4	0	1	優勝	
日本福祉	● 2 - 12	○ 4 - 3	● 4 - 9	● 3 - 4	○ 6 - 4	2	0	3	4位	
岐阜経済	● 2 - 7	● 0 - 3	● 2 - 5	○ 4 - 3	● 1 - 8	1	0	4	6位	
中京学院	● 2 - 4	● 0 - 7	● 2 - 14	● 4 - 6	○ 8 - 1	1	0	4	5位	

※2～3位は失点率、5～6位は直接対戦の結果による。

二部リーグ戦

チーム	東海学院	愛知教育	静岡	岡	名古屋	至学館	常葉学園	岐阜聖徳	順位
東海学院	—	○3-0	○12-0	○14-3	●6-7	*	*	*	2位
愛知教育	●0-3	—	○8-1	○9-0	*	●1-10	*	*	4位
静岡	●0-12	●1-8	—	○10-3	*	*	*	*	7位
名古屋	●3-14	●0-9	●3-10	—	*	*	●1-14	*	6位
至学館	○7-6	*	*	*	—	○8-2	△6-6	*	1位
常葉学園	*	○10-1	*	*	●2-8	—	○8-1	*	3位
岐阜聖徳	*	*	*	○14-1	△6-6	●1-8	—	*	5位

※斜線のある欄は予選リーグ戦で、斜線のない欄は順位決定戦である。
 ※静岡大学は順位決定戦を棄権したため最下位となった。

一・二部入れ替え戦

中京学院大学(一部5位) 5-13 東海学院大学(二部2位) ※東院大は一部昇格、中院大は二部降格
 岐阜経済大学(一部6位) 6-7 至学館大学(二部1位) ※学館大は一部昇格、岐経大は二部降格

個人表彰選手

最優秀選手賞：三井 綺野 (鈴鹿国際大)
 一部首位打者賞：石川 千夏 (東海学園大)
 長谷川千尋 (鈴鹿国際大)

記録5割7分1厘

一部打点賞：西井 春菜 (鈴鹿国際大)
 記録10

本塁打点賞：該当者なし

盗塁賞：該当者なし

一部最優秀防御率賞：三井 綺野 (鈴鹿国際大)
 記録0.94

二部優秀選手賞：田中 裕子 (至学館大)

二部首位打者賞：増田 似奈 (常葉学園大)
 記録6割2分5厘

二部最優秀防御率賞：長瀬 篤美 (岐阜聖徳大)
 記録1.31

ベストスコアラー賞：笹岡 雅 (日本福祉大)

ベスト放送員賞：山下 茜 (岐阜経済大)

ベストナイン

投手 長谷川朋子 (中京大学 3年)

捕手 西井 春菜 (鈴鹿国際大学1年)

一塁手：河野よしみ (東海学園大学3年)

二塁手：石川 千夏 (東海学園大学1年)

三塁手：相場 美穂 (鈴鹿国際大学3年)

遊撃手：高橋 利那 (鈴鹿国際大学1年)

外野手：浦田 栞里 (日本福祉大学1年)

外野手：長谷川千尋 (鈴鹿国際大学3年)

外野手：長谷 瑞希 (中京大学 1年)

D P F P：下馬 望実 (中京大学 2年)

講評

9月29日から始まった第60回の今リーグ戦は、予備日を含む三日間を悪天候のため順延とし、12月8日を最終日とした4ヶ月に及ぶ長期間の戦いとなった。そのような状況にも関わらず、愛知県高浜市連盟の皆様のご尽力により、無事全日程が終了したことに感謝申し上げます。

今回のリーグ戦では、近年3強と呼ばれる鈴鹿国際大、中京大、東海学園大の優勝争いに加えて、今年のインカレに初出場、初勝利を飾った日本福祉大、そして昨春リーグで二部から昇格してきた岐阜経済大、中京学院大がどこまで食い込むかが注目された。

初日は、鈴鹿国際大、東海学園大ともに危なげ

なく勝ち進み実力を見せつけた。しかし、3強の一角である中京大は日本福祉大戦で3点をリードしながら、6回裏に逆転満塁ホームランをあげそのまま敗戦、黒星スタートとなった。その後、中京大は奮起し、鈴鹿国際大戦も含めて、3試合連続で完封試合を続けた。一方、鈴鹿国際大は中京大戦で敗戦を喫したものの、全勝で首位を走る東海学園大戦では3対0の完封勝ちを収め1敗をキープ、これにより3強が共に1敗で並び、最終日を迎えることとなった。最終日、第2試合で鈴鹿国際大が日本福祉大に逆転で勝利し1敗を死守、最終戦の中京大と東海学園大戦に優勝争いが持ち越された。最終戦では、東海学園大が先制するも中京大が逆転、一進一退の攻防が繰り広げられた。東海学園大は1点ビハインドの最終回に先頭打者の内野安打を足がかりに1点をもぎ取り同点とした。残念ながらその回で時間切れとなり、勝敗はつかず引き分けとなった。これにより、中京大、東海学園大の2チームが3勝1敗1分けとなり、4勝をあげた鈴鹿国際大の3期ぶり2回目の優勝が決まった。優勝した鈴鹿国際大からはベストナインが4名選出された。また最優秀選手賞と最優秀防御率0.94を記録した三井綺野の安定感抜群の投球と4番を努めた西井春菜の10打点の勝負強さは特筆される。下位3大学でも入れ替え戦のない4位を狙う熱戦が繰り広げられた。3日目、負ければ5位以下が決まる岐阜経済大は日本福祉大との戦い。岐阜経済大は再三のピンチを守りき

り4対3の接戦に勝利した。最終日、岐阜経済大はここまで白星のない中京学院大の長打攻勢を浴び8失点、1対8のワールドゲームで敗戦し最下位、それと同時に日本福祉大の4位が確定した。勝った中京学院大は5位となり、岐阜経済大との2大学が入れ替え戦となった。二部では、昨春リーグで降格した至学館大と東海学院大が勝ち上がり、入れ替え戦へと進んだ。入れ替え戦では二部から勝ち上がった2大学がとも勝利、一季での一部返り咲を果たした。

4ヶ月に及ぶ今リーグ戦では、体調やメンタル面での調整が難しかったように思われた。また12月8日の最終日は低温の上、強風が吹き、一部の3試合と入れ替え戦の1試合が行われた碧海グラウンドでは11本のホームラン(4試合)が出るなど長打が目立ち、投手にとっては恵まれない天候であったように思う。試合結果を改めてみると、上位3大学はともに1敗、また下位3大学でも全敗はなく、ワールドゲームも4試合と少数で実力が拮抗したリーグ戦であったと言える。残念ながら二部に降格した2大学も非常に自力をつけており、リーグ全体の底上げを感じさせる大会であった。次回第61回の春期リーグ戦では、一部が総当たり2試合ずつを行う新規リーグ戦が開催される。これにより益々、東海地区大学ソフトボール全体の活性化が見込まれ、来季の西日本インカレ、全日本インカレでの活躍が期待される。(副理事長 二瓶雄樹)

ネット裏 今年のインカレが開催された埼玉県ソフトボール協会には、他の協会にはない「競技部」という組織があった。競技部が担当するのは、球場の整備やライン引きなどである。選手はもちろん、審判員や記録員にグラウンド整備を担当させることなく、彼等が試合に専念できるよう煩わしい「雑務」を一手に引き受けている。その仕事ぶりは半端ではなかった。ラインはあくまでもまっすぐに、グラウンドはどこも平坦に、ベースは常に真っ白に、気合いを入れて作業をこなしていた。いつものインカレでは、試合終了後は両チームから選手が出てグラウンド整備を行っていたが、今年はそれがなかったのである。選手たちのやっつけ仕事ではない心のこもった仕事ぶり(それが生き甲斐のようにさえ感じられた。)に、手出しはもちろん口を挟むことさえ許されなかった。こういう人たちがいてこそ大会は盛り上がるのである。感謝

【近畿地区】平成24年度 第44回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：平成24年 4月7・8・15・21・28・29・30日、5月3・4・5・6日

会場：大阪府吹田市／万博公園スポーツ広場

1部リーグ戦

チーム	同志社	四天王寺	神戸学院	京都産業	立命館	大阪	勝	分	敗	順位
同志社	-	○7-4	●0-3	●1-3	○9-3	●3-14	2	0	3	4位
四天王寺	●4-7	-	●0-4	●0-5	△1-1	○5-1	1	1	3	5位
神戸学院	○3-0	○4-0	-	○3-2	○5-2	●0-4	4	0	1	優勝
京都産業	○3-1	○5-0	●2-3	-	○10-2	○5-3	4	0	1	2位
立命館	●3-9	△1-1	●2-5	●2-10	-	○7-0	1	1	3	6位
大阪	○3-14	●1-5	○4-0	●3-5	●0-7	-	2	0	3	3位

※1～2位・3～4位は当該チーム間勝ち点規定、5～6位は得失点差規定により決定
 ※神戸学院大学は2季連続7度目の優勝！立命館大学は2部に自動降格

2部リーグ戦

A	関西	近畿	龍谷	兵庫教育	佛教	勝	分	敗	点	順位
関西	-	○13-1	○6-3	○4-3	○19-3	4	0	0	12	1位
近畿	●1-13	-	●0-10	●6-13	●2-11	0	0	4	0	5位
龍谷	●3-6	○10-0	-	○4-3	○5-0	3	0	1	9	2位
兵庫教育	●3-4	○13-6	●3-4	-	○8-6	2	0	2	6	3位
佛教	●3-19	○11-2	●0-5	●6-8	-	1	0	3	3	4位

B	大阪体育	大阪府立	京都	大阪市立	神戸	勝	分	敗	点	順位
大阪体育	-	○17-5	○6-2	○14-1	○8-7	4	0	0	12	1位
大阪府立	●5-17	-	●5-13	○12-0	●1-3	1	0	3	3	4位
京都	●2-6	○13-5	-	○6-4	○8-5	3	0	1	9	2位
大阪市立	●1-14	●0-12	●4-6	-	●2-6	0	0	4	0	5位
神戸	●7-8	○3-1	●5-8	○6-2	-	2	0	2	6	3位

◎2部ブロック決勝 関西大学10-0大阪体育大学 ☆関西大学は1部に自動昇格

◎2部最下位決定戦 近畿大学6-4大阪市立大学 ★大阪市立大学は3部に自動降格

3部リーグ戦

A	和歌山	関西学院	流通科学	京都学園	奈良教育	勝	分	敗	点	順位
和歌山	-	● 1-11	● 7-20	● 11-19	● 1-17	0	0	4	0	5位
関西学院	○ 11-1	-	● 4-7	△ 8-8	○ 5-0	2	1	1	7	3位
流通科学	○ 20-7	○ 7-4	-	△ 6-6	● 3-5	2	1	1	7	2位
京都学園	○ 19-11	△ 8-8	△ 6-6	-	○ 13-4	2	2	0	8	1位
奈良教育	○ 17-1	● 0-5	○ 5-3	● 4-13	-	2	0	2	6	4位

※2～3位は当該チーム間勝ち点規定より決定

B	大阪工業	大阪経済	大阪産業	甲南	勝	分	敗	点	順位
大阪工業	-	● 0-9	○ 11-5	● 10-12	1	0	2	3	3位
大阪経済	○ 9-0	-	○ 9-5	○ 5-4	3	0	0	9	1位
大阪産業	● 5-11	● 5-9	-	● 1-12	0	0	3	0	4位
甲南	○ 12-10	● 4-5	○ 12-1	-	2	0	1	6	2位

◎3部ブロック決勝 京都学園大学6-7大阪経済大学 ☆大阪経済大学は2部に自動昇格

◎入れ替え戦

1部・2部 四天王寺大学7-1大阪体育大学 ☆両大学とも原部残留

2部・3部 近畿大学7-9京都学園大学 ☆京都学園大学は2部昇格 ★近畿大学は3部降格

◇西日本インカレ出場チーム（リーグ戦結果の上位10大学）

神戸学院大学、京都産業大学、大阪大学、同志社大学、四天王寺大学、立命館大学、関西大学、大阪体育大学、龍谷大学、京都大学

◇全日本インカレ出場チーム（6大学）

神戸学院大学、京都産業大学、四天王寺大学、関西大学、龍谷大学、京都大学

【総評】 今季の1部は大混戦となった。最終結果をみれば分かるように、優勝と準優勝、3位と4位、さらには5位と6位の勝ち点と同じになり、直接対決もしくは得失点差という僅差になっている。その中で、神戸学院大学は、台風の目となった大阪大学に敗れて全勝優勝を逃したものの2季連続優勝を飾った。走攻守にバランスのとれた熟成されたチームになってきている。インカレでも大いに活躍してほしい。また、立命館大学が最下位となり2部自動降格という信じられない事態になった（おそらく初めての降格であろう）。

一方、2部は関西大学と大阪体育大学が全勝で

ブロックを制し、ブロック決勝では関西大学が念願の1部復帰を果たした。ただ、2部上位チームの力の差はほとんどなく次回以降、他のチームの奮起に期待したい。

3部Aブロックは混戦となったが勝ち点1差で京都学園大学が、またBブロックでは大阪経済大学が甲南大学との接戦を制して、ブロック決勝にコマを進めた。ブロック決勝では、大阪経済大学がまたまた1点差で京都学園大学を下し、2部昇格を果たした。京都学園大学は、その後の2部との入れ替え戦では雪辱を果たして、続いて2部昇格となった。

全体を振り返ってみると、ここ数年シーズン、1部と2部、2部と3部の入れ替わりが頻繁となっている。つまり、上位リーグと下位リーグの差が詰まってきていることは明らかであり、1つのプレイが勝敗の分かれ目となっている。その意味で

は、この後に行われる、西日本インカレや全日本インカレでも1つ1つのプレイを大事にして、効率的な得点と少ないミスを心がけて、関西代表として頑張ってもらいたい。（理事長 森田啓之）

平成24年度 第44回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成24年4月7・8・14・15・27・28日、5月3・4日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・四天王寺大学・摂南大学

1部リーグ戦成績

チーム	立命館	武庫川	大阪国際	園田学園	大阪大谷	神戸親和	天理	龍谷
立命館	-	○5-1	○2-1	○1-0	●0-2	●1-6	●1-4	○7-3
武庫川	●1-5	-	○7-0	●0-1	●0-1	○5-2	○3-2	●8-11
大阪国際	●1-2	●0-7	-	●1-4	●5-8	●4-5	○7-0	●0-1
園田学園	●0-1	○1-0	○4-1	-	○7-2	○12-6	○4-2	○9-0
大阪大谷	○2-0	○1-0	○8-5	●2-7	-	○3-2	○5-0	○3-2
神戸親和	○6-1	●2-5	○5-4	●6-12	●2-3	-	●1-2	●2-3
天理	○4-1	●2-3	●0-7	●2-4	●0-5	○2-1	-	●3-7
龍谷	●3-7	○11-8	○1-0	●0-9	●2-3	○3-2	○7-3	-

※1～2位、3～4位、6～7位は、当該チーム間の直接対戦の勝敗による。

1部最終成績

- 優勝 園田学園女子大学（6勝0分1敗）
- 2位 大阪大谷大学（6勝0分1敗）
- 3位 立命館大学（4勝0分3敗）
- 4位 龍谷大学（4勝0分3敗）
- 5位 武庫川女子大学（3勝0分4敗）
- 6位 天理大学（2勝0分5敗）
- 7位 神戸親和女子大学（2勝0分5敗）
- 8位 大阪国際大学（1勝0分6敗）

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	米田あやめ	大阪大谷大学	0.625
2位	胡子路代	園田学園女子大学	0.500
3位	古澤春菜	園田学園女子大学	0.450
4位	川口亜裕美	武庫川女子大学	0.443
5位	本岡有里	園田学園女子大学	0.417
6位	亀井愛梨	園田学園女子大学	0.409
7位	佐野由貴美	神戸親和女子大学	0.400
8位	中川智絵	立命館大学	0.368
9位	高橋安希	神戸親和女子大学	0.357
10位	浅井麻美	神戸親和女子大学	0.350

1部個人表彰

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	泉 礼花	園田学園女子大学	1.22
2位	加藤あずさ	立命館大学	1.82
3位	竹田 有沙	大阪大谷大学	1.90
4位	内海 花菜	武庫川女子大学	1.92
5位	笹山 彩夏	神戸親和女子大学	2.59

林 舞美	大阪大谷大学	内野手
山澤 葵	立命館大学	捕 手
越川 さつき	龍谷大学	外野手
内海 花菜	武庫川女子大学	投 手
佐藤亜紀子	天理大学	捕 手
末方 悠加	神戸親和女子大学	外野手
西奥間沙紀	大阪国際大学	投 手

盗塁賞：川村可奈子 園田学園女子大学

ベストプレー賞

記録4

氏名	大学	守備位置
泉 礼花	園田学園女子大学	投 手

ホームラン賞：末方 悠加 神戸親和女子大学

記録2

2部リーグ戦対戦成績

チーム	太成学院	大阪体育	びわこ	奈良文化	関 西	兵庫教育	勝	分	敗	順 位
太成学院	-	○6-0	○11-1	●0-1	○8-0	○10-0	4	0	1	2位
大阪体育	●0-6	-	○10-6	●2-4	○5-2	○10-2	3	0	2	3位
びわこ	●1-11	●6-10	-	●0-10	●2-6	○5-1	1	0	4	5位
奈良文化	○1-0	○4-2	○10-0	-	○8-7	○8-0	5	0	3	1位
関 西	●0-8	●2-5	●6-2	●7-8	-	○5-0	1	0	4	4位
兵庫教育	●0-10	●2-10	●1-5	●0-8	●0-5	-	0	0	5	6位

※4～5位は、当該チーム間の直接対戦の勝敗による。

2部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	藤堂 有莉	兵庫教育大学	0.529
2位	宇部きらら	関西大学	0.500
2位	宮原 那奈	関西大学	0.500
4位	灘井 周子	大阪体育大学	0.480
5位	秋山 恵美	奈良文化女子短期大学	0.400
5位	西岡 薫未	びわこ成蹊スポーツ大学	0.400
7位	兵頭なつみ	奈良文化女子短期大学	0.375
8位	高野 香	大阪体育大学	0.364
9位	福池智恵子	大阪体育大学	0.360
10位	加地 佐彩	びわこ成蹊スポーツ大学	0.357

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	山本 夢菜	太成学院大学	1.60
2位	宮脇 実希	奈良文化女子短期大学	2.45
3位	高政 栄里	関西大学	4.40

ベストプレイ賞

氏名	大学	守備位置
宮脇 実希	奈良文化女子短期大学	投 手
山本 夢菜	太成学院大学	投 手
灘井 周子	大阪体育大学	内野手
宇部 きらら	関西大学	外野手
辻本 紗希	びわこ成蹊スポーツ大学	内野手
藤堂 有莉	兵庫教育大学	内野手

盗塁賞：西岡 薫未 びわこ成蹊スポーツ大学・

辻本 紗希 びわこ成蹊スポーツ大学 記録5

3部対戦成績表

チーム	佛 教	同 志 社	四天王寺	京都女子	奈良教育	青 山	大阪府立	撰 南
佛 教		● 3-18	○ 13-10	○ 18-15	○ 18-11	○ 12-3	● 3-13	○ 14-8
同 志 社	○ 18-3		○ 17-2	○ 10-0	○ 14-4	○ 10-0	○ 10-4	○ 7-0
四天王寺	● 10-13	● 2-17		○ 12-2	○ 30-9	○ 13-9	○ 19-16	○ 7-0
京都女子	● 15-18	● 0-10	● 2-12		○ 14-6	● 5-12	● 11-12	○ 7-0
奈良教育	● 11-18	● 4-14	● 9-30	● 6-14		● 6-17	● 2-20	○ 7-0
青 山	● 3-12	● 0-10	● 9-13	○ 12-5	○ 17-6		○ 15-7	○ 11-4
大阪府立	○ 13-3	● 4-10	● 16-19	○ 12-11	○ 20-2	● 7-15		○ 10-1
撰 南	● 8-14	● 0-7	● 0-7	● 0-7	● 0-7	● 4-11	● 1-10	

※2～3位、4～5位は当該チーム間の直接対戦の勝敗による。

3部最終成績

- 優勝 同志社大学 (7勝0分0敗)
- 2位 佛教大学 (5勝0分2敗)
- 3位 四天王寺大学 (5勝0分2敗)
- 4位 大阪府立大学 (4勝0分3敗)
- 5位 大阪青山大学 (4勝0分3敗)
- 6位 京都女子大学 (2勝0分5敗)
- 7位 奈良教育大学 (1勝0分6敗)
- 8位 撰南大学 (0勝0分7敗)

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	西井 沙織	佛教大学	3.04
2位	杉浦亜衣子	同志社大学	4.90
3位	堀尾 遥	京都女子大学	6.71

ベストプレー賞

氏名	大学	守備位置
名古屋由貴	同志社大学	内野手
合田 佳奈	佛教大学	内野手
小杉はるな	四天王寺大学	内野手
井関 玲奈	大阪青山大学	内野手
市川 未来	大阪府立大学	内野手
辻井 昌子	京都女子大学	内野手
伊野 梓	奈良教育大学	内野手
棄権	撰南大学	

3部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	梶尾 沙生	奈良教育大学	0.667
2位	名古屋由貴	同志社大学	0.643
3位	小杉はるな	四天王寺大学	0.611
4位	川渕 優希	四天王寺仏教大学	0.591
5位	杉浦亜衣子	同志社大学	0.588
6位	合田 佳奈	佛教大学	0.571
7位	内田満寿美	同志社大学	0.563
8位	伊野 梓	奈良教育大学	0.545
9位	堀 真弓	同志社大学	0.500
9位	辻井 昌子	京都女子大学	0.500
9位	入田 愛弓	四天王寺仏教大学	0.500

盗塁賞：杉浦亜衣子 同志社大学 記録5



平成24年度 第44回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦 (男子)

会期：平成24年 9月16・17、10月7・8・13・21・27日、11月3・4・10日

会場：大阪府吹田市／万博公園スポーツ広場

1部リーグ戦

チーム	関西	神戸学院	大阪	同志社	京都産業	四天王寺	勝	分	敗	順位
関西	-	○2-1	○5-1	○8-2	●2-4	○3-1	4	0	1	優勝
神戸学院	●1-2	-	○8-0	△2-2	○4-3	○6-3	3	1	1	2位
大阪	●1-5	●0-8	-	●1-7	○3-2	○3-2	2	0	3	5位
同志社	●2-8	△2-2	○7-1	-	●0-7	○5-2	2	1	2	4位
京都産業	○4-2	●3-4	●2-3	○7-0	-	○4-0	3	0	2	3位
四天王寺	●1-3	●3-6	●2-3	●2-5	●0-4	-	0	0	5	6位

☆関西大学は8年ぶりぶり16度目の優勝！

2部リーグ戦

A	立命館	京都	龍谷	大阪経済	京都学園	勝	分	敗	点	順位
立命館	-	○8-7	○8-1	○5-2	○14-1	4	0	0	12	1位
京都	●7-8	-	○7-6	○7-6	○10-7	3	0	1	9	2位
龍谷	●1-8	●6-7	-	●5-11	○13-4	1	0	3	3	4位
大阪経済	●2-5	●6-7	○11-5	-	○10-0	2	0	2	6	3位
京都学園	●1-14	●7-10	●4-13	●0-10	-	0	0	4	0	5位

B	大阪体育	大阪府立	佛教	神戸	兵庫教育	勝	分	敗	点	順位
大阪体育	-	○2-0	○11-2	○7-5	●3-4	3	0	1	9	1位
大阪府立	●0-2	-	○6-4	△1-1	△1-1	1	2	1	5	4位
佛教	●2-11	●4-6	-	●2-11	●3-12	0	0	4	0	5位
神戸	●5-7	△1-1	○11-2	-	△2-2	1	2	1	5	3位
兵庫教育	○4-3	△1-1	○12-3	△2-2	-	2	2	0	8	2位

※3位と4位は該当チーム間勝ち点規定により決定

◎2部ブロック決勝 立命館大学10-9 大阪体育大学 ☆立命館大学は1部に自動昇格

◎2部最下位決定戦 京都学園大学10-4 佛教大学 ★佛教大学は3部に自動降格

3部リーグ戦

A	奈良教育	大阪市立	流通科学	近畿	甲南	勝	分	敗	点	順位
奈良教育	-	○ 8 - 5	● 3 - 12	● 4 - 9	○ 3 - 2	2	0	2	6	3位
大阪市立	● 5 - 8	-	● 2 - 11	● 2 - 7	△ 3 - 3	0	1	3	1	5位
流通科学	○ 12 - 3	○ 11 - 2	-	○ 9 - 1	○ 6 - 4	4	0	0	12	1位
近畿	○ 9 - 4	○ 7 - 2	● 1 - 9	-	○ 6 - 4	3	0	1	9	2位
甲南	● 2 - 3	△ 3 - 3	● 4 - 6	● 4 - 6	-	0	1	3	1	4位

※ 4位と5位は該当チーム間勝ち点規定により決定

B	和歌山	大阪工業	関西学院	大阪産業	勝	分	敗	点	順位
和歌山	-	● 4 - 11	● 0 - 12	● 0 - 10	0	0	3	0	4位
大阪工業	○ 11 - 4	-	○ 4 - 2	○ 9 - 8	3	0	0	9	1位
関西学院	○ 12 - 0	● 2 - 4	-	○ 5 - 3	2	0	1	6	2位
大阪産業	○ 10 - 0	● 8 - 9	● 3 - 5	-	1	0	2	3	3位

◎ 3部ブロック決勝 流通科学大学 9 - 8 大阪工業大学 ☆流通科学大学は2部に自動昇格

◎ 入れ替え戦

1部・2部 大阪大学 2 - 12 大阪体育大学 ☆大阪体育大学は1部昇格、大阪大学は2部降格

2部・3部 京都学園大学 6 - 7 大阪工業大学 ☆大阪工業大学は2部昇格、京都学園大学は3部降格

【総評】 グラウンド事情により夏のインカレが終わって2週間後の開幕。インカレ出場チームは新チームへの移行への不十分さが心配された状態でのスタートだった。

この不安が的中するかのように、1部開幕戦において、リーグ2連覇中、そしてインカレでも準優勝を果たしている神戸学院大学が、2部から昇格してきたばかりの関西大学に接戦で敗れるという波乱の幕開けとなった。これにより、優勝争いは開幕3連勝の京都産業大学が俄然有利となっていたが、残る2試合で連敗し、優勝を逃した。代わって、この京都産業大学に敗れたものの、その後は最後まで接戦をものにしていった関西大学が8年ぶり16回目の優勝となった。また、四天王寺大学と大阪大学がともに2部降格となった。ここ数年シーズン1部にとどまって力を付けていた

けに残念である。奮起を期待したい。

続いて、2部も白熱した試合が多くみられた。Aブロックでは、1部から陥落してきた立命館大学が打力で勝利を重ね、接戦ながらも同じく全勝の京都大学と、最終の全勝対決となった。結果、8 - 7という大接戦で、立命館大学が苦労しながらもブロック優勝を果たした。また、Bブロックでは、星取り表からも明らかなように、引き分けが3試合という大混線となった。当初は初戦の大阪体育大学戦で勝利した兵庫教育大学が優位かと思われたが、最終的には2分けが響き、勝ち点1差で大阪体育大学が優勝となった。

その後の2部優勝決定戦は凄まじい点の取り合いで、タイブレーカーでの決着(10 - 9)となり、立命館大学が勝利し、1部復帰を果たした。一方、大阪体育大学は続く大阪大学との入れ替え

戦で自慢の打線が序盤から爆発し、12-2という圧倒的勝利で、同じく1部昇格を果たした。

3部は、両ブロックとも流通科学大学と大阪工業大学が全勝優勝で、決定戦を迎えた。これも9-8という大接戦であったが、流通科学大学が2部自動昇格を決め、敗れはしたものの大阪工業大学はその後の入れ替え戦で勝利し、続いて2部昇

格を果たした。

全体を通して言えることは、バットの性能が良すぎるのか、それとも投手力が弱いのか、分析に悩むばかりである。ただ、いくつかのチームに新戦力としていきの良い投手が登場しており、来年に向けてやや希望が見えたリーグであった。(理事長 森田啓之)

平成24年度 第44回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦 (女子)

会期：平成24年9月15・16・17・22・29・10月6・7・8・13日

会場：園田学園女子大学・大阪大谷大学・四天王寺大学・大阪体育大学・摂南大学

1部リーグ戦成績

チーム	園田学園	大阪大谷	立命館	武庫川	龍谷	天理	太成学院	奈良文化
園田学園	-	○2-0	○5-0	○2-0	●3-4	○10-0	○4-1	○11-1
大阪大谷	●0-2	-	○4-2	○3-1	○2-1	○4-0	○3-1	○2-1
立命館	●0-5	●2-4	-	●0-1	○2-0	○5-0	○10-0	○3-0
武庫川	●0-2	●1-3	○1-0	-	△2-2	●4-7	○7-0	○4-0
龍谷	○4-3	●1-2	●0-2	△2-2	-	●0-8	●0-3	●0-3
天理	●0-10	●0-4	●0-5	○7-4	○8-0	-	○6-2	○3-0
太成学院	●1-4	●1-3	●0-10	●0-7	○3-0	●2-6	-	○3-1
奈良文化	●1-11	●1-2	●0-3	●0-4	○3-0	●0-3	●1-3	-

※1~2位、3~4位、7~8位は、当該チーム間の直接対戦の勝敗による。

1部最終成績

- 優勝 園田学園女子大学 (6勝0分1敗)
- 2位 大阪大谷大学 (6勝0分1敗)
- 3位 立命館大学 (4勝0分3敗)
- 4位 天理大学 (4勝0分3敗)
- 5位 武庫川女子大学 (3勝1分3敗)
- 6位 太成学院大学 (2勝0分5敗)
- 7位 龍谷大学 (1勝1分5敗)
- 8位 奈良文化女子短期大学 (1勝0分6敗)

1部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	山澤 葵	立命館大学	0.474
1位	川口 藍	武庫川女子大学	0.474
3位	中川なおみ	園田学園女子大学	0.466
4位	知念 千香	園田学園女子大学	0.455
5位	石田 千紘	天理大学	0.429
6位	高橋 愛美	立命館大学	0.400
6位	谷口みなみ	太成学院大学	0.400

8位	米田あやめ	大阪大谷大学	0.391
9位	松永 栞	大阪大谷大学	0.389
10位	佐藤 倫	天理大学	0.381

佐藤亜紀子	天理大学	捕 手
川口 藍	武庫川女子大学	内野手
民岡 真穂	太成学院大学	投 手
宮脇 実希	奈良文化女子短期大学	投 手
始澤 菜摘	龍谷大学	投 手

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
1位	泉 礼花	園田学園女子大学	0.00
2位	竹田 有沙	大阪大谷大学	0.14
3位	加藤あずさ	立命館大学	0.80
4位	内海 花菜	武庫川女子大学	1.49
5位	石田 真子	天理大学	1.91

盗塁賞：亀井 愛梨 園田学園女子大学
 田中 瑠莉 園田学園女子大学
 知念 千香 園田学園女子大学
 服部 愛香 園田学園女子大学
 森下さくら 大阪大谷大学

記録3

ベストプレイ賞

氏 名	大 学	守備位置
胡子 路代	園田学園女子大学	内野手
竹田 有沙	大阪大谷大学	投 手
加藤あずさ	立命館大学	投 手

ホームラン賞：

川口 藍	武庫川女子大学
中川なおみ	園田学園女子大学
佐藤 倫	天理大学

記録3

2部リーグ戦対戦成績

チーム	大阪国際	神戸親和	関 西	大阪体育	兵庫教育	ひょうこ成蹊	勝	分	敗	順 位
大阪国際	● 1 - 6	○ 4 - 0	○ 7 - 1	○ 6 - 0	○ 10 - 0	4	0	1	2位	
神戸親和	○ 6 - 1	● 2 - 3	○ 7 - 0	○ 10 - 0	○ 10 - 0	4	0	1	1位	
関 西	● 0 - 4	○ 3 - 2	● 2 - 5	● 1 - 4	○ 8 - 2	2	0	3	5位	
大阪体育	● 1 - 7	● 0 - 7	○ 5 - 2	○ 5 - 2	○ 10 - 8	3	0	2	3位	
兵庫教育	● 0 - 6	● 0 - 10	○ 4 - 1	● 2 - 5	○ 7 - 5	2	0	3	4位	
ひょうこ成蹊	● 0 - 10	● 0 - 10	● 2 - 8	● 8 - 10	● 5 - 7	0	0	5	6位	

※1～2位、4～5位は、当該チーム間の直接対戦の勝敗による。

2部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
1位	末方 悠加	神戸親和女子大学	0.786
2位	前川 藍	神戸親和女子大学	0.462
2位	宮原 那奈	関西大学	0.462
4位	小椋 麻紀	大阪国際大学	0.455
5位	土井 美幸	大阪体育大学	0.454
6位	川端めぐみ	大阪国際大学	0.444
7位	福池智恵子	大阪体育大学	0.416

8位	永沢 杏奈	神戸親和女子大学	0.400
8位	中屋 和	神戸親和女子大学	0.400
10位	細見恵莉子	兵庫教育大学	0.384

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
1位	太田 春香	神戸親和女子大学	0.00
2位	石田紗也佳	大阪国際大学	0.87
3位	宮原 那奈	関西大学	2.43

ベストプレイ賞

氏名	大学	守備位置
末方 悠加	神戸親和女子大学	外野手
馬場 春	大阪国際大学	外野手
柳本 藍	大阪体育大学	投手
宮原 那奈	関西大学	外野手
林 加奈子	兵庫教育大学	内野手
西岡 薫未	びわこ成蹊スポーツ大学	内野手

盗塁賞： 藤野 優紀 大阪国際大学
 末方 悠加 神戸親和女子大学
 中屋 和 神戸親和女子大学

記録 8

3部対戦成績表

チーム	佛 教	同 志 社	大阪府立	四天王寺	大阪産業	大阪青山	勝	分	敗	順 位
佛 教	-	● 0-10	● 3-5	○ 12-9	○ 12-3	● 7-8	2	3	0	5位
同 志 社	○ 10-0	-	○ 10-0	○ 9-6	○ 9-0	○ 10-0	5	0	0	1位
大阪府立	○ 5-3	● 0-10	-	● 6-15	○ 7-0	● 3-5	2	3	0	4位
四天王寺	● 9-12	● 6-9	○ 15-6	-	○ 7-0	○ 6-5	3	2	0	2位
大阪産業	● 3-12	● 0-9	● 0-7	● 0-7	-	○ 18-11	1	4	0	6位
大阪青山	○ 8-7	● 0-10	○ 5-3	● 5-6	● 11-18	-	2	3	0	3位

※3～5位は、当該チーム間の直接対戦の勝敗による。

3部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	卯之原瑛里	同志社大学	0.750
2位	小杉はるな	四天王寺大学	0.647
3位	内田真寿美	同志社大学	0.538
4位	浅井みゆき	同志社大学	0.533
5位	杉浦亜衣子	同志社大学	0.500
5位	浦口 真綾	大阪府立大学	0.500
5位	石井 友里	大阪産業大学	0.500
8位	中田美奈代	四天王寺大学	0.471
9位	井関 玲奈	大阪青山大学	0.467
10位	飯田 伸子	四天王寺大学	0.417

ベストプレー賞

氏名	大学	守備位置
杉浦亜衣子	同志社大学	投手
浦口 真綾	大阪府立大学	内野手
千端 早希	大阪産業大学	内野手
藤田 紗季	大阪青山大学	捕手
緒方 泉	佛教大学	外野手
小杉はるな	四天王寺大学	内野手

盗塁賞：井関 玲奈 大阪青山大学 記録12

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	杉浦亜衣子	同志社大学	0.00
2位	井関 玲奈	大阪青山大学	0.29
3位	南 七彩	佛教大学	1.94



4部対戦成績表

チーム	奈良教育	京都女子	撰南	勝	分	敗	順位
奈良教育	● 0-7	● 0-7	0	0	2	3位	
京都女子	○ 7-0	○ 12-2	2	0	3	1位	
撰南	○ 7-0	● 2-12	1	0	1	2位	

4部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	辻井 晶子	京都女子大学	0.714
2位	長南 悠	撰南大学	0.600
3位	蔵元 麻衣	奈良教育大学	0.400
3位	中嶋 馨	京都女子大学	0.400
5位	西村 理沙	京都女子大学	0.375
5位	松尾 有起	撰南大学	0.375

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	藤田佳奈恵	奈良教育大学	8.40
2位	長南 悠	撰南大学	14.00
3位	辻井 晶子	京都女子大学	45.65

ベストプレー賞

氏名	大学	守備位置
辻井 晶子	京都女子大学	内野手
長南 悠	撰南大学	投手
藤田佳奈恵	奈良教育大学	投手

盗塁賞：荒木 舞 京都女子大学
西村 理沙 京都女子大学 記録12

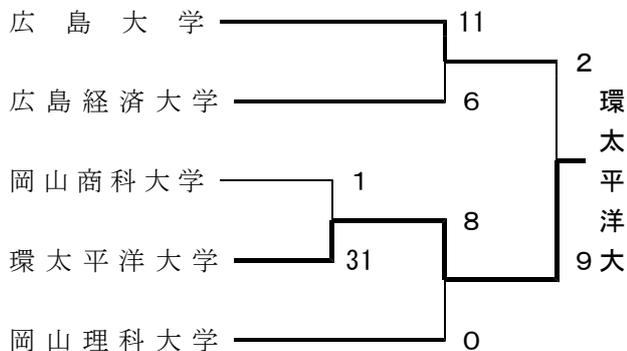
【中国地区】

第47回全日本大学・第44回西日本大学ソフトボール選手権大会中国地区予選会

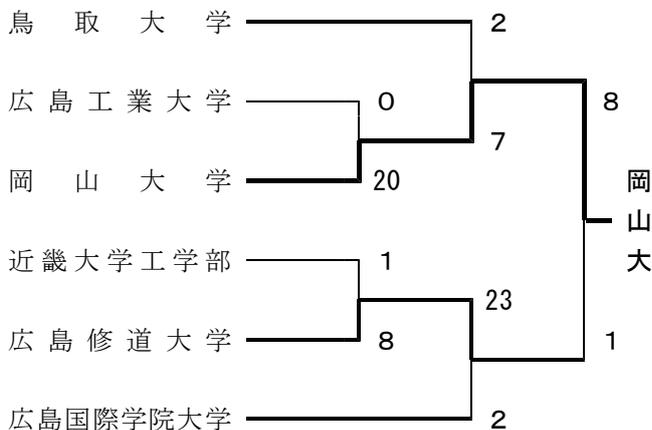
会期：平成24年 5月19日(土)・5月20日(日)

会場：岡山県美咲町／中央運動公園野球場他

男子Aゾーン



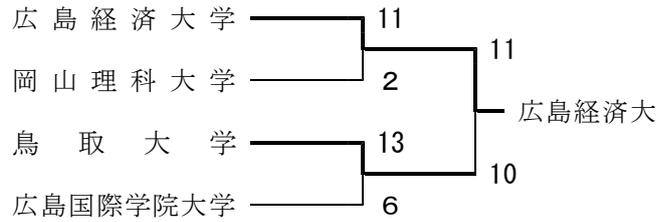
男子Bゾーン



全日本大学選手権大会第三代表決定戦
(A・Bゾーン決勝戦敗退チーム)



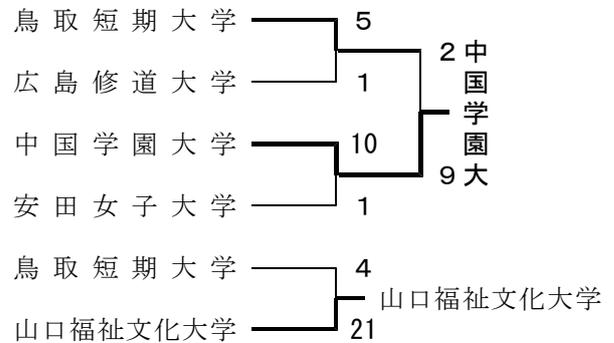
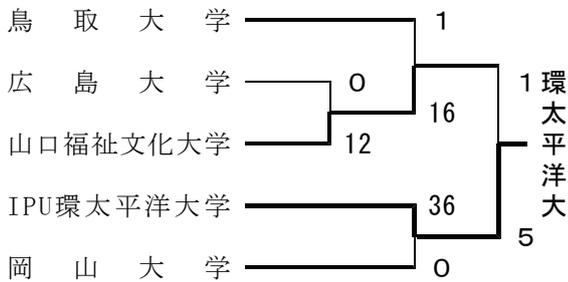
西日本大学選手権大会第5代表決定戦
(A・Bゾーン準決勝戦敗退チーム)



全日本大学選手権大会出場権獲得大学：環太平洋大学(6年連続6回目)・岡山大学(9年ぶり7回目)
広島修道大学(2年連続26回目)

西日本大学選手権大会出場権獲得大学：岡山大学・環太平洋大学・広島修道大学・広島大学・
広島経済大学

女子



全日本大学選手権大会出場権獲得大学：環太平洋大学(6年連続6回目)
中国学園大学(2年連続8回目)
山口福祉文化大学・広島(初)

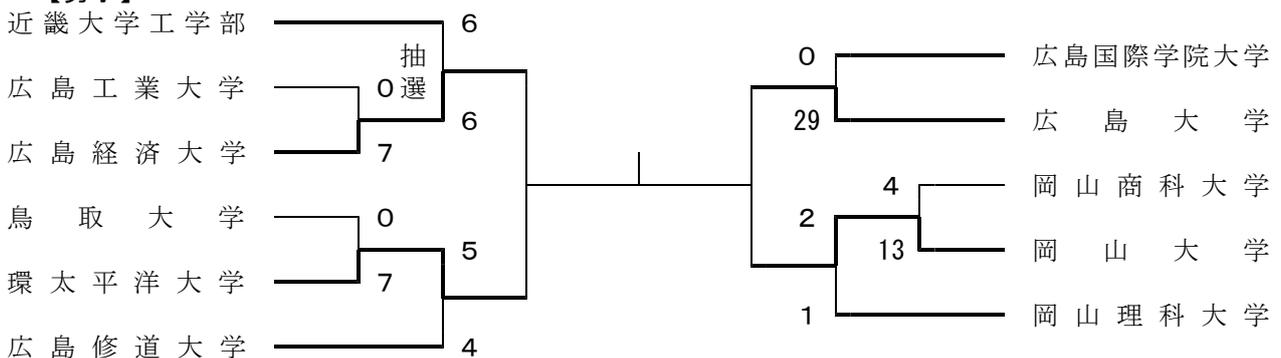
西日本大学選手権大会出場権獲得大学：環太平洋大学・中国学園大学・山口福祉文化大学広島・
鳥取短期大学

第12回 中国地区大学ソフトボール選手権大会

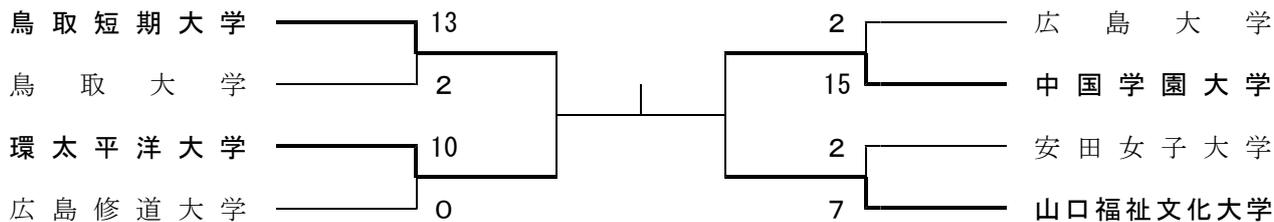
会期：平成24年11月10日(土)

会場：広島市／広島修道大学グラウンド

【男子】



【女子】



※大会は2日目が雨天中止となり、男女ともに準決戦と決勝戦を残し中止となった。

【四国地区】 平成24年度 四国地区大学男子ソフトボール春季大会

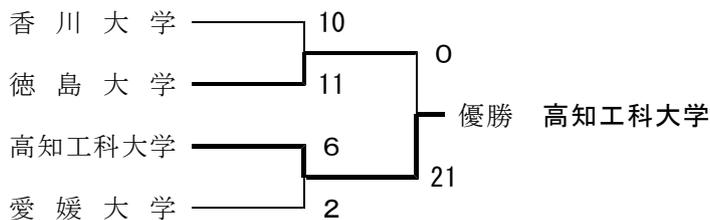
会期：平成24年 4月21日(土)・22日(日)

会場：徳島県徳島市／吉野川北岸運動広場ソフトボール場

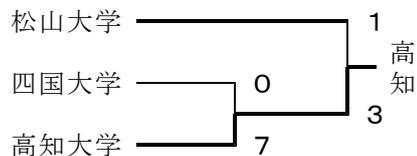
予選A	松山	四国	香川	高工	順
松山	-		* ●	● 3-4	-
四国	* ●	-	● 3-19	* ●	-
香川		○	-	○ 4-2	-
高知工科	○ 4-3	* ●	● 2-4	-	-

予選B	徳島	高知	愛媛	順
徳島	-	○	●	2
高知	● 7-12	-	●	3
愛媛	○ 11-8	○ 8-4	-	1

決勝トーナメント



順位決定戦



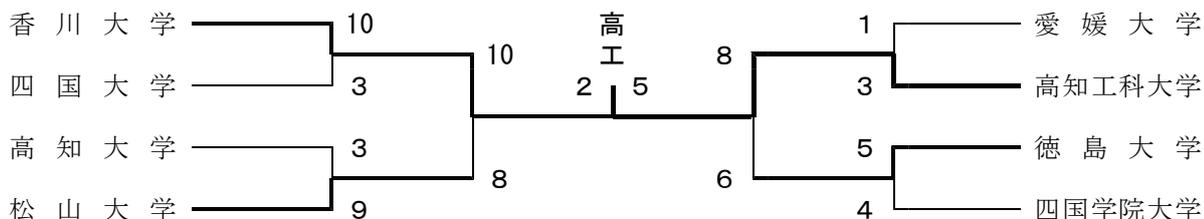
最終順位 優勝：高知工科大学 2位：徳島大学 3位：香川大学・愛媛大学・高知大学
6位：松山大学 7位：四国大学

第47回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会四国予選会
 ー兼、第44回西日本大学ソフトボール選手権大会四国予選会ー

会期：平成24年5月26日(土)・27日(日)

会場：高知県高知市／春野総合運動公園

【男子】



3位決定戦：徳島大学3 - 0松山大学

全日本大学選手権出場権獲得校：高知工科大学（初） 香川大学（2年ぶり11回目）

西日本大学選手権出場権獲得校：高知工科大学・香川大学・徳島大学

【女子】

チーム	四国	香川	環太平洋	勝	敗	順位
四国大学	-	● 8 - 9	● 0 - 10	0	2	3位
香川大学	○ 9 - 8	-	● 1 - 22	1	1	2位
環太平洋大学短大	○ 10 - 0	○ 22 - 1	-	2	0	1位

全日本大学選手権出場権獲得校
 ：環太平洋大学短期大学部
 （15年連続15回目）

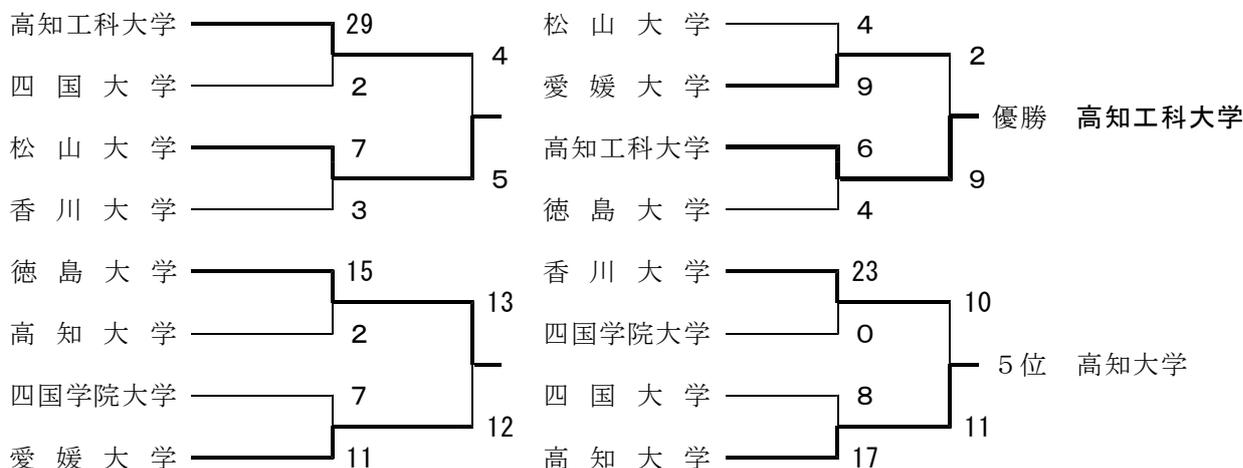
西日本大学選手権出場権獲得校
 ：環太平洋大学短期大学部

平成24年度 四国地区大学(男・女)ソフトボール秋季大会

会期：平成23年10月13日(土)・14日(日)

会場：香川県丸亀出市／ト土器川公園ソフトボール場

【男子】



【女子】

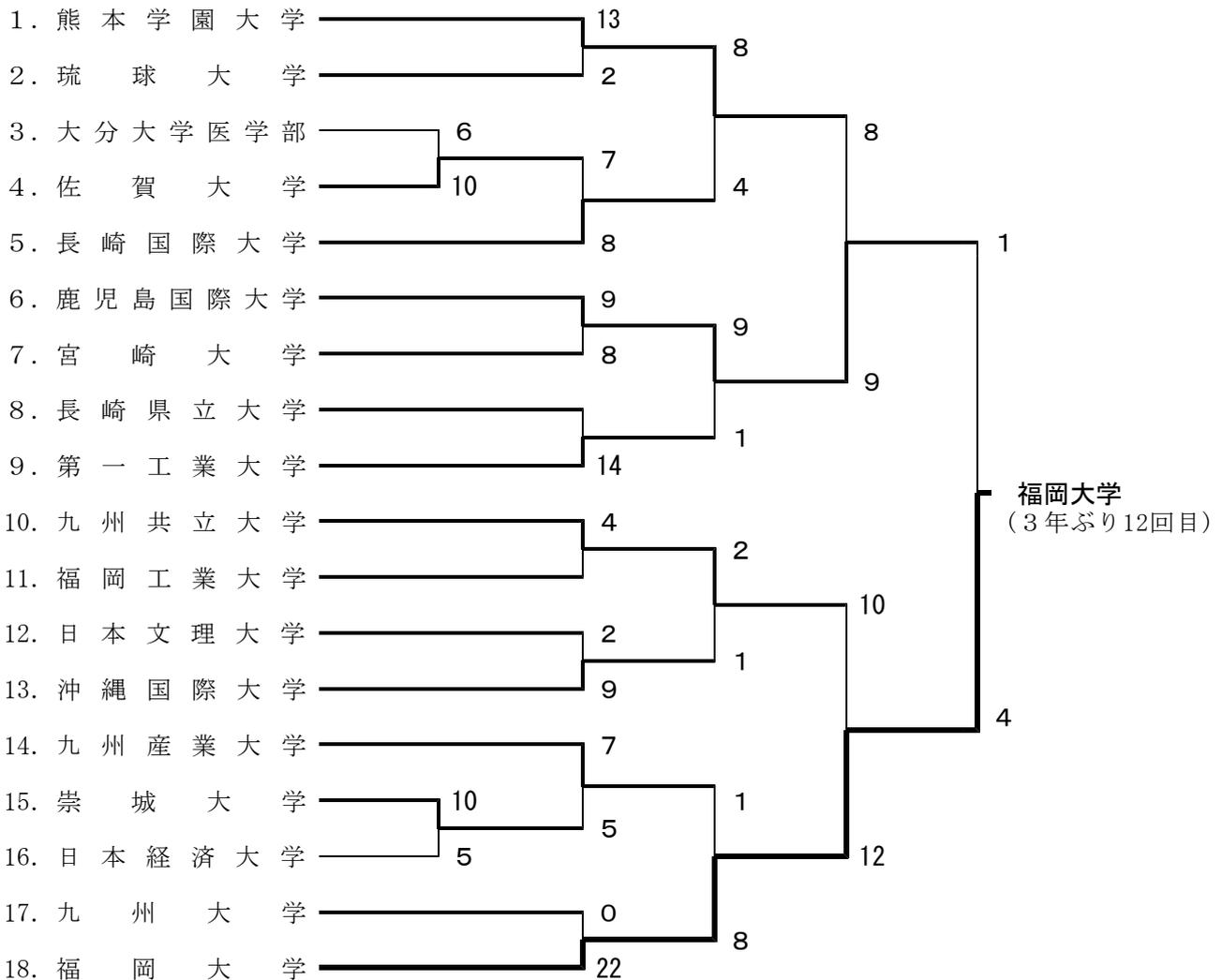
チー ム	環太平洋短	香 川	四 国	勝	分	敗	得点	失点	差	順位
環太平洋大学短大	○9-0	○19-0		2	0	0	28	0	28	1位
香 川 大 学	●0-9		●4-11	0	0	2	4	20	-16	3位
四 国 大 学	●0-19	○11-4		1	0	1	11	23	-12	2位

【九州地区】第31回九州地区大学（男子・女子）ソフトボール春季大会
 （兼、第47回全日本大学（男子・女子）ソフトボール選手権大会予選会）

会期：24年5月19日（土）～20日（日）

会場：鹿児島県知覧町／平和公園多目的球場 他

【男子】



※第47回全日本大学（男子）選手権大会出場権獲得校：福岡大学・鹿児島国際大学・熊本学園大学・九州共立大学

【女子】

チーム	福岡	熊本学園	九州共立	日本文理	勝	分	敗	勝点	順位
福岡		○10-4	○2-0	●4-9	2	0	1	5	2位
熊本学園	●4-10		●1-2	●0-2	0	0	3	2	4位
九州共立	●0-2	○2-1		○2-1	2	0	1	4	3位
日本文理	○9-4	○2-0	●1-2		2	0	1	7	1位

※ゴチック体はタイブレーク試合

※全日本大学選手権の出場権獲得校：日本文理大学・福岡大学

第12回 九州地区大学（男子・女子）ソフトボール秋季大会

会期：平成24年11月10日・11日

会場：鹿児島県知覧町／知覧平和運動公園多目的球場他

【男子】

[予選リンク戦]

Eリンク(3チーム、1位：長崎国際大学)

福岡大学 6-5 宮崎大学
 宮崎大学 6-5 長崎国際大学
 長崎国際大学 5-3 福岡大学

Bリンク(4チーム、1位：鹿児島国際大学)

沖縄国際大学 7-2 九州大学
 鹿児島国際大学 10-3 沖縄国際大学
 鹿児島国際大学 8-1 日本経済大学
 日本経済大学 14-7 九州大学

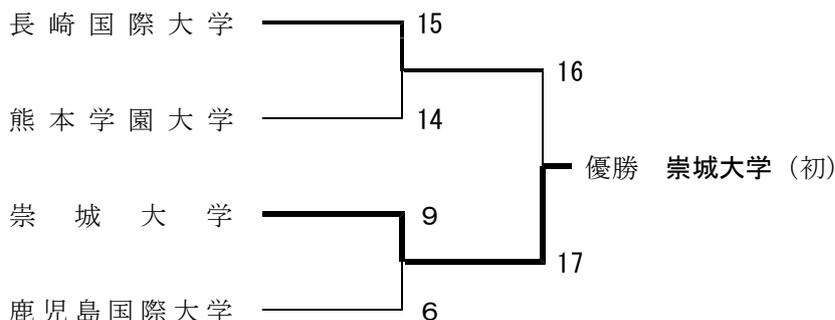
Aリンク(4チーム、1位：崇城大学)

崇城大学 9-3 第一工業大学
 九州共立大学 16-2 第一工業大学
 福岡工業大学 5-2 九州共立大学
 崇城大学 14-2 福岡工業大学

Cリンク(4チーム、1位：熊本学園大学)

九州産業大学 6-4 佐賀大学
 熊本学園大学 9-0 九州産業大学
 熊本学園大学 15-3 長崎県立大学
 長崎県立大学 12-2 佐賀大学

[決勝トーナメント]



【女子】

チーム	日本文理	熊本学園	九州共立	福岡	勝	分	敗	順位
日本文理		○5-3	○4-3	●1-2	2	0	1	2位
熊本学園	●3-5		○6-2	●2-9	1	0	2	3位
九州共立	●3-4	●2-6		●0-7	0	0	3	4位
福岡	○2-1	○9-2	○7-0		3	0	0	1位

【調査研究委員会】

原稿並びに研究企画などの募集

来年度以降も、内容をいっそう充実・発展させていくために、どしどし原稿をお願いします。論説、提言から研究報告、あるいは情報の提供に至るまで、多様なものを期待しています。とともに、こんな研究内容や企画をしてほしい！というようなものがあれば、併せて連絡をくださいますようお願いいたします。特に学生の皆さんから。なお、毎年10月末日が原稿の〆切となりますが、随時受付しておりますので、下記までお問い合わせください。

森田 啓之

〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1 兵庫教育大学

TEL & FAX : (0795) 44-2227

E-mail: hmorita@hyogo-u.ac.jp

投 稿 規 程

平成11年7月30日交付

1. 投稿資格

原稿を投稿できる者は、全日本大学ソフトボール連盟に登録された者（理事、監督、コーチ、選手等）に限る。調査・研究委員会が特に必要と認められた者については、この限りではない。

2. 投稿内容

内容はソフトボールに関したものとし、巻頭言、提言、総説、論文（含、抄録）、実践研究、

事例報告、卒・修論、その他などとする。原稿は、原則として一編につき本誌4ページ以内（巻頭言、提言の場合は1ページ以内）とするが、調査・研究委員会が必要と認めた場合はこの限りではない。なお、未刊行のものが望ましいが、既刊のものであってもよい。

3. 投稿原稿の審査

原則として投稿されたものはすべて受理・採択

する。

なお、書式等に問題がある場合は、調査・研究委員会名で修正を求める場合がある。

4. 原稿の提出

執 筆 要 項

原稿の執筆にあたっては、以下の事項を厳守されたい。

投稿原稿をそのままオフセット印刷するので、原稿を作成する場合は、A4版縦置き横書き、本文は全角22字×40行の2段組（上下余白25mm・左

原稿は所定の執筆要項に準拠して作成し、総説、論文などの別を指定して、調査・研究委員会へ書留郵便で送付する。投稿の締め切りは特に設けないが、毎年10月20日で区切るものとする。

右余白20mm・段間10mm）、文字サイズは10ポイント・和文フォントは明朝体を基本とする。ワープロソフトは、「Word」もしくは「一太郎」とし（「Excel」は認められない。）、CD-Rなどのメディアとともに提出すること。

【広報記録委員会】

全日本大学ソフトボール連盟表彰

全日本大学ソフトボール連盟は、武藤幸政前副会長（城西大学）・吉野みね子前副会長（東京女子体育大学）・黒田重靖前常任理事（富山大学）・岡田万嗣前理事（山梨学院大学）に対し、永年にわたり連盟の役員として運営にご尽力を賜りま

したので「功労表彰」を、また、ソフトボール界からドラフトでプロ野球界に初めて入団した早稲田大学の嶋匠君に対して「特別功労賞」を平成24年3月11日の総合役員会において贈りました。ここに記してお知らせいたします。

第12回 大学ソフトボール東海オープン出場チーム募集

出場のお申し込みは、次の大会要項をご覧ください、お願いいたします。

なお、出場の申し込みは学連HP <http://ww>

w.sgk.ac.jp/ajc-softball/ 上のみから、受け付けています。「大会要項」を必ず熟読してからお願いいたします。

第12回大学ソフトボール東海オープン大会要項

1. 主 催 東海地区大学ソフトボール連盟
2. 主 管 愛知県ソフトボール協会・同西三河支部・豊田市ソフトボール協会・安城市ソフトボール協会
3. 後 援 全日本大学ソフトボール連盟
4. 特別協賛 ダイワマルエス(株)
5. 大会期間 男子：平成25年3月26日(火)・27日(水)、予備日3月28日(木)
女子：平成25年3月20日(水)・21日(木)、予備日3月22日(金)

6. 大会会場 男子：豊田市運動公園ソフトボール場、多目的広場（3球場）
女子：安城市総合運動公園ソフトボール球場、野球場（3球場）
7. チーム数 男子12、女子12、計24チーム
8. 参加資格 全日本大学ソフトボール連盟および(財)日本ソフトボール協会に登録されているチーム、もしくはそのチームの登録選手による合同チームであること。
なお、出場申し込み多数の場合は、各地区における秋季大会の成績と地域性などを参考に主催者が選抜する。
9. 出場資格 主催者によって、出場を認められたチームのあらかじめ選手登録された選手に限る。
このうち試合ごとにベンチに入ることのできるのは、選手25名、部長1名、監督1名、コーチ2名、トレーナー1名、記録員の資格を有するスコアラー1名、主務1名の計32名以内とする。なお、新1年生の出場については出身高校と当該大学部長の承認がある場合は認める。
10. 参加料 1チーム20,000円
11. 申込方法 E-mailアドレス mztn@sgk.ac.jp へmailの件名を「〇〇大学(男女)東海オープン参加申込」とし、1月末日までに申込書を請求すること。また、出場が認められた後、申込書ファイルを返信し、参加料を次の口座へ2月15日(金)までに振り込むこと。
【振込口座】
銀行：三菱東京UFJ銀行大府支店 口座番号(普通) 00*****
名義：ミズタニヒロシ
12. 競技方法 男女各12チームを3チームずつ4グループに分けて予選リーグ戦を1日で実施し、翌日1位グループ・2位グループ・3位グループ各4チームによる順位決定トーナメント戦を行う。
13. 競技規則 2013年度オフィシャルソフトボールルール及び競技運営規則による。
なお、第一日の予選リーグ戦においては、90分を過ぎて次のイニングに入らない。また、サスペンデッドゲーム、点差コールドゲーム及び故意四球を採用する。
14. 使用球 ダイワマルエス社製公認革ボールとし、試合毎に新球を2個提出すること。
15. 審判員 (公財)日本ソフトボール協会公認審判員
16. 表彰 優勝チームに対し賞状と優勝杯・優勝旗杯を、準優勝チームに対し賞状と盾を授与する。なお、優勝杯と優勝旗は持ち回りとする。
17. 組合抽選 2月21日(木)午後5時から安城市総合運動公園体育館会議室において公開代理抽選を行う。
18. 費用 参加チームの旅費、滞在費はすべてチームの負担とする。
19. 傷病等 主催者・管理者は大会期間中における傷害・疾病並びに事故等について一切の責任を負わない。保険証を持参すること。なお、プレイによって損害賠償が生ずるような場合は、保険の範囲内で主催者が対応する。
20. 宿泊弁当 主催者は斡旋しない。ただし、宿泊・弁当については関係機関を紹介する。
21. 備考 出場チームは部長または監督に引率され、チームの行動について責任を負うこと。
22. 問合せ先 至学館大学 水谷 博 E-mail mztn@sgk.ac.jp
23. その他 本大会は、開閉会式や監督会議など競技会の形式を極力省略し、限られた時間と会場において、最大の実質的な成果が得られるよう大会運営を行います。その点をご理解のうえ、ご参加ください。

第10回 全国国公立大学〈男・女〉ソフトボールオープン大会参加募集!!

今年も標記大会を下記の通り実施しますので、各大学チームの参加を募集いたします。
ゲームでの勝敗はもちろんですが、「国公立大学チーム間の交流」を大切にしたい雰囲気で行える運営を心がけますので、ご参加・協力をお願いします。

第10回 全国国公立大学〈男・女〉ソフトボールオープン大会要項

1. 期 日
平成25年3月23日(土)・24日(日)*3/23の夕方に簡単な交流会を予定
※ できるだけ両日参加下さい(両日参加できない場合も可能な限り対応します。)
2. 大会会場
兵庫教育大学ソフトボール場、加東町グラウンド他(計6面を予定)
3. 募集チーム数
男子16チーム程度 女子8チーム(申込多数の場合はお断りする場合があります)
4. 参加費(チーム参加料+傷害保険料)
チーム参加料(1日の場合:3,500円、2日の場合:6,000円)
傷害保険料(1人につき200円) ☆交流会参加の場合は、1人300円を別途徴収。
5. 試合数
1 大学1日1~2試合、1会場1日4~5試合を予定
※ 組み合わせに関しましては、参加チーム数等を勘案しながら決定します。
※ 詳細については開催側にお任せいただけますようお願い申し上げます。
6. 試 合
全試合7回戦(コールドゲームあり。80分ゲーム)
7. ルール
2013年オフィシャルソフトボールルール
8. 審 判
公認審判員(主審のみ)
学生審判(塁審は参加チームで行いますのでご協力下さい。)
9. 宿 泊
原則として関西学生リーグ所属大学以外のチームに斡旋します(4,000~6,500円くらい)。
最も安いのが大学近くの宿泊研修センターで、料金は「宿泊のみで3,700円、食事付き+2500円」(夕食1,800円、朝食700円)(若干の変更あり)です。遠距離のチームにはできる限り安い宿舎を!と考えていますが、原則、先着順ですのでお早めにご連絡下さい。
10. 食 事(昼食)
食堂・弁当屋等は斡旋しますので、各大学でご判断ください(後日案内)。
11. 参加申し込み
必要事項を入力して下記アドレスにメールを送って下さい。受付後、折り返し登録用紙等を添付ファイルで送信します。なお、添付ファイルのやり取りがあるので、PC端末から必ず申し込んで下さい。
【申し込みに際して必要な事項】
1) チーム名(男子or女子)、2) 参加希望日、3) 宿泊希望日と人数(男・女、及び監督等)
4) 申込責任者の氏名、携帯電話番号とアドレス及びPCアドレス、5) その他要望など
12. 申込締め切り
平成25年2月8日(金)
13. 申し込み先(連絡・問い合わせ先)
総務(男子チーム) 上所一也: 兵庫教育大学2年 u11020d@hyogo-u.ac.jp
総務(女子チーム) 藤堂有莉: 兵庫教育大学2年 u11106e@hyogo-u.ac.jp

平成24・25年度
全日本大学ソフトボール連盟役員

職名	氏名	所属	氏名	所属
会長	一谷 宣宏	園田学園女子大学	—	
副会長	中野 元	熊本学園大学	丸山 悟	日本福祉大学
	小嶋 高良	八戸工業大学	—	
顧問	坂井 正郎	国土舘大学名誉教授	角田 真一郎	早稲田大学名誉教授
	水野 信義	WSM教育研究所	斎藤 滋雄	学習院大学名誉教授
	大内 敬哉	中京大学名誉教授	中野 紀明	国土舘大学名誉教授
	末井 健作	姫路県立大学名誉教授	武藤 政幸	城西大学名誉教授
	吉野 みねこ	東京女子体育大学名誉教授	—	
理事長	高橋 伸次	高崎経済大学	—	
副理事長	逢坂 秀樹	鳥取短期大学	岩間 英明	松本大学
常任理事	森田 啓之	兵庫教育大学（事務局長） hmorita@hyogo-u.ac.jp		
	大塚 健樹	盛岡大学	筒井 崇護	日本体育大学
	大塚 隆	東海大学	矢澤 久史	東海学院大学
	久保田 豊司	大阪国際大学	宮尾 直海	愛媛女子短期大学
	濱 貴一	熊本学園大学	—	
理事	舟山 健一	東北福祉大学	高橋 和美	富士大学
	森田 一雄	金沢学院大学	丸山 克俊	東京理科大学
	立山 利治	国際武道大学	石井 雅章	城西大学
	清水 正	山梨学院大学	藤原 徹	東京富士大学
	高橋 流星	日本体育大学	水谷 博	至学館大学
	山本 英弘	朝日大学	二瓶 雄樹	中京大学
	大矢 隆二	常葉学園大学	鈴木 正明	四天王寺大学
	板谷 昭彦	園田学園女子大学	秋澤 俊史	摂南大学

理事	山本 孔一	IPU環太平洋大学	新垣 實	沖縄国際大学
	富田 国興	(広島修道大学)	吉末 和也	関西大学
評議員	飯島 隆	盛岡大学	友坂 敏信	富山大学
	櫻井 佳代子	新島学園短期大学	高橋 光平	城西国際大学
	佐藤 理恵	東京女子体育大学	谷口 佳津宏	南山大学
	松井 健	日本福祉大学	菅野 貴広	静岡大学
	川崎 千明	岐阜経済大学	大島 新司	大阪工業大学
	太田 貴久男	佛教大学	但尾 哲哉	神戸親和女子大学
	児玉 公正	大阪大谷大学	落合 功	広島修道大学
	伊勢 幸広	高知工科大学	山中 卓	鹿児島国際大学
	嶋田 奈々恵	日本文理大学	—	
監事	平野 義明	関西大学	細田 きみ子	東京女子体育大学
事務局	〒370-0801 高崎市上並榎町1300 高崎経済大学 高橋伸次			
	FAX : (027) 343-4840		E-mail : takahas@tcue.ac.jp	
学生委員長	生野 裕樹	慶應義塾大学	—	
学生副委員長	近藤 雄太	関西大学	金山 美穂	中央大学
学生委員	佐々木 一貴	城西大学	金杉 芽依	東海大学
	北 早織	松本大学	有家 彩	桜美林大学
	首藤 弘樹	文教大学湘南	高崎 亮子	成蹊大学
	舘林 亮輝	名古屋大学	濱野 弘幹	関西大学
	田原 茜	園田学園女子大学	小西 このみ	園田学園女子大学
	渡邊 直子	鳥取短期大学	林 志歩	環太平洋短期大学

平成24年度 男子加盟大学一覧		
全日本大学ソフトボール連盟		
地 区	数	加 盟 大 学 名
北海道・東北	10	仙台大学 東北大学 東北学院大学 日本大学工学部 八戸工業大学 弘前大学 福島大学 北海道大学 宮城教育大学 盛岡大学
関 東	19	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 芝浦工業大学 城西大学 城西国際大学 高崎経済大学 千葉大学 筑波大学 中央学院大学 都留文科大学 東海大学 東京国際大学 東京理科大学 日本大学生物資源科学部 日本大学生産工学部 文教大学 山梨学院大学
北 信 越	7	石川県立大学 金沢大学 信州大学 富山大学 長野大学 福井大学 福井県立大学
東 京	21	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国際基督教大学 国士舘大学 専修大学 成蹊大学 中央大学 帝京大学 東京大学 東京学芸大学 東京農業大学 東洋大学 日本大学 日本体育大学 文教大学湘南 東京都市大学 明治大学 明星大学 立教大学 早稲田大学
東 海	16	愛知大学 愛知学院大学 愛知教育大学 朝日大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 中京大学 中京学院大学 中部大学 東海学園大学 常葉学園大学 名古屋大学 名古屋商科大学 南山大学 日本福祉大学 名城大学
近 畿	25	大阪大学 大阪経済大学 大阪工業大学 大阪産業大学 大阪市立大学 大阪体育大学 大阪府立大学 関西大学 関西学院大学 京都大学 京都学園大学 京都産業大学 近畿大学 神戸大学 神戸学院大学 甲南大学 四天王寺大学 同志社大学 奈良教育大学 兵庫教育大学 佛教大学 立命館大学 龍谷大学 流通科学大学 和歌山大学
中 国	12	岡山大学 岡山商科大学 岡山理科大学 川崎医科大学 環太平洋大学 近畿大学工学部 鳥取大学 広島大学 広島経済大学 広島工業大学 広島修道大学 広島国際大学
四 国	8	愛媛大学 香川大学 高知大学 高知工科大学 四国大学 四国学院大学 徳島大学 松山大学
九 州	20	沖縄国際大学 大分大学医学部 鹿児島国際大学 九州大学 九州共立大学 九州産業大学 熊本学園大学 久留米工業大学 佐賀大学 崇城大学 第一工業大学 長崎大学 長崎県立大学 長崎国際大学 日本文理大学 日本経済大学 福岡大学 福岡工業大学 宮崎大学 琉球大学

平成24年度 女子加盟大学一覧

全日本大学ソフトボール連盟

地 区	数	加 盟 大 学 名
北海道・東北	8	仙台大学 東北福祉大学 弘前大学 富士大学 北翔大学 宮城教育大学 宮城学院女子大学 盛岡大学
関 東	18	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 相模女子大学 淑徳大学 順天堂大学 城西大学 城西国際大学 清和大学 千葉大学 筑波大学 東海大学 東京国際大学 日本大学生物資源科学部 新島学園短期大学 文教大学 山梨学院大学
北 信 越	7	金沢大学 金沢学院大学 上越教育大学 信州大学 富山大学 福井大学 松本大学
東 京	20	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国士舘大学 国際基督教大学 駒澤大学 実践女子大学 専修大学 成蹊大学 創価大学 中央大学 東京学芸大学 東京女子体育大学 東京富士大学 東洋大学 日本大学 日本女子体育大学 日本体育大学 明治大学 早稲田大学
東 海	13	愛知教育大学 至学館大学 岐阜経済大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 鈴鹿国際大学 中京大学 中京学院大学 東海学院大学 東海学園大学 常葉学園大学 名古屋大学 日本福祉大学
近 畿	24	大阪青山大学 大阪国際大学 大阪産業大学 大阪体育大学 大阪府立大学 大阪大谷大学 関西大学 京都女子大学 神戸親和女子大学 四天王寺大学 摂南大学 園田学園女子大学 太成学院大学 天理大学 同志社大学 奈良教育大学 奈良文化女子短期大学 兵庫教育大学 びわこ成蹊スポーツ大学 佛教大学 武庫川女子大学 立命館大学 龍谷大学 流通科学大学
中 国	10	岡山大学 川崎医療福祉大学 環太平洋大学 中国学園大学 鳥取大学 鳥取短期大学 広島大学 広島修道大学 安田女子大学 山口福祉文化大学
四 国	3	環太平洋大学短期大学 香川大学 四国大学
九 州	4	九州共立大学 熊本学園大学 日本文理大学 福岡大学
男 子	138大学	
女 子	107大学	
合 計	245大学	平成24年12月1日現在

編 集 後 記

昨年11月、田中前文部科学大臣が行った新設大学不認可の発言は、記憶に新しい。私立大学の半数近くが定員割れを起こしている現状は、大学冬の時代である。その原因は少子化の影響—18歳人口の減少が大きいが、それだけではないであろう。大学ソフトボール界もこのところ、登録チーム数・選手数とも停滞もしくは減少気味である。女子は新興勢力が力を付けてきてはいるが、伝統校の選手数は減少している。東アジアカップの優勝に端的に示されるように競技力は向上しているものの、大学間にその差が大きくなっているように思われる。底辺を広げなければ頂点はいずれは崩れる。ソフトボール経験者が女子野球に流れるのを防ぐとともに、こどもたちにソフトボールのおもしろさを実感させなければならない。

学校体育にソフトボールが取り入れられたことは、柔道のように話題にはならなかった。私の子ども時代、ソフトボールは授業で扱われていなかった。野球がこんなに盛んな日本で、なぜ学校の体育授業でソフトボールができないのか不思議でならなかった思い出がある。ようやく体育の主要な教材に位置づけられたのに、現状の実施率は低いようである。学校体育ソフトボール用の用具も市販されているが、高価な用具費とその管理の煩雑さがソフトボールの実施を阻む大きな原因になっているのであろう。諸外国では発展途上国も含めて、グローブを用いないクリケットがサッカーと同じように広く楽しまれていることを参考にして定着を図りたいものである。実施率の向上がなければ、ソフトボールは体育の教材から削除されて再び取り入れられることはないであろう。この機を逃してはならない。

そんな危機感から、これを取り扱った卒業論文の要約を掲載しました。これを含めて本誌に原稿や情報をお寄せいただいた方々に感謝申し上げます。

広報記録部会：水谷 博（至学館大学）・山本英弘（朝日大学）・矢澤久史（東海学院大学）

表紙デザイン：川北卓史（長野県安曇野市在住）

全日本大学ソフトボール連盟機関誌 **ウインドミル** 第16号

2013年1月15日発行

発 行 者 全日本大学ソフトボール連盟会長 一谷 宣宏

編集責任者 広報記録部長 水谷 博

E-mail : mztn@sgk.ac.jp

発 行 所 全日本大学ソフトボール連盟

〒370-0801 高崎市上並榎町1300 高崎経済大学

FAX (027)343-4840

URL <http://www.sgk.ac.jp/ajc-softball/>

E-mail : takahas@tcue.ac.jp

印 刷 西濃印刷(株)

〒500-8074 岐阜市七軒町15番地

TEL (058)263-4101

ISSN 1343-439X

asics BASEBALL

最新、最速。

ASICS BASEBALL

始まる。

ASICS BASEBALL、それは最も新しい野球のカタチ。
目指すのは、旧来の野球のイメージを軽やかに越えていく、
全く新しいスピード・ベースボール。

ASICSが誇る、膨大な知見と確かな技術力が、
プレイヤーの能力を限界まで引き出す。

最も新しく、最も速い。

それがASICS BASEBALL。

野球の進化は、ここから始まる。

さあ、準備はいいか。

asics

ASICS BASEBALL 始まる





ウインドミル NO.16 (2012)

ISSN 1343-439X